



もっと知ったからパソコン

オプション周辺機器の取り付けに挑戦！

機能や設定など、もっと知りたいあなたに！  
パソコン各部の名前や仕様一覧も収録！

# マニュアルを活用しよう

このパソコンには次のマニュアルや練習ソフトが用意されています。  
『はじめにお読みください』でセットアップを終了したら、目的に応じて次のマニュアルや練習ソフトを活用してください。



『はじめにお読み  
ください』

このパソコンの機能をもっと使いこなしたい!

『もっと知りたいパソコン』

- ・ パソコンの機能を詳しく知る
- ・ 周辺機器を接続する
- ・ パソコンのメンテナンスをする
- ・ BIOSの設定を変更する



パソコン初心者な  
ので、基本的なこと  
から覚えたい!



『パソコンのいろは』

- ・ NXパッドの使いかた
- ・ 文字の入力のしかた
- ・ Windowsの基本操作を覚える
- ・ インターネットの練習

困ったなあ、どうしたらいいのかな?



『困ったときのQ&A』

- ・ トラブルを解決する
- ・ パソコンを再セットアップする

知りたいことを画面上で調べてみよう



『はろガイド』(電子マニュアル)

- ・ インターネットやメールをする
- ・ 文字の入力のしかた
- ・ Windowsの基本操作
- ・ 添付のアプリケーションを使う
- ・ トラブルを解決する
- ・ アプリケーションを追加 / 削除する
- ・ サービス&サポート窓口紹介
- ・ BIGLOBEに入会する

巻末に簡単な操作方法が載っています。

# はじめに

このマニュアルは、パソコンの機能全般についての取扱説明書です。各機能について詳しく知りたいときや周辺機器を接続したいとき、パソコンの設定を変更したいときなど、必要に応じて活用してください。

2002年1月 初版

# 表記について

## 記号

パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

 <b>警告</b>	注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
 <b>注意</b>	注意事項を守っていただけない場合、人が損害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。
 感電注意	注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意、けが注意についても、それぞれ記載しています。

## その他の記号

 <b>チェック</b>	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性がります。
 <b>メモ</b>	利用の参考となる補足的な情報や、用語について説明しています。
 <b>参照</b>	関連する情報が書かれている所を示しています。

## モデル

モデルの呼びかた

LaVie J	LJ700、LJ500、LJ300、LG80JJ、LG65HJ を指します。
LaVie M	LM500、LG85JV を指します。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを内蔵しているモデルです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを内蔵、または外付けCD-R/RWドライブを添付しているモデルです。
CD-ROMモデル	外付けCD-ROMドライブを添付しているモデルです。
Bluetooth™モデル	Bluetooth™インターフェイスを内蔵しているモデルです。
2.4GHzワイヤレスLANモデル	2.4GHzワイヤレスLANインターフェイスを内蔵しているモデルです。
LANカード添付モデル	LANカードが添付されているモデルです。
LAN内蔵モデル	LANインターフェイスを内蔵しているモデルです。

:LaVie Gシリーズの製品です。本文中の記載は、上記のモデル名で説明しています。

### LaVie Gシリーズについて

LaVie Gシリーズの各モデルについては、添付の『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

## 記載内容

- ・本文中に記載されているCD/DVDドライブは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-ROMドライブのいずれかを指します。
- ・本文中に記載されているCD/DVDプレーヤボタンは、CDプレーヤボタンまたはCD/DVDプレーヤボタンを指します。
- ・本文中に記載されているBIOSセットアップユーティリティは、画面上では「Phoenix BIOS セットアップユーティリティ」と表示されます。
- ・イラストや画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本文中に記載の画面は、実際の画面と多少異なることがあります。

## ソフトウェアの正式名称

Windows、 Windows XP	次のいずれかを指します。 ・Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 ・Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版
インターネット エクスプローラ、 Internet Explorer	Microsoft® Internet Explorer 6.0
Outlook Express	Microsoft® Outlook® Express 6.0
RecordNow DX	VERITAS RecordNow DX
スナップショット	スナップショット Ver2.1
VideoStudio	Ulead® VideoStudio® 5 SE Basic
iモード	i-mode、アイモード
アイモーニング	生活情報ポータル アイモーニング for Windows V02L01

# このマニュアルに出てくる基本的な操作

## キーボードでの操作

キーボードでの操作は、【 】で囲んで記載しています。

記載例	意味
【F2】を押す	キーボードの  を押すことを表しています。
【Ctrl】+【Alt】+【Del】	 と  を押しながら同時に  を押すことを表しています。

## 「スタート」ボタンからの操作

Windowsの「スタート」ボタンから行う操作は、「 」で囲んで記載しています。

記載例	意味
「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」「アクセサリ」「システムツール」「システムの復元」をクリックする	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを表しています。

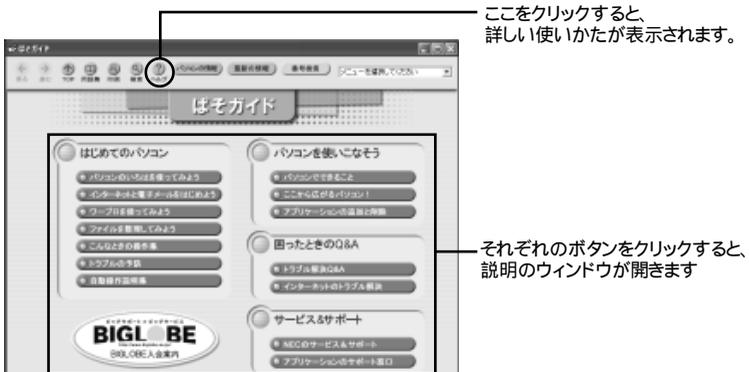
## 「ばそガイド」の使いかた

このパソコンには、電子マニュアル「ばそガイド」がインストールされています。

ばそガイドを起動するには

ばそガイドは、次のようにして起動してください。

- ・デスクトップの「ばそガイド」アイコン(  )をダブルクリックする



## 「パソコンでできること」の使いかた

「ばそガイド」ウィンドウで「パソコンでできること」をクリックすると、次のような画面が表示されます。



ここをクリックすると、アプリケーションの50音別一覧が表示されます

やりたいことから操作方法を探す場合は、このボタンをクリックします

このマニュアルでは、「パソコンでできること」からの参照先は、すべて「50音別目次」からの参照先を記載しています。

---

## 「デバイス マネージャ」の開きかた

次のようにするとデバイス マネージャを開くことができます。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」をクリックする  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックする  
「パフォーマンスとメンテナンス」ウィンドウが表示されます。
- 3 「システム」をクリックする  
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「ハードウェア」タブをクリックする
- 5 「デバイス マネージャ」ボタンをクリックする  
「デバイス マネージャ」ウィンドウが表示されます。

# マルチユーザー機能を使用するときの注意

## 使用するときの注意

1台のパソコンに複数のユーザーを登録し、ユーザーごとに使用環境を切り替えて使うマルチユーザー機能では、使用するとき次のようなことを注意してください。

- ・ユーザーを追加するときは、コンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンして設定を行ってください。制限付きアカウントとしてのユーザーでログオンした場合、アプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- ・あるユーザーがアプリケーションを使用中に、ユーザーを切り替えて別のユーザーが同じアプリケーションを起動すると、正常に動作しないことがあります。このような場合は、ユーザーを切り替える前にアプリケーションを終了してください。
- ・「バックアップ-NX」でバックアップするときは、ログオンしたときのユーザー名でのデータをバックアップします。複数ユーザーを登録したパソコンで、すべてのユーザーのデータをバックアップするには、ユーザーの数だけログオンしなおして、データをバックアップしてください。
- ・「バックアップ-NX」でデータを復元するときも、ログオンしたときのユーザー名でのデータを復元します。すべてのユーザーのデータを復元するとき、ユーザーの数だけログオンしなおして、データの復元を行ってください。なお、バックアップしたときと復元するときでユーザー名が異なると、うまく復元できないことがあります。
- ・パソコンの再セットアップを行うときには、ユーザー名を入力します。その際は、再セットアップ前のユーザー名と同じユーザー名を入力してください。一文字でも違っていると、別のユーザー名と認識され、「バックアップ-NX」を使ってのデータの復元ができないものがあります。
- ・一部のアプリケーションでは、マルチユーザー環境であっても、アプリケーションデータはパソコン共通のデータ（パソコンで1つ、個々のユーザーごとには作成されない）となることがあります。たとえば、アイモーニングのスケジュールなどは、ユーザー固有のものではなく、そのパソコンを使用しているユーザーすべてに共通のものとなります（自分が書き込んだスケジュールを、他のユーザーがログオンしたときにも見られます）。
- ・パソコンの使用中にユーザーの切り替えを行うときは、他のユーザーがデータの編集でないか確認してください。データの編集中にユーザーの切り替えをして、別のユーザーがWindowsを終了しようとする、編集中のデータがある旨のメッセージが表示されます。そこでWindowsを終了すると、他のユーザーが編集中のデータは失われます。



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

### 技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんが、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	認証番号
LaVie M	A01-0849JP

### 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

### 漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

### 瞬時電圧低下について

[ バッテリパックを取り付けていない場合 ]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[ バッテリパックを取り付けている場合 ]

本装置にバッテリパック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

### レーザー安全基準について

このパソコンには、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD/DVDDドライブが内蔵または添付されています。

## ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindowsは本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROMまたはDVD-ROMは、本機のみでしかご利用になれません( 詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

### 2.4GHzワイヤレスLANモデルの場合の注意

- ・ 本製品には、2.4GHz帯高度化小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品は、2.4GHz全帯域(2.4GHz ~ 2.4835GHz)を使用する無線設備であり、移動体識別装置の帯域(2.427GHz ~ 2.47075GHz)が回避可能です。変調方式としてDS-SS方式を採用しており、与干渉距離は40mです。



- ・ 本製品は、日本国における電波法施行規則第6条第4項第4号「小電力データ通信システムの無線局」を満足した無線設備であり、日本国における端末設備等規則第36条「電波を使用する自営電気通信端末設備」を満足した端末設備です。分解や改造などを行っての運用は違法であり、処罰の対象になりますので絶対に行わないでください。また、本製品は日本国以外ではご使用になれません。
- ・ 本製品の電波出力は、社団法人電波産業会が策定した「電波防護標準規格(RCR STD-38)」に基づく基準値を下回っています。
- ・ 本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要しない無線局)が運用されています。
  - ・ 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  - ・ 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止してください。
  - ・ その他、本製品から移動体識別用特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、NEC 121コンタクトセンターまでご相談ください。  
NEC 121コンタクトセンター  
(フリーコール)0120-977-121
- ・ 自動ドアや火災報知機等、自動制御機器の周辺では、本製品は使用しないでください。自動制御機器の電子回路に影響を与え、誤動作の原因となる場合があります。

- ・ 一般の電話機やテレビ、ラジオ、その他の無線を使用する機器などをお使いになっている近くで本製品を使用すると、それらの機器に影響を与えることがあります(本製品の電源を入/切することで影響の原因になっているかどうか判別できます)。この場合、次のような方法で電波干渉を取り除くようにしてください。
  - ・ 本製品と影響を受けている装置の距離を離してください。
  - ・ 影響を受けている装置が使用しているコンセントと別の電気系統のコンセントから、本製品の電力を供給してください。
  - ・ 電話機やテレビ、ラジオの干渉について経験のある技術者に相談してください。
- ・ トラック無線(CB無線)やアマチュア無線などを違法に改造した無線機から影響を受ける場合には、影響を受ける場所・時間を特定し、ご使用場所の管轄の電波管理局へ申し入れてください。詳しくは、ご使用場所管轄の電波管理局へお問い合わせください。
- ・ 他の無線機器から影響を受ける場合には、使用周波数帯域を変更するなど、混信回避のための処置を行ってください。さらに、前記処置を行っても影響が軽減されないときは、NEC 121コンタクトセンターまでご相談ください。
- ・ 電子レンジなど、本製品と同じ周波数帯域を使用する産業・科学・医療用機器から影響を受ける場合には、使用周波数帯域を変更するなど、混信回避のための処置を行ってください。さらに、前記処置を行っても影響が軽減されないときは、NEC 121コンタクトセンターまでご相談ください。
- ・ 本製品は、電波の特性上、設置場所によって通信距離や通信容量が異なります。
- ・ 本製品は、ネットワーク名を設定することにより、無線ネットワークでの不正アクセスを防止することが可能です。
- ・ 本製品は、暗号キーを設定することにより、無線区間での漏洩・傍受を防ぐことが可能です。
- ・ 本製品のセキュリティ向上のため、ネットワーク名と暗号キーを定期的に変更されることをお勧めします。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、OutlookおよびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Adobe、AcrobatおよびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。

Virtual CDは、Far Stone Tech, Inc.の登録商標です。

携快電話は、ソースネクスト株式会社の登録商標です。

Ulead、VideoStudioは、Ulead Systems, Inc.の登録商標です。

Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

Celeronは、Intel Corporationの商標です。

SpeedStepは、Intel Corporationの商標です。

Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPIは、Microcom, Inc.の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

VERITAS RecordNowは、米国VERITAS Software Corp.の米国における登録商標です。

cdmaOneは、CDGの登録商標です。

「i-mode / アイモード」、「DoPa」は㈱NTTドコモの登録商標です。

「i-morning」「アイモーニング」は㈱デジタルアドベンチャーの商標です。

「BIGLOBE」「SmartGallery」「BusBrain」「イルミネーション・エンブレム」は、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

Bluetooth™はその商標権者が所有しており、NECはライセンスに基づき使用しております。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

---

©NEC Corporation, NEC CustomTechnica, Ltd. 2002

日本電気株式会社、NECカスタムテクニカ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

---

#### 輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等を行っていません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

#### Notes on export

This product( including software )is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC\*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC\*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product( including carrying it as personal baggage )may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

\*1:NEC Corporation, NEC CustomTechnica, Ltd.

---

<b>このパソコンの基本機能</b> .....	1
本体の各部の名称 .....	2
LaVie J .....	2
LaVie M .....	4
ボタン / スイッチ .....	6
ワンタッチスタートボタン .....	6
CD/DVDプレーヤボタン( LaVie Mのみ ) .....	7
表示ランプ .....	8
表示ランプの名称と役割 .....	8
キーボード .....	11
キーの名称 .....	11
キーの使いかた .....	13
キーボードの設定をする .....	15
別売のキーボードを使うには .....	15
NXパッド .....	16
名称と役割 .....	16
スクロールスライドスイッチまたはスクロールボタンを使う .....	17
NXパッドの設定をする .....	19
ハードディスク .....	20
ハードディスクを使用するときの注意 .....	20
フロッピーディスクドライブ .....	21
フロッピーディスクを使う .....	21
フロッピーディスクドライブの接続のしかたと取り外しかた .....	21
使用できるフロッピーディスクの種類 .....	23
フロッピーディスクドライブを使用するときの注意 .....	23
フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた .....	23
CD / DVDドライブ .....	25
CD / DVDドライブを使う .....	25
CD - R / RWドライブまたはCD - ROMドライブの 接続のしかたと取り外しかた( LaVie Jのみ ) .....	25
名称と役割 .....	28
使用できるディスク .....	32
CD / DVDドライブを使用するときの注意 .....	33
ディスクのセットのしかたと取り出しかた .....	35
音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生する .....	41

CD-RやCD-RWにデータを書き込む (CD-R/RW with DVD-ROMモデル、CD-R/RWモデルのみ) .....	44
<b>液晶ディスプレイ</b> .....	45
解像度と表示色 .....	45
解像度と表示色の設定 .....	46
画面表示を調整する .....	47
バーチャルスクリーン .....	48
ディスプレイストレッチ機能 .....	48
画面回転機能( LaVie Jのみ ) .....	49
<b>バッテリー</b> .....	51
バッテリーのみで使う .....	51
バッテリーを充電する .....	51
バッテリーの残量を確認する .....	52
バッテリーリフレッシュ .....	54
バッテリーパックを交換する .....	57
バッテリー容量を増やす .....	62
<b>省電力機能</b> .....	67
省電力機能とは .....	67
省電力機能を使用するときの注意 .....	67
スタンバイ状態( サスペンド ) .....	69
休止状態( ハイバネーション ) .....	71
スタンバイ状態や休止状態から復帰させる .....	72
<b>セキュリティ機能</b> .....	73
このパソコンのセキュリティ機能 .....	73
パスワードを設定してパソコンの使用者を制限する .....	73
<b>サウンド機能</b> .....	77
音量を調節する .....	77
光デジタルオーディオ( S/PDIF )出力機能について .....	77
音楽CDからのデジタル出力設定 .....	79

**通信機能**..... 81

<b>モデム</b> .....	82
内蔵モデムを利用する .....	82
内蔵モデムを使用するときの注意 .....	83
接続先を設定する .....	84

インターネットへの通信環境を切り替える	84
テレビ電話	85
テレビ電話とは	85
ヘッドフォンマイクとUSBカメラを接続する	85
テレビ電話をはじめ	89
携帯電話 / PHS接続機能	90
携帯電話またはPHSと接続する	90
携帯電話 / PHS接続機能を使用するときの注意	91
接続先を設定する	91
ダイヤル設定のしかた	92
いろいろなデータ通信を行う	93
携帯電話連携機能	95
携帯電話に登録してある情報を編集する	95
iモード機能を備えている携帯電話と連携して使う	95
LAN(ローカルエリアネットワーク)	99
LANに接続するときの注意	99
LANに接続する	99
電源回復(スタンバイ状態からの復帰)の設定 (LAN内蔵モデルのみ)	101
ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)	102
CATVでインターネットを利用する	102
2.4GHzワイヤレスLAN	103
2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用するときの注意	104
接続できる2.4GHzワイヤレスLAN製品	105
2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン / オフ	106
2.4GHzワイヤレスLANの設定を行う	107
ADSLについて	108
ADSLの特長	108
Bluetooth™機能	109

PART

3

**周辺機器を使う** ..... 111

このパソコンに接続できる周辺機器	112
LaVie J	112
LaVie M	114
周辺機器を接続する前に	116

周辺機器を利用する	116
周辺機器を利用するときの注意	116
周辺機器の取り外しと再接続	119
周辺機器をえるようにセットアップする	119
プリンタ	121
プリンタを使う準備	121
マウス	123
マウスを使用する	123
外部ディスプレイ	124
CRTディスプレイを使う	124
プロジェクタを使う	126
テレビを使う(LaVie Mのみ)	126
表示するディスプレイを切り替える	126
複数のディスプレイに同時表示する	127
外部ディスプレイを接続するときの注意	127
PCカード	128
使用できるPCカードの種類	128
PCカードを使用するときの注意	128
PCカードのセットのしかたと取り出しかた	128
コンパクトフラッシュカード(LaVie Jのみ)	132
コンパクトフラッシュカードについて	132
コンパクトフラッシュカードのセットのしかたと取り出しかた	132
メモリ	134
メモリを増設する	134
増設RAMボードを取り扱うときの注意	134
増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた	135
IEEE1394対応機器	142
IEEE1394コネクタについて	142
IEEE1394対応機器の接続のしかたと取り外しかた	142
IEEE1394コネクタで取り込んだ映像を再生 / 編集する	143
IEEE1394コネクタでファイルを転送する	144
ベイ(LaVie Mのみ)	145
ベイで使用できる機器	145
ベイの機器を交換する	145
USB 対応機器	147

USBコネクタについて .....	147
USB対応機器の接続のしかたと取り外しかた .....	149
ヘッドフォン / オーディオ / 光デジタル	
オーディオ (S/PDIF) 出力端子 .....	150
オーディオ機器やヘッドフォンの接続のしかた .....	150
その他の機器 .....	151
その他の周辺機器について .....	151
DCコネクタ .....	151

## BIOS セットアップユーティリティ ..... 153

BIOSセットアップユーティリティ .....	154
BIOSセットアップユーティリティを使ってできること .....	154
BIOSセットアップユーティリティを使う .....	154
BIOSセットアップユーティリティを終了する .....	156
購入時の値に戻す .....	157
設定項目一覧 .....	157

## 付録 ..... 163

本体機能一覧 .....	164
LJ700 / LJ500 / LJ300 .....	164
LG80JJ / LG65HJ .....	166
LM500 .....	168
LG85JV .....	170
内蔵FAXモデム .....	172
携帯電話 / PHS接続機能 .....	174
内蔵LAN .....	175
2.4GHzワイヤレスLAN .....	176
割り込みレベルとDMAチャネル .....	177
割り込みレベルとDMAチャネルについて .....	177

## 索引 ..... 179

P A R T

# 1

## このパソコンの基本機能

---

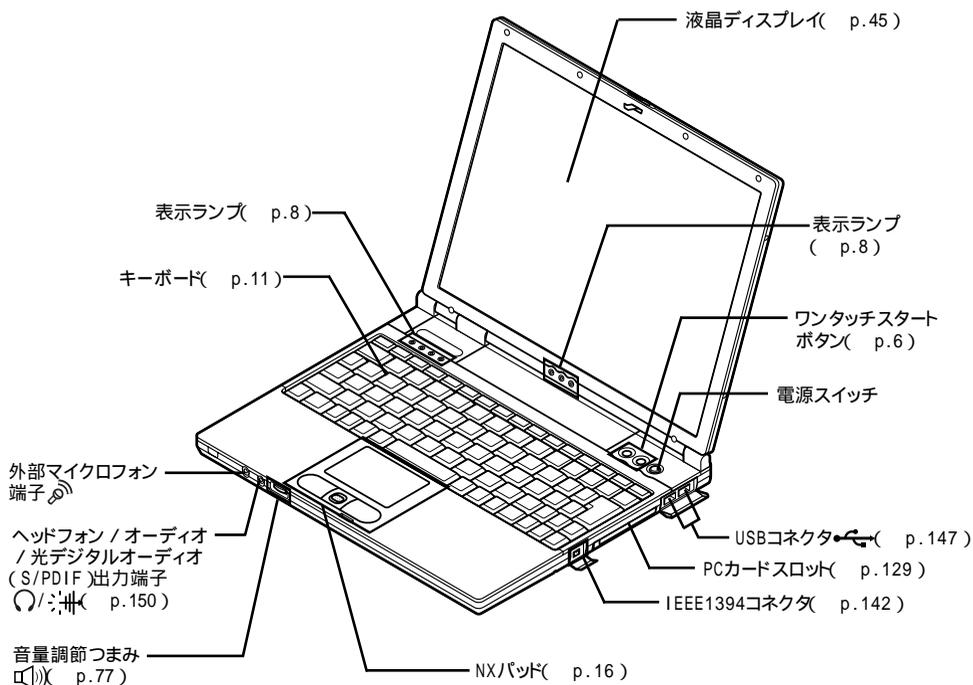
このパソコンの各部の名称とおもな機能について説明しています。

---

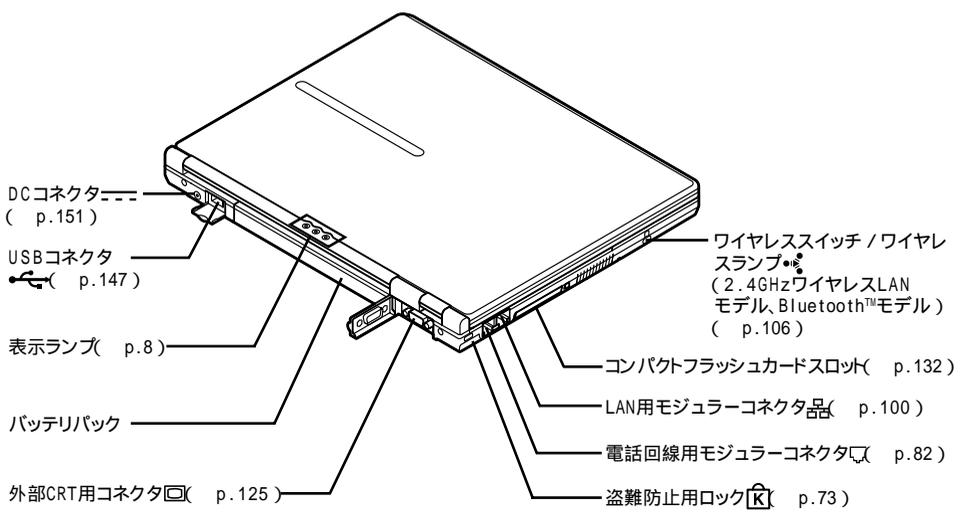
# 本体の各部の名称

## LaVie J

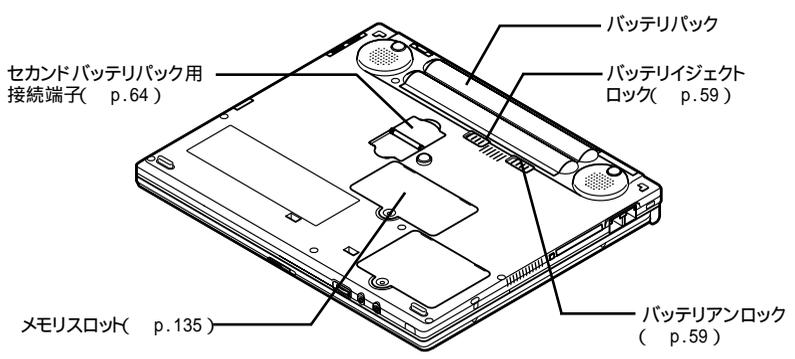
本体前面 / 右側面



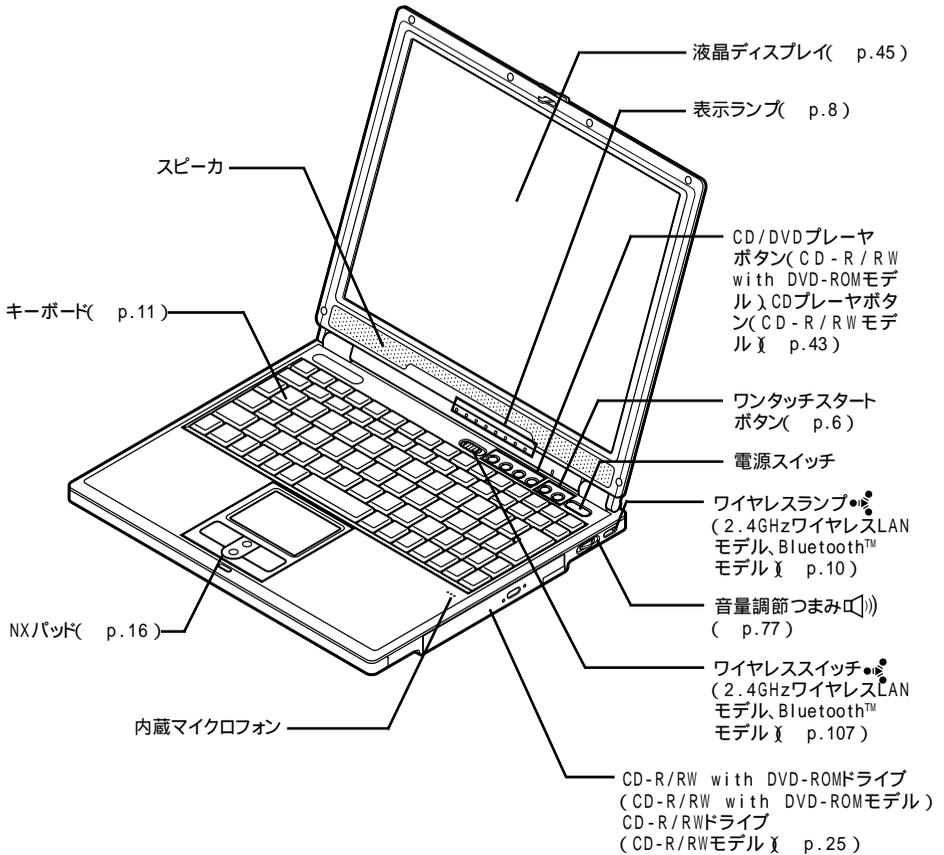
### 本体背面



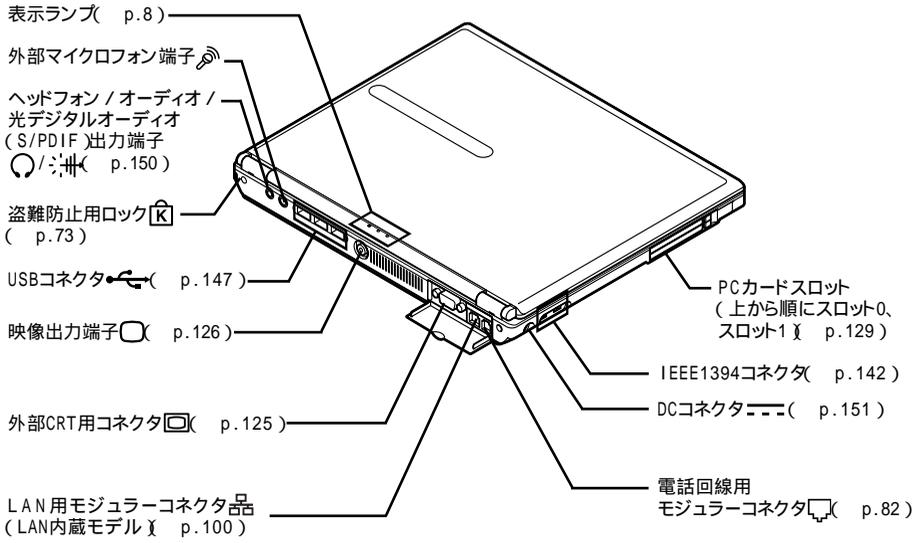
### 本体底面



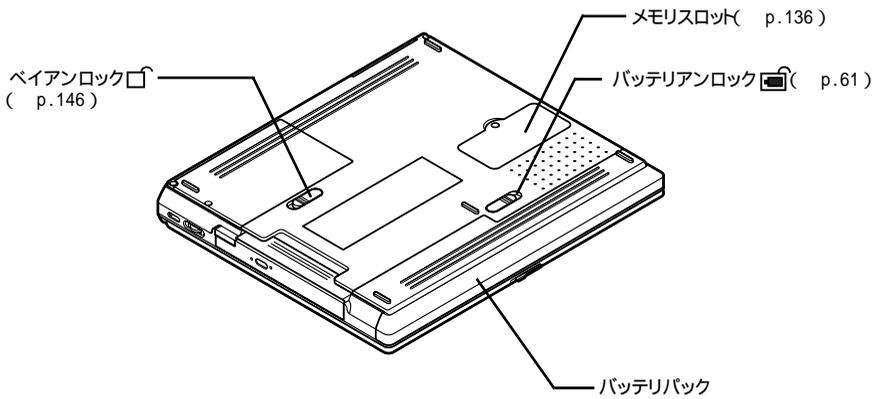
本体前面 / 右側面



本体背面 / 左側面



本体底面

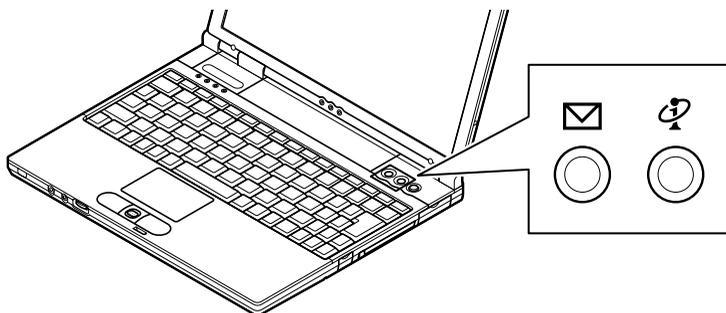


# ボタン / スイッチ

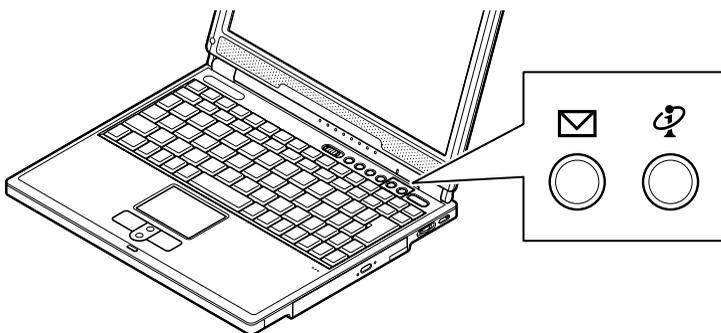
## ワンタッチスタートボタン

次の各ボタンをまとめて「ワンタッチスタートボタン」と呼びます。  
ワンタッチスタートボタンを使うと、機能をすばやく実行することができます。

LaVie Jの場合



LaVie Mの場合



## 各ボタンの使いかた

ボタンの名称	押すタイミング	機能
【インターネット】ボタン (🌐)	電源が切れているとき スタンバイ状態 休止状態 電源が入っているとき	インターネットに接続するためのボタンです。購入時の状態では「インターネット無料体験」が起動します。設定を変更すると「Internet Explorer」などのインターネットブラウザを起動することができます。
【メール】ボタン (✉)	電源が切れているとき スタンバイ状態 休止状態 電源が入っているとき	メールのアプリケーションを起動するためのボタンです。購入時の状態では「Outlook Express」が起動します。インターネット接続の設定をしていない状態では「インターネット接続ウィザード」ウィンドウが表示されます。

 チェック

- ・セーフモードなど、Windowsのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンを使うことはできません。
- ・スタンバイ状態や休止状態からワンタッチスタートボタンを押して復帰したときに、設定したアプリケーションが起動しない場合があります。このような場合は、以下のいずれかの設定を行ってください。
  - 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」 をクリックし、「詳細設定」タブの「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」の  をクリックして  にする
  - 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「ユーザーアカウント」 「ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する」の「ユーザーの簡易切り替えを使用する」の  をクリックして  にする

## ワンタッチスタートボタンの設定をする

【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの機能は、「ワンタッチスタートボタンの設定」を使って設定することができます。「ワンタッチスタートボタンの設定」では、それぞれのボタンを押したときに起動するアプリケーションを変更したり、ワンタッチスタートボタンの機能の有効 / 無効を切り替えることもできます。

 参照

ワンタッチスタートボタンの設定について  「ばそガイド」 「パソコンでできること」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 または 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」

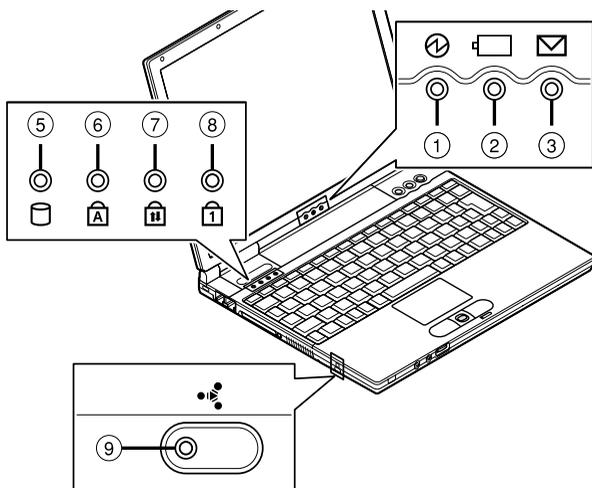
## CD/DVDプレーヤボタン(LaVie Mのみ)

CD/DVDプレーヤボタン( p.4 )は、音楽CDを再生したりDVD VIDEOディスクを再生する場合に利用します。詳しくは、「CD/DVDドライブ」の「音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生する」( p.41 )をご覧ください。

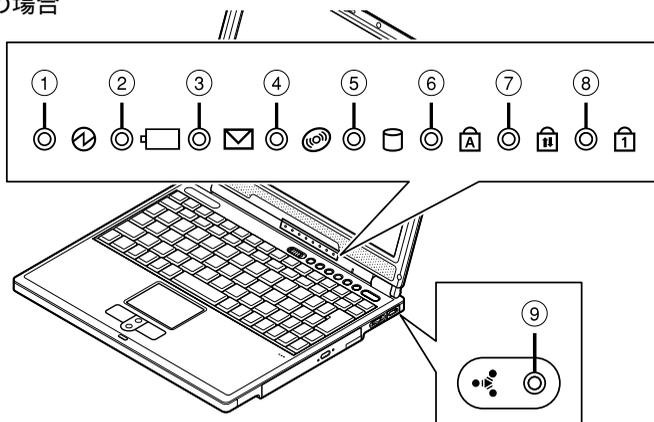
# 表示ランプ

## 表示ランプの名称と役割

LaVie Jの場合



LaVie Mの場合



## 電源ランプ(Ⓚ)

ランプ		状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリー容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリー容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

## バッテリー充電ランプ(Ⓛ)

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーのエラー
緑	点灯	セカンドバッテリーパック充電中
	点滅	セカンドバッテリーパックのエラー
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

: 別売のセカンドバッテリーパック接続時のみ

## メール着信ランプ(✉)

ランプ	状態
緑点灯	メール着信あり
消灯	メール着信なし

## CD/DVDアクセスランプ(Ⓛ) (LaVie Mのみ)

ランプ	状態
緑点灯	CD-ROMなどのディスクにアクセス中
消灯	CD-ROMなどのディスクにアクセスしていない

## アクセスランプ(Ⓛ)

ランプ	状態
緑点灯	ハードディスクにアクセス中
消灯	ハードディスクにアクセスしていない

### キャップスロックキーランプ( )

ランプ	状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります。
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります。

### スクロールロックキーランプ( )

ランプ	状態
緑点灯	【Scr Lk】がロックされている
消灯	【Scr Lk】がロックされていない

### ニューメリックロックキーランプ( )

ランプ	状態
緑点灯	【Num Lk】がロックされている キーを押すとキー前面の文字が入力されます。
消灯	【Num Lk】がロックされていない キーを押すとキー上面の文字が入力されます。

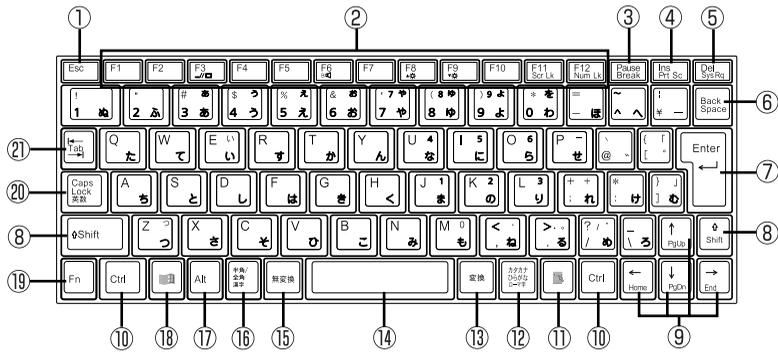
### ワイヤレスランプ( ) ( 2.4GHzワイヤレスLANモデル、Bluetooth™モデルのみ )

ランプ	状態
緑点灯	2.4GHzワイヤレスLAN / Bluetooth™機能が使用可能
消灯	2.4GHzワイヤレスLAN / Bluetooth™機能が使用不可

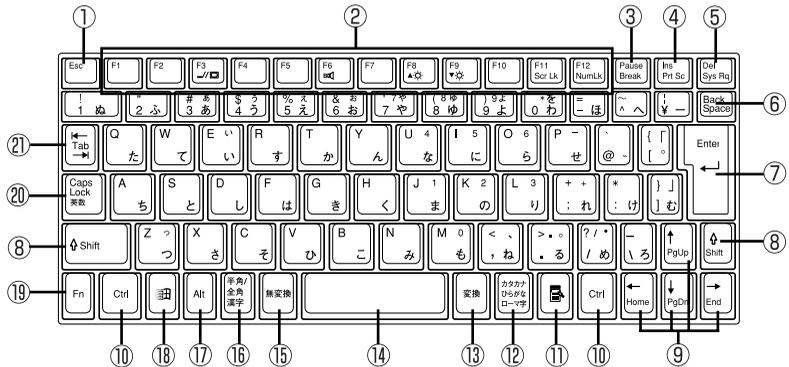
# キーボード

## キーの名称

LaVie Jの場合



LaVie Mの場合



- ①【Esc】: エスケープキー
- ②【F1】~【F12】: ファンクションキー
- ③【Pause】: ポーズキー
- ④【Ins】: インサートキー
- ⑤【Del】: デリートキー
- ⑥【Back Space】: バックスペースキー
- ⑦【Enter】: エンターキー(リターンキー)
- ⑧【Shift】: シフトキー
- ⑨【 **X X X** 】: カーソル移動キー
- ⑩【Ctrl】: コントロールキー
- ⑪【  】: アプリケーションキー
- ⑫【カタカナ ひらがな】: かなキー
- ⑬【変換】: 変換キー
- ⑭スペースキー
- ⑮【無変換】: 無変換キー
- ⑯【半角/全角】: 半角/全角キー
- ⑰【Alt】: オルトキー
- ⑱【  】: Windowsキー
- ⑲【Fn】: エフエヌキー
- ⑳【Caps Lock】: キャップスロックキー
- ㉑【Tab】: タブキー

## キーの使いかた

## 特殊なキーを使う

キー操作	説明
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプ(  )が点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。もう一度押すとランプは消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【半角 / 全角】	押すごとに日本語入力システムのオン / オフが切り替わります。
【Alt】+ 【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字を入力できるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します( p.14 )
【  】	右クリックするのと同じ機能があります。
【  】	「スタート」ボタンをクリックするのと同じ機能があります。
【  】+【R】	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。
【  】+【M】	現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化します。
【Shift】+【  】+【M】	【  】+【M】でアイコン化したウィンドウを元に戻します。
【  】+【F1】	Windowsのヘルプを表示します。
【  】+【F】	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示します。
【Ctrl】+【  】+【F】	コンピュータを検索するウィンドウを表示します。
【  】+【Tab】	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替えます。

## ホットキー機能を使う

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、パソコンの設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

キー操作	機能	説明
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え (  /  )	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」「テレビ」「液晶ディスプレイ」「CRT」の順に切り替わります( p.126 )
【Fn】+【F5】	画面の伸縮	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。
【Fn】+【F6】	システムスピーカ(  )	ピープ音のオン/オフを設定します。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる(  )	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します( 8段階 )
【Fn】+【F9】	輝度を下げる(  )	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します( 8段階 )
【Fn】+【F11】	スクロールロック	【Scr Lk】の役割
【Fn】+【F12】	ニューメリックロック	一度キーを押すとニューメリックロックキーランプ(  )が点灯し、キー上段に黄で表示されている数字や記号を入力できるようになります。もう一度押すとニューメリックロックキーランプが消灯し、通常の文字が入力できるようになります。
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Sc】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【  】	右Windows	右【  】の役割
【Fn】+【Alt】	右Alt	右【Alt】の役割
【Fn】+【  】	Page Up	【PgUp】の役割
【Fn】+【  】	Page Dn	【PgDn】の役割
【Fn】+【  】	Home	【Home】の役割
【Fn】+【  】	End	【End】の役割

:テレビが接続されているときのみ切り替わります( LaVie Mのみ )



メモ

【Fn】+【F3】～【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます(【Fn】+【F6】、【F8】、【F9】を除く)。

## キーボードの設定をする

Windowsでキーボードをより使いやすく設定することができます。詳しくは、「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「キーボードの設定」をご覧ください。

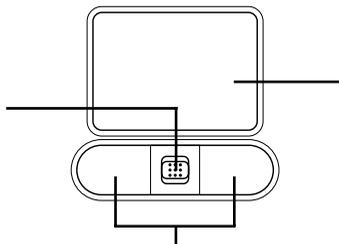
## 別売のキーボードを使うには

このパソコンに別売のキーボードやテンキーボードを接続して使うことができます。詳しくは、「PART3 周辺機器を使う」をご覧ください。

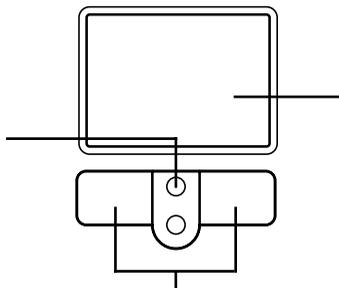
# NX パッド

## 名称と役割

LaVie Jの場合



LaVie Mの場合



	名称	機能
	パッド	ここで指をすべらせて、ポインタの移動などを行います。
	スクロールスライドスイッチ (LaVie J)	このスイッチをスライドすることで、画面をスクロールさせることができます。
	スクロールボタン (LaVie M)	このボタンを押すことで、画面をスクロールさせることができます。
	クリックボタン	左右2つのボタンがあります。これらのボタンで操作の確定などを行います。



参照

NXパッドの使いかたについて「ばそガイド」「こんなときの操作集」「NXパッドの使いかた」

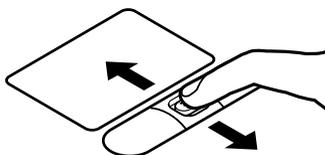
## スクロールスライドスイッチまたはスクロールボタンを使う

スクロールスライドスイッチまたはスクロールボタンを使うと、画面を上下方向にスクロールさせたり、拡大縮小させることができます。LaVie Jでは画面を左右方向にスクロールすることもできます。

### 画面を上下方向にスクロールさせる

LaVie Jの場合

- 1 アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックする
- 2 スクロールスライドスイッチをパッド側、または手前側にスライドさせる  
パッド側にスライドさせると画面が上にスクロールし、手前にスライドさせると画面が下にスクロールします。  
また、スクロールスライドスイッチをスライドさせたままにすることで、連続して画面をスクロールすることができます。



#### チェック

スクロールスライドスイッチを押した状態でスライドさせようとしてもスクロールしないことがあります。スクロールさせるときは、スクロールスライドスイッチを押さずに軽く指を置いてスライドさせてください。

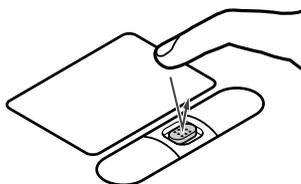
LaVie Mの場合

- 1 アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックする
- 2 スクロールボタンのパッド側、または手前側を押す  
パッド側を押すと画面が上にスクロールし、手前側を押すと画面が下にスクロールします。  
また、スクロールボタンを押したままにすることで、連続して画面をスクロールさせることができます。



画面を上下、左右方向にスクロールさせる( LaVie Jのみ )

- 1 スクロールさせたい画面にポインタを移動する
- 2 スクロールスライドスイッチを押す  
ポインタの形がやに変わります。



 チェック

スクロールスライドスイッチを押すときは、スイッチをスライドさせないように注意してください。

- 3 ポインタの形が変わったら、パッドを使ってスクロールさせる  
パッド上で指をすべらせた方向にスクロールします。  
パッドによるスクロールを終了したい場合は、もう一度、スクロールスライドスイッチを押してください。ポインタの形が元に戻ります。

 チェック

- ・ アプリケーションによってスクロールできる方向は異なります。
- ・ ポインタの形がのときは、上下方向にのみスクロールできます。

ズーム機能を使う

 チェック

アプリケーションによってはこの機能は使用できません。

LaVie Jの場合

- 1 拡大、縮小したい画面にポインタを動かす
- 2 キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールスライドスイッチをパッド側、または手前にスライドさせる  
パッド側にスライドさせると画面の表示が拡大され、手前にスライドさせると縮小されます。

## LaVie Mの場合

- 1 拡大、縮小したい画面にポインタを動かす
- 2 キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンのパッド側、または手前側を押す  
パッド側を押すと画面の表示が拡大され、手前側を押すと縮小します。

---

### NXパッドの一時的なオン / オフ機能として使う

スクロールスライドスイッチまたはスクロールボタンを使って、NXパッドを一時的にオンまたはオフにすることができます。

### NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。詳しくは、「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「NXパッドの設定」をご覧ください。

# ハードディスク

## ハードディスクを使用するときの注意

### ハードディスクとは

ハードディスクとは、Windowsやアプリケーションなどのソフトウェア、またはそれらで作成したデータを記録し、読み出すための装置です。非常に精密な機械なので、強い衝撃や過度の重量などが加わらないように注意してください。



#### チェック

データの読み書き中(アクセスランプ  の点灯中)は少しの衝撃が故障の原因となる場合がありますので注意してください。

### データのバックアップについて

ハードディスクが故障すると、大切なデータが失われてしまうことがあります。特に、自分で作成したデータなどは再セットアップしても元通りにはできません。大切なデータは、フロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどのハードディスク以外の媒体にこまめにバックアップ(コピー)をとっておくことをおすすめします。



#### 参照

バックアップの取りかた 『困ったときのQ&A』PART1の「トラブルの予防」または、 「ばそガイド」-「トラブルの予防」-「大事なデータはバックアップを取ろう」

### ハードディスクの領域の削除やフォーマットについての注意

Dドライブは絶対に削除やフォーマットをしないでください。削除やフォーマットをすると再セットアップができなくなります。再セットアップは、Windowsが起動しなくなった場合に、パソコンを購入時の状態に戻すための操作です。

# フロッピーディスクドライブ

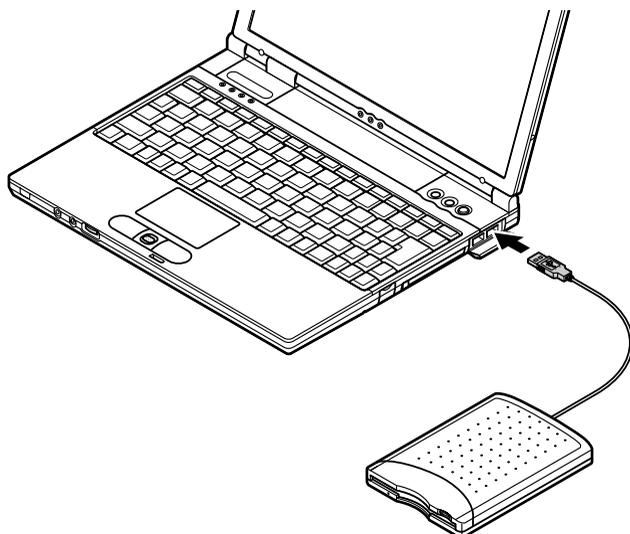
## フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクドライブが添付されていないモデルをお使いの場合、フロッピーディスクを使用するには別売のフロッピーディスクドライブ( PC-VP-WU14 )が必要になります。フロッピーディスクドライブは、次の手順でUSBコネクタに接続してください。

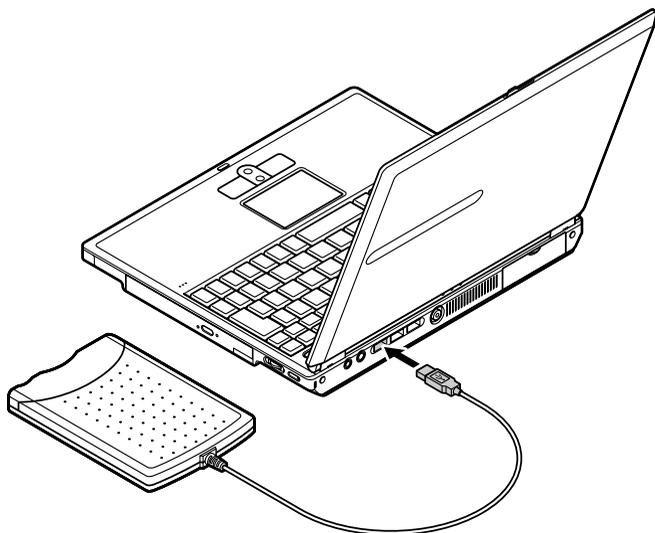
## フロッピーディスクドライブの接続のしかたと取り外しかた

### フロッピーディスクドライブを接続する

- 1 添付のフロッピーディスクドライブのプラグをパソコンのUSBコネクタ (  p.2, 3, 5 ) に接続する  
複数あるUSBコネクタのうち、どのUSBコネクタに接続しても使用することができます。  
•  マークのある方を上にして、カチッと音がするまで軽く押し込んでください。  
・ LaVie J の場合



・LaVie Mの場合



USBコネクタへの接続について詳しくは、PART3の「USB対応機器」(p.147)をご覧ください。

## フロッピーディスクドライブを取り外す

- 1 画面右下の通知領域にある  をダブルクリックする  
「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウが表示されます。
- 2 取り外したい機器名をクリックして「停止」ボタンをクリックする
- 3 「ハードウェア デバイスの停止」ウィンドウで取り外したい機器名をクリックして「OK」ボタンをクリックする  
画面右下の通知領域に、安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「閉じる」ボタンをクリックして「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウを閉じる
- 5 フロッピーディスクドライブのプラグを、パソコンのUSBコネクタから取り外す

## 使用できるフロッピーディスクの種類

このパソコンに添付のフロッピーディスクドライブでは、1.44Mバイトまたは720Kバイトでフォーマットされたフロッピーディスクを使用することができます。フロッピーディスクのフォーマットについては、Windowsのヘルプをご覧ください。

## フロッピーディスクドライブを使用するときの注意

- ・このパソコンでは、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- ・Windowsの「ディスクのコピー」またはコマンドプロンプトのDISKCOPYコマンドでコピーを行うときは、コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。
- ・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイ コンピュータなどで選ぶと、フロッピーディスクアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするときフォーマット開始までの時間が長くなる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- ・1.44Mバイト以外の容量でフロッピーディスクをフォーマットすることはできません。
- ・フロッピーディスクドライブの上に重いものを置いた状態で保管したり使用したりしないでください。破損や故障の原因になることがあります。

## フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた

### ⚠注意

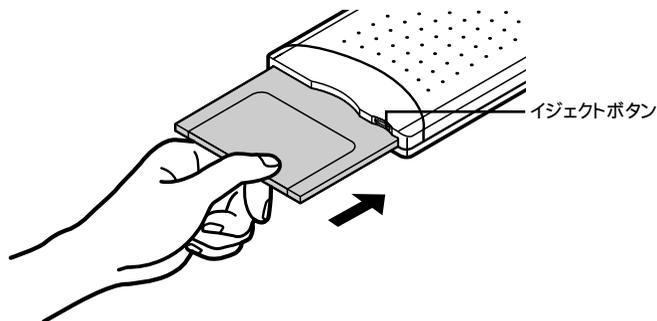


けが注意

フロッピーディスクイジェクトボタンは指の腹の部分で押してください。爪の先でフロッピーディスクイジェクトボタンを押すと、爪と指先の間にフロッピーディスクイジェクトボタンが入ってケガの原因となります。

## フロッピーディスクをセットする

- 1 カチッと音がするまでフロッピーディスクをゆっくりと水平に差し込む  
フロッピーディスクがセットされるとイジェクトボタンが少し飛び出します。

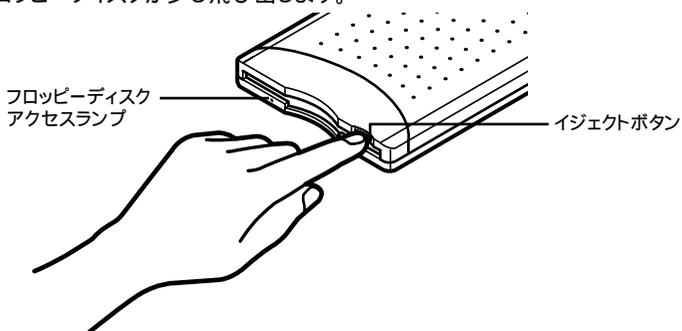


## フロッピーディスクを取り出す

### 🔍 チェック

フロッピーディスクを書き込み中、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプが点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

- 1 イジェクトボタンを押す  
フロッピーディスクが少し飛び出します。



- 2 フロッピーディスクをゆっくりと水平に引き出す

# CD/DVDドライブ

## CD/DVDドライブを使う

### LaVie Jの場合

CD-R/RWDライブまたはCD-ROMドライブが添付されていないモデルをお使いの場合、このパソコンでCD-ROMなどのディスクを使用するには別売の外付けCD-R/RWDライブ(PC-VP-BU11)または外付けCD-ROMドライブ(PC-VP-SU01)が必要になります。

次の手順でUSBコネクタに接続してください。

### LaVie Mの場合

CD-ROMなどのディスクは内蔵のCD/DVDドライブにセットしてください。

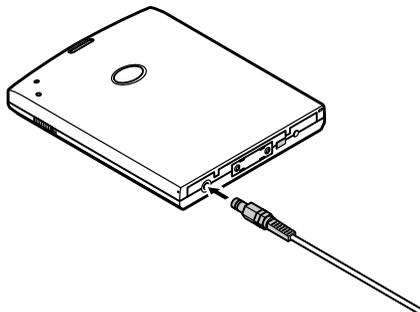
CD/DVDドライブは、このパソコンのベイに内蔵されています。CD/DVDドライブを取り外して、別売の機器に交換することもできます( p.145 )

## CD-R/RWDライブまたはCD-ROMドライブの接続のしかたと取り外しかた( LaVie Jのみ )

### CD-R/RWDライブまたはCD-ROMドライブを接続する

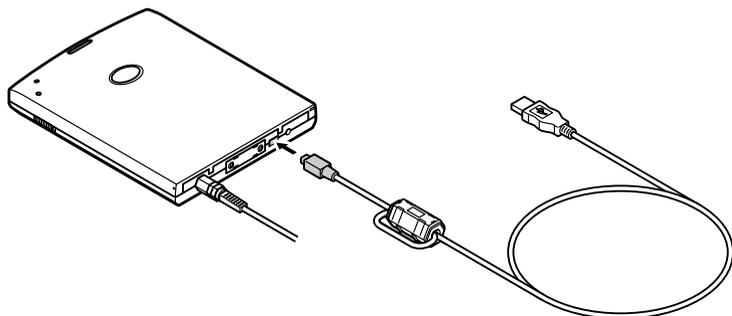
#### CD-R/RWDライブの場合

- 1 CD-R/RWDライブ背面のDCコネクタに、CD-R/RWDライブ用ACアダプタのプラグを差し込む

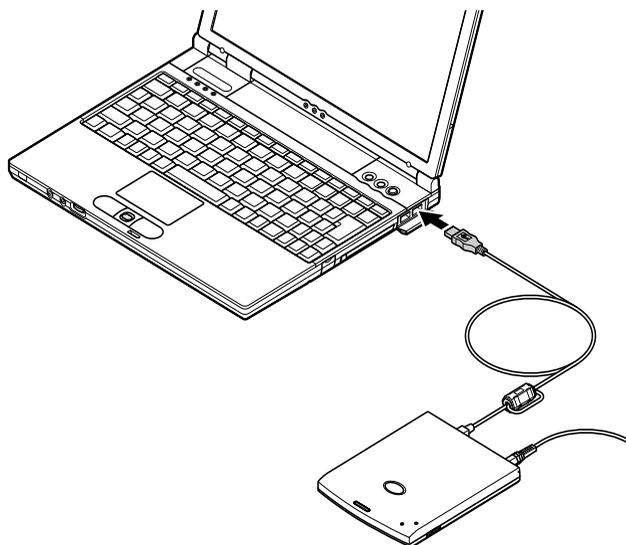


- 2 ACアダプタをACコンセントに差し込む

- 3** CD-R/RWドライブ背面のコネクタに、CD-R/RWドライブ用ケーブルの小さい方のプラグを取り付ける



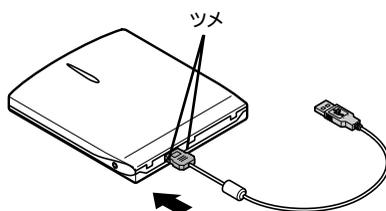
- 4** CD-R/RWドライブ用ケーブルの大きい方のプラグをパソコンのUSBコネクタ(  p.2、3 )に接続する  
マークのある方を上にして、カチッと音がするまで軽く押し込んでください。



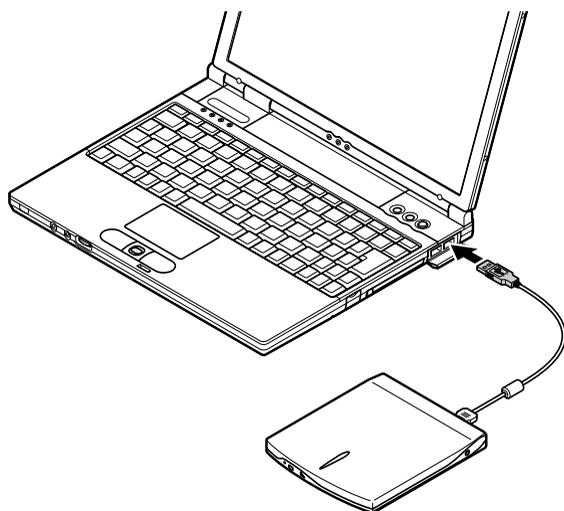
CD-R/RWドライブの電源が自動的にオンになります。

## CD-ROMドライブの場合

- 1 CD-ROMドライブの背面にCD-ROMドライブ用ケーブルの小さい方のプラグを取り付ける  
プラグの左右のツメを押しながら、カチッと音がするまで軽く押し込みます。



- 2 CD-ROMドライブ用ケーブルの大きい方のプラグをパソコンのUSBコネクタ(  p.2,3 )に接続する  
 マークのある方を上にして、カチッと音がするまで軽く押し込んでください。



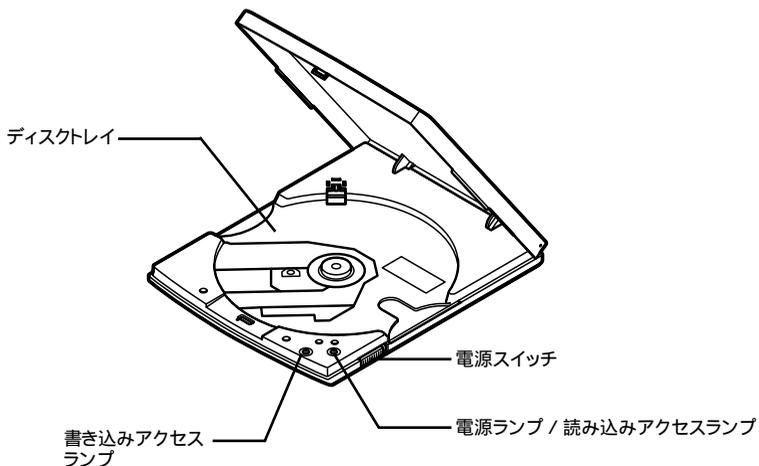
## CD-R/RWドライブまたはCD-ROMドライブを取り外す

- 1 画面右下の通知領域にあるをダブルクリックする  
「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウが表示されます。
- 2 取り外したい機器名をクリックして「停止」ボタンをクリックする
- 3 「ハードウェア デバイスの停止」ウィンドウで取り外したい機器名をクリックして「OK」ボタンをクリックする  
画面右下の通知領域に、安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「閉じる」ボタンをクリックして「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウを閉じる
- 5 CD-R/RWドライブまたはCD-ROMドライブのプラグを、パソコンのUSBコネクタから取り外す  
CD-R/RWドライブをお使いの場合は、CD-R/RWドライブ用ACアダプタもACコンセントから取り外してください。

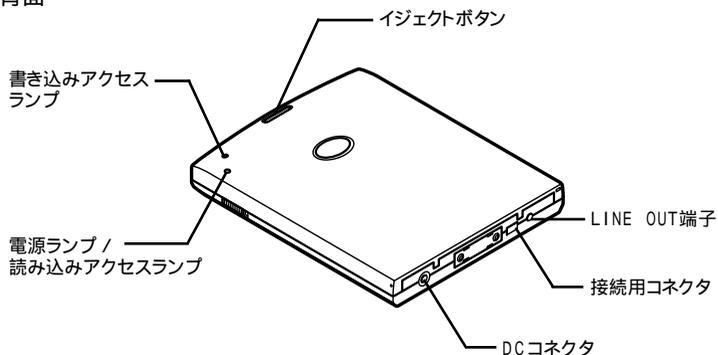
## 名称と役割

LaVie J (CD-R/RWドライブ) の場合

・ 前面



## ・背面

**電源スイッチ**

背面側にスライドすることで、電源のオン / オフを切り替えることができます。

**電源ランプ / 読み込みアクセスランプ**

電源が入ると緑色に点灯します。

セットしたディスクにアクセスしている場合に緑色に点滅します。

**書き込みアクセスランプ**

CD-RやCD-RWなどのディスクに書き込みをしている場合にオレンジ色に点灯します。

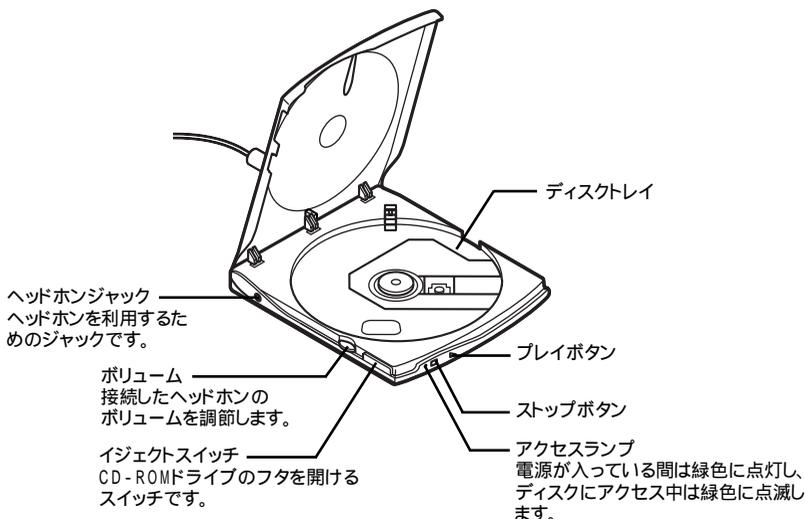
**LINE OUT端子**

市販のヘッドフォンやアンプ内蔵スピーカーを利用するための端子です。

**イジェクトボタン**

イジェクトボタンを押すと、CD-R/RWDライブのフタを開けることができます。電源が入っていない状態では、イジェクトボタンを押してもフタは開きません。

## LaVie J (CD-ROMドライブ)の場合



### メモ

CD-ROMドライブのイジェクトスイッチやアクセスランプの位置および形状は、イラストと多少異なることがあります。

## プレイボタン

プレイボタンを押すときの状態によって、機能が異なります。

プレイボタンを押すときの状態	機能
停止状態で押す	CDの最初のトラックから再生する
ポーズ(一時停止)状態で押す	一時停止した位置からCDを再生する
再生状態で押す	現在再生中のトラックの次のトラックにジャンプし、CDを再生する
再生状態でプレイボタンを約2.5秒以上押し続ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在再生中のトラックの再生がはじまってから約10秒未満の場合は、前のトラックの最初にジャンプし、CDを再生する</li> <li>現在再生中のトラックの再生がはじまってから約10秒以上の場合は、現在再生中のトラックの最初にジャンプし、CDを再生する</li> </ul>

:ランダム再生中も含む

## ストップボタン

ストップボタンを押すときの状態によって、機能が異なります。

ストップボタンを押すときの状態	機能
CDを再生中に押す	ポーズ(一時停止)状態になる
ポーズ(一時停止)状態で押す	停止状態になる

ポーズ(一時停止)状態が約32秒以上続いた場合、自動的に停止状態になります。次に再生したときにはポーズ(一時停止)した位置ではなく、CDの最初から再生されます。

## プレイボタン・ストップボタンの同時押し

CDを再生中に、プレイボタンとストップボタンを同時に約1秒以上押すと、再生中のCDが自動的にランダム再生になります。また、ランダム再生中に、プレイボタンとストップボタンを同時に押し続けると、ランダムに次のトラックにジャンプします。



### メモ

ランダム再生機能を解除したい場合は、次のいずれかの操作を行ってください。

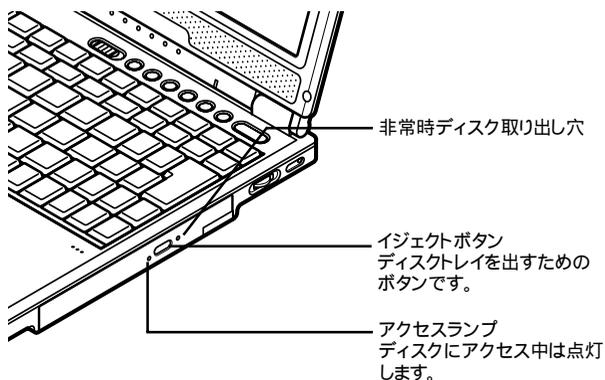
- ・ 停止状態にする
- ・ CD-ROMドライブのフタを開ける
- ・ アプリケーションで再生 / 停止の操作をする



### チェック

- ・ 本体のスピーカからCDの音声が出力されない場合は、音楽CDからのデジタル出力設定が必要です。「ベースガイド」-「パソコンでできること」-「サウンドの設定」をご覧になり、設定を行ってください。
- ・ このパソコンにインストールされているアプリケーションを利用してCDを再生中にCD-ROMドライブのプレイボタンやストップボタンを押しても、有効に動作しない場合があります。また、ランダム再生中にアプリケーションを起動すると、ランダム再生モードが解除されます。
- ・ 音楽CDを再生するアプリケーションを使用せずにCD-ROMドライブのみで音楽CDを再生する場合は、CD-ROMドライブのプレイボタンやストップボタンを使って操作を行ってください。音楽CDを再生するアプリケーションを使用する場合は、CD-ROMドライブのプレイボタンやストップボタンは使用せず、アプリケーションで操作を行ってください。

## LaVie Mの場合



メモ

イジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、イラストと多少異なることがあります。

## 使用できるディスク

### 再生可能なディスク

音楽CD、ビデオCD、フォトCD、DVD VIDEOディスク<sup>1</sup>

### 読み込み可能なディスク

CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM<sup>1</sup>

### 書き込み可能なディスク<sup>2</sup>

CD-R、CD-RW

### 書き換え可能なディスク<sup>2</sup>

CD-RW

1:CD-R/RW with DVD-ROMモデルのみ

2:CD-R/RW with DVD-ROMモデル、CD-R/RWモデルのみ

## CD/DVDドライブを使用するときの注意

- ・ CD/DVDドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- ・ アクセスランプが点灯しているときは、絶対にディスクを取り出さないでください。故障の原因となります。
- ・ ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。故障の原因となります。また、ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、操作中に手に振動を感じる場合があります。
- ・ 「マイ コンピュータ」ウィンドウなどを表示したときに、内蔵または接続していないCD/DVDドライブが存在する場合がありますが、これはVirtual CD 2によって作成された仮想CD-ROMドライブです。Virtual CD 2について詳しくは、「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「Virtual CD 2」をご覧ください。
- ・ LaVie Jをお使いの場合、アクセスランプが点滅しているときは、パソコンからCD-R/RWDドライブ用ケーブルまたはCD-ROMドライブ用ケーブルを取り外したりしないでください。パソコンの故障の原因となります。ケーブルの抜き差しを行う場合は、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- ・ LaVie Jをお使いの場合、パソコンを移動するときは、CD-R/RWDドライブ用ケーブルまたはCD-ROMドライブ用ケーブルをパソコンから取り外してください。取り外さずにパソコンを移動すると故障の原因となることがあります。
- ・ LaVie JでCD-ROMドライブをお使いの場合、CD-ROMドライブ用ケーブルをCD-ROMドライブから取り外すときは、ケーブルの左右のロックを解除して(ツメを押しながら)取り外してください。ロックを解除しないでケーブルを引き抜くと、故障の原因となることがあります。
- ・ LaVie Jをお使いの場合、CD-R/RWDドライブまたはCD-ROMドライブのほかにUSB対応機器が接続されていると、転送速度が遅くなる場合があります。

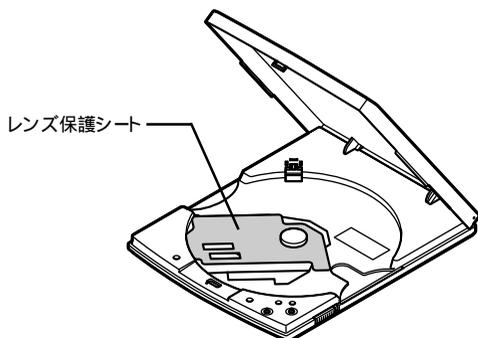
### CD-R/RWDドライブのレンズ保護シートについて( LaVie Jのみ )

購入時の状態では、CD-R/RWDドライブにはレンズ保護シートが取り付けられています。使用する前にレンズ保護シートを取り外してください。

#### 1 CD-R/RWDドライブのフタを開く

CD-R/RWDドライブの電源が入っている場合は、イジェクトボタン( p.29 )を押してフタを開くことができます。電源が入っていない場合は、強制オープンレバー( p.40 )を使って、CD-R/RWDドライブのフタを開きます。

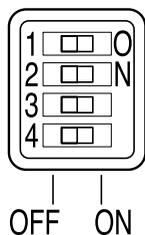
## 2 レンズ保護シートを取り外す



## 3 CD-R/RWドライブのフタを閉じる

CD-R/RWDドライブのモードスイッチについて( LaVie Jのみ )

添付の外付けCD-R/RWDドライブ、または別売のCD-R/RWDドライブユニット( PC-VP-BU11 )は、軽度の重心バランスの悪いディスクを使用した場合に、自動的にディスクへのアクセス速度を落としてCD-R/RWDドライブが振動するのを防ぐ機能を搭載しています。ディスクへのアクセス速度を自動的に変更しないようにするには、CD-R/RWDドライブ底面にあるモードスイッチ3をONに設定します。



### チェック

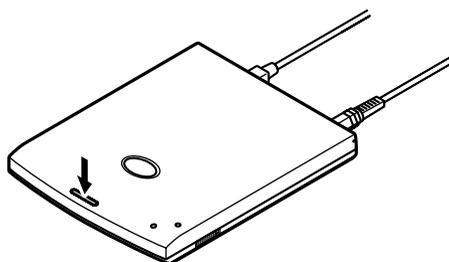
モードスイッチ1、2、4は必ずOFFのまま使用してください。

## ディスクのセットのしかたと取り出しかた

### ディスクをセットする

LaVie X (CD-R/RWドライブ) の場合

#### 1 イジェクトボタンを押す

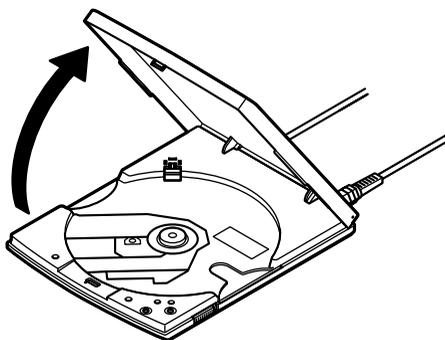


フタが少し開きます。

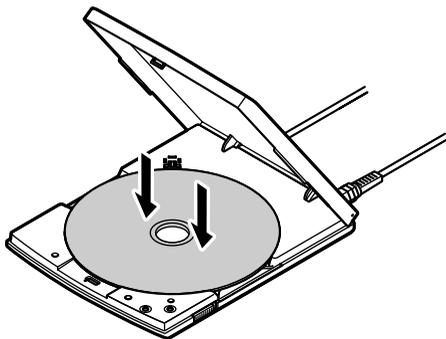
#### チェック

CD-R/RWドライブの電源が入っていない場合は、イジェクトボタンを押してもフタは開きません。CD-R/RWドライブをパソコンに接続しているか( p.25 )または電源がオフになっていないか( p.29 )を確認してください。

#### 2 図のようにフタを開く



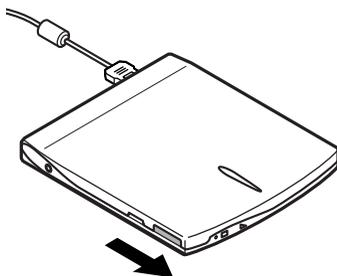
- 3** ディスクのデータ面(文字などが印刷されていない面)を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりとめ込む



- 4** フタを閉める  
カチッと音がするまでしっかり閉めてください。

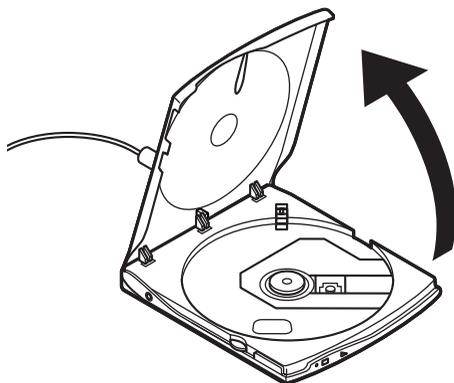
LaVie J( CD-ROMドライブ )の場合

- 1** CD-ROMドライブのイジェクトスイッチを手前側にスライドする

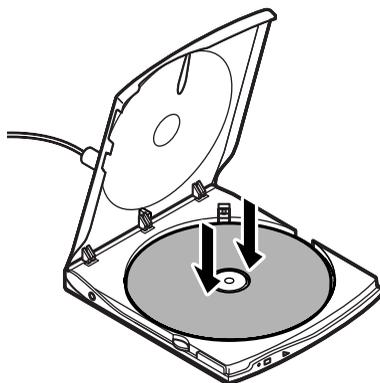


フタが少し開きます。

## 2 図のようにフタを開く



## 3 ディスクのデータ面(文字などが印刷されていない面)を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりとめ込む



## 4 フタを閉める

カチッと音がするまでしっかり閉めてください。



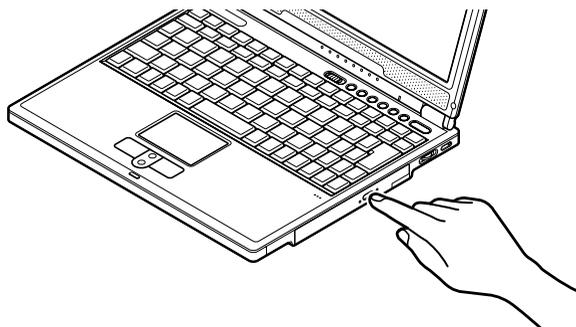
メモ

CD/DVDドライブにディスクをセットすると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用するメディアによって異なります)。

このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上の☑をクリックしてください。

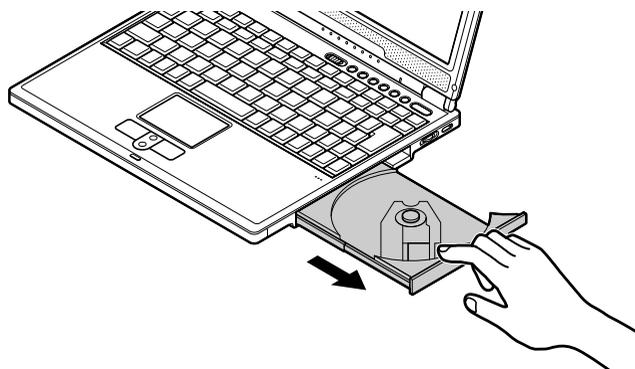
## LaVie Mの場合

- 1 CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押す

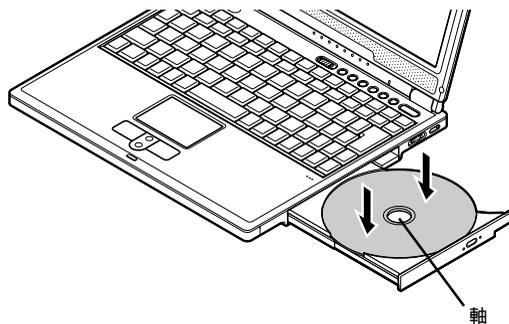


ディスクトレイが少し飛び出します。

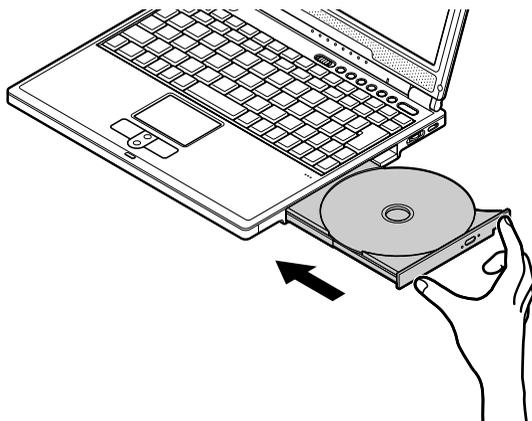
- 2 手でディスクトレイを静かに引き出す



- 3 ディスクのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりとめ込む



- 4 CD/DVDドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイ前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す



## ディスクを取り出す

LaVie Jの場合

### 1 次の操作を行う

- ・CD-R/RWドライブの場合  
CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す
- ・CD-ROMドライブの場合  
CD-ROMドライブのイジェクトスイッチを手前側にスライドする

フタが少し開きます。

### 2 フタを開き、ディスクを取り出す

### 3 フタを閉める

カチッと音がするまでしっかり閉めてください。



#### チェック

ディスクを取り出すときは、ディスクの回転が止まるまではフタを開けないでください。ディスクの回転中にフタを開けると、ディスクがディスクトレイの軸から外れて飛び出す場合があります。ディスクの回転を強制的に止めたいときは、CD-R/RWドライブ用ACアダプタをACコンセントから抜いてください。

## LaVie Mの場合

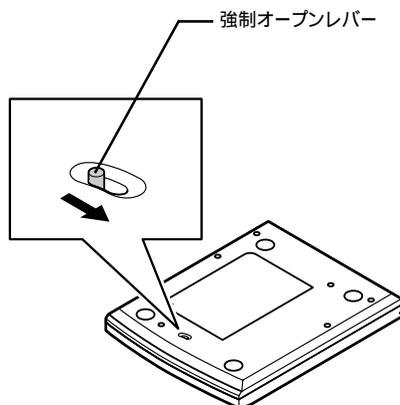
- 1 CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押す  
ディスクトレイが少し飛び出します。
- 2 手でディスクトレイを静かに引き出してから、ディスクを取り出す
- 3 CD/DVDドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

---

## ディスクを取り出せなくなった場合は

### LaVie J (CD-R/RWドライブ) の場合

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押してもフタが開かなくなってしまった場合は、CD-R/RWドライブ底面にある強制オープンレバーを使ってフタを開くことができます。



### ❗ チェック

CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押してもフタが開かない、といった非常時以外は、強制オープンレバーを使わないようにしてください。

## LaVie Mの場合

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、非常時ディスク取り出し穴( p.32 )に太さ1.3 mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。



### チェック

CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使わないようにしてください。

## 音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生する

このパソコンでは、Jet-Audio Playerを使って音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生することができます。



### メモ

DVD VIDEOディスクは、映像と音声を高画質、高音質で記録してあるディスクです。美しい映像や音声を楽しむことができます。また、DVD VIDEOディスクの中には、利用者の好みに応じた使いかたができるディスクもあります。たとえば、映画の字幕や音声を数カ国語の中から選んで再生したり、スポーツやコンサートの映像をアングル( 見る角度、視点 )を切り替えて再生したりできます。



### チェック

- ・ CD-R/RWモデル、CD-ROMモデルではDVD VIDEOディスクを利用することはできません。
- ・ DVD VIDEOディスクは、リージョンコード( 国別地域番号。日本は2です )によって管理されているため、リージョンコードが2もしくはフリーに設定されているディスクのみ再生することができます。海外で購入したDVD VIDEOディスクについては、特にこの点に注意してください。

## Jet-Audio Playerを使う

このパソコンには、音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生するためのアプリケーションとして、「Jet-Audio Player」がインストールされています。Windowsが起動しているときにディスクをセットすると、自動的にJet-Audio Playerが起動して再生がはじまります。



参照

「Jet-Audio Player」の使いかたについて  「パソコンガイド」-「パソコンでできること」-「Jet-Audio Player」または「スタート」ボタン-「すべてのプログラム」-「Jet-Audio Player」-「使い方マニュアル」

## 音楽CDや音楽データをMDにダビングする

Jet-Audio Playerでは、音楽CDのほかに音楽データを再生することもできます。また、音楽CDや音楽データをMDに録音することもできます。MDデッキに接続する場合は、このパソコンのヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子 (  p. 2, 5 ) に接続します。



チェック

お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについての著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を受けていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製に関する注意事項にしたがってください。



参照

MDデッキを接続する 接続するMDデッキのマニュアル

## DVD VIDEOディスクの映像をテレビに表示する( CD-R/RW with DVD-ROMモデルのみ )

このパソコンにテレビを接続すると、DVD VIDEOディスクの映像をテレビに表示させることもできます。

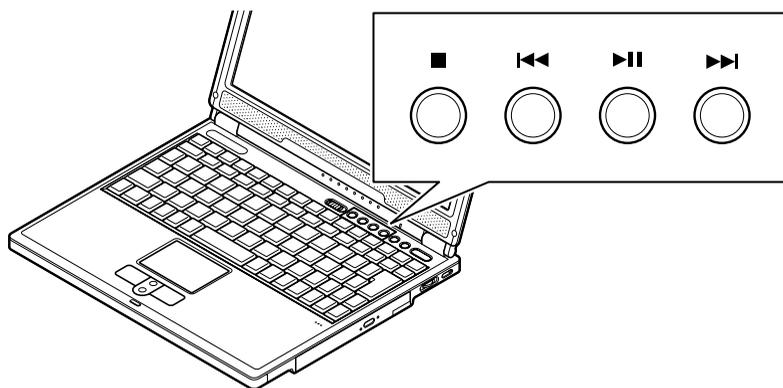


参照

パソコンにテレビを接続する、DVD VIDEOディスクの映像をテレビに表示する PART3の「外部ディスプレイ」( p. 124 )

## CD/DVDプレーヤボタン(LaVie Mのみ)

音楽を再生するときに利用できるボタンの役割は次のとおりです。



CD/DVDプレーヤボタンには次の機能があります。

ボタン	機能
■	停止
◀◀	前のトラックへ戻る 押し続けると巻き戻し
▶▶	再生 / 一時停止
▶▶	次のトラックへ進む 押し続けると早送り

 チェック

Windowsが起動している場合、CD/DVDプレーヤボタンは、このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」でのみ使うことができます。

## CD-RやCD-RWにデータを書き込む(CD-R/RW with DVD-ROMモデル、CD-R/RWモデルのみ)

「RecordNow DX」を使うと、CD-RやCD-RWにデータを書き込むことができます。また、音楽CDなどから好きな曲を選んでCD-Rに書き込み、オリジナル音楽CDを作ることができます。



### チェック

お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについての著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を受けていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製に関する注意事項にしたがってください。



### 参照

「RecordNow DX」について  「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「RecordNow DX」

# 液晶ディスプレイ

## 解像度と表示色



メモ

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図面などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、より細かな表現ができます。



チェック

設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

このパソコンでは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

LaVie Jの場合

解像度 (ドット)	表示色	このパソコンの 液晶ディスプレイ のみに表示	別売のCRT ディスプレイ のみに表示	このパソコンの 液晶ディスプレイ と別売のCRT ディスプレイ の同時表示 <sup>1</sup>
800 × 600	65,536色			
	1,677万色 <sup>2</sup>			
1,024 × 768	65,536色 <sup>3</sup>			
	1,677万色 <sup>2</sup>			
1,280 × 1,024	65,536色			
	1,677万色 <sup>2</sup>			
1,600 × 1,200	65,536色			

：【Fn】+【F5】を押して拡大 / 縮小切り替え可能

：フルスクリーン表示可能

：バーチャルスクリーン( p.48 )のみ表示可能

1：別売のCRTディスプレイ未接続時は、このパソコンの液晶ディスプレイのみに表示される

2：このパソコンの液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのデザイン機能により実現

3：購入時の設定

## LaVie Mの場合

解像度 (ドット)	表示色	この パソコンの 液晶 ディスプレイ のみに表示	別売のCRT ディスプレイ のみに表示	このパソコンの 液晶ディスプレイ と別売のCRT ディスプレイ の同時表示 <sup>1</sup>	TVのみ
800 × 600	65,536色				
	1,677万色 <sup>2</sup>				
1,024 × 768	65,536色 <sup>3</sup>				
	1,677万色 <sup>2</sup>				
1,280 × 1,024	65,536色				
	1,677万色 <sup>2 4</sup>				
1,600 × 1,200	65,536色				

: 【Fn】+【F5】を押して拡大 / 縮小切り替え可能

: フルスクリーン表示可能

: バーチャルスクリーン( p.48 )でのみ表示可能

1: 別売のCRTディスプレイ未接続時は、このパソコンの液晶ディスプレイのみに表示される

2: このパソコンの液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのデザイン機能により実現

3: 購入時の設定

4: 高(24ビット)のみ表示可能

## 解像度と表示色の設定

ディスプレイの解像度と表示色はコントロールパネルで設定することができます。設定について詳しくは、「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「画面の設定」をご覧ください。

## 画面表示を調整する

キーボードの【Fn】を使って画面表示の調整ができます。

### 輝度を調整する

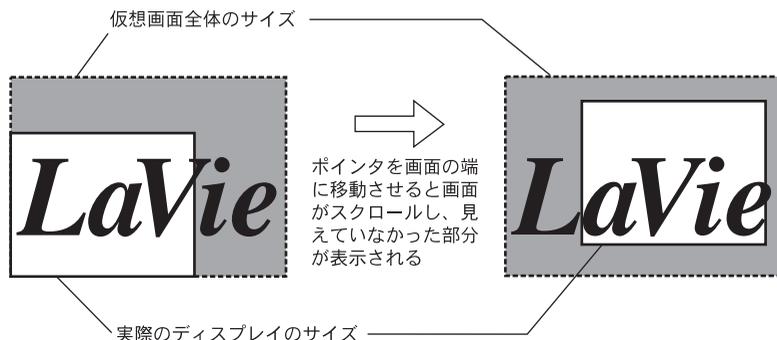
このパソコンでは、キーボードを使って輝度や画面の調整を行います。輝度は8段階で調整することができます。

機能	キー操作	説明
画面の伸縮	【Fn】+【F5】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。
輝度を上げる(▲☀)	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
輝度を下げる(▼☀)	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。

:購入時には拡大表示に設定されています。

## バーチャルスクリーン

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。



メモ

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上の見えていない部分を見るには、ポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。ポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

このパソコンのディスプレイでは、1,280×1,024、1,600×1,200の解像度はバーチャルスクリーン表示になります。バーチャルスクリーンの設定について詳しくは、「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「画面の設定」をご覧ください。

## ディスプレイストレッチ機能

ディスプレイストレッチとは、800×600ドットの低解像度で表示している場合に、液晶ディスプレイに画面を拡大して表示する機能です。ディスプレイストレッチ機能の設定について詳しくは、「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「画面の設定」をご覧ください。

## 画面回転機能(LaVie Jのみ)

画面回転機能を使うと、画面のイメージを回転させた状態で液晶ディスプレイに表示させることができます。

たとえば、液晶ディスプレイをいっぱいにかけて、表示されている画面を180度回転させることにより、向かい側にいる人にプレゼンテーションを行う場合に利用できます。

### 画面回転機能を使用するための準備

画面回転機能を使用する前に次の手順で設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「デスクトップの表示とテーマ」 「画面」をクリックする  
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンをクリックする
- 3 「モニタ」タブをクリックする
- 4 「このモニタでは表示できないモードを隠す」のをクリックしてにし、「OK」ボタンをクリックする
- 5 「OK」ボタンをクリックする

### 画面回転機能を使う

- 1 画面右下の通知領域にある黄色い  (「S3」アイコン) をクリックする  
メニューが表示されます。



画面右下の通知領域にアイコンが表示されていない場合は、通知領域内の  をクリックしてください。

- 2 「回転」にポインタを合わせ、「標準」「90度」「180度」「270度」の中から回転したい角度をクリックする

## 画面回転機能を使用するときの注意

- ・画面回転機能は、画面の解像度が800×600ドットまたは1024×768ドットで、表示色が「中(16ビット)」または「最高(32ビット)」に設定されている場合のみ利用できます。
- ・画面回転機能は、外部ディスプレイを接続している場合は利用できません。
- ・次のような機能を使用している場合は画面を回転できません。また、画面回転後に次のような機能を使用することもできません。
  - バーチャルスクリーン表示
  - DVDビデオおよびその他の動画ファイル再生
  - 3Dアクセラレーション表示(Direct3D、OpenGLなど)
  - MS-DOSプロンプト
- ・画面回転機能使用時は、解像度や色数の変更を行わないでください。いったん通常表示に切り替えてから、解像度や色数の変更を行ってください。万が一、変更を行ってしまった場合、解像度を1024×768ドットに切り替えないと正常に戻りません。
- ・画面回転機能使用時は、CPUの使用率が通常よりもあがるため、カーソルがスムーズに動かなかったり、音声付き動画ファイル再生時に音飛びすることがあります。

# バッテリー

## バッテリーのみで使う

このパソコンは、ACアダプタを使用せずにバッテリーだけで駆動することができます。バッテリーだけでの駆動時間は限られていますので、長時間使用する場合は、省電力機能を使用することをおすすめします。



参照

省電力機能について このPARTの「省電力機能」(p. 67)

## バッテリーの上手な使いかた

残量精度を良くするには  
定期的にバッテリーリフレッシュを実行してください。

バッテリーの寿命を長くするには  
パソコンを長期間使わないときは、バッテリー残量を50%程度にして、バッテリーパックを取り外し、涼しいところに保管してください。



メモ

バッテリーは自然放電していますので、使用していない場合でも2~3か月に一度は充電することをおすすめします。

## バッテリーを充電する



チェック

- ・バッテリーの充電中は、バッテリーパックをパソコンから取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。
- ・充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度もくりかえして使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。

## バッテリーの充電のしかた

バッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電がはじまります。

バッテリーの充電状態は、バッテリー充電ランプ(  )で確認することができます ( p.9 )



メモ

- ・ パソコンの電源を入れて使用しているときでもバッテリーは充電されます。
- ・ 充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。



参照

バッテリーの充電時間について PART5の「本体機能一覧」( p.164 )

## バッテリーの残量を確認する

バッテリー残量は、次の方法で確認することができます。

画面右下の通知領域にある  の上にポインタを合わせる



アイコンはバッテリーの残量により異なります。  
画面はモデルによって異なります。



メモ

 をダブルクリックすると、より詳しい情報が表示されます。

「スタート」ボタン「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックし、表示された「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「電源メーター」タブで確認する



画面はモデルによって異なります。

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなった場合は

バッテリーの残量が少なくなると、電源ランプ(④)が黄色に点灯します。この場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

ACコンセントから電源を供給できる場合

ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリー充電ランプ(④)が点灯し、バッテリーの充電がじまります。また、バッテリーを充電しながらパソコンを使用することもできます。

ACコンセントが使えない場合

使用中のアプリケーションを終了して、パソコンの電源を切ってください。

上記の操作をしないでそのままにしておくと、再度バッテリー残量が少ないというメッセージが表示され、しばらくすると自動的に休止状態 (p.71) になります。また、パソコンをバッテリーのみで使用している場合は、バッテリー残量が少なくなったときにパソコンをどのような状態にするかを設定しておくこともできます。設定のしかたは、次の「バッテリー残量が少なくなったときの動作の設定」( p.54 )をご覧ください。

### チェック

フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、フロッピーディスクやハードディスクのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

## バッテリー残量が少なくなったときの動作の設定

バッテリーのみで使用している場合、バッテリー残量が少なくなったときにどのような動作をさせるかを設定します。設定の手順は次のとおりです。

### チェック

次の設定を行う場合は、コンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントでこのパソコンにログオンしてください。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」をクリックする  
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「アラーム」タブをクリックする
- 3 バッテリー残量が少ないとき(バッテリー低下アラーム)と、バッテリー残量がわずかなとき(バッテリー切れアラーム)に、それぞれどのような動作をするようにしたいかを設定する  
「アラームの動作」ボタンをクリックすると、動作を選ぶことができます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする

## バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させるときに行います。次のようなときには、バッテリーリフレッシュを実行してください。

購入直後や、長期間の放置で、バッテリーの性能が一時的に低下した  
バッテリーの残量表示に誤差が生じている

## バッテリーリフレッシュの実行

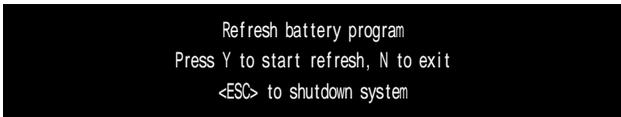
- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る
- 2 バッテリーパックを取り付けていない場合は、バッテリーパックを本体に取り付ける( p.60、61 )
- 3 パソコンにACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する  
バッテリー充電ランプが点滅している場合は、一度ACアダプタとバッテリーパックを本体から外して、再度取り付けてください。

- 4 バッテリーをフル充電(バッテリー充電ランプが消灯した状態)まで充電する
- 5 BIOSセットアップユーティリティを起動する( p.154 )
- 6 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 7 【**↓**】を使って「終了」メニューを選び、【**→**】を使って「バッテリーリフレッシュ」を選んでから【Enter】を押す
- 8 「実行しますか?」と表示されたら、「はい」を選んで【Enter】を押す
  - ・LaVie Jの場合次のような画面が表示され、バッテリーリフレッシュがはじまります。手順9以降を行う必要はありません。



Battery Refresh Now(55% LEFT).....Don't close Display.....Press ESC Key to Cancel

- ・LaVie Mの場合
- 次のような画面が表示されたら、手順9に進んでください。



Refresh battery program  
Press Y to start refresh, N to exit  
<ESC> to shutdown system

- 9 【**Y**】を押す
- 次のような画面が表示され、バッテリーリフレッシュがはじまります。



95%



#### チェック

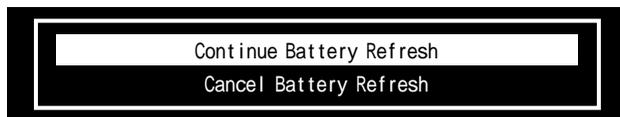
バッテリーリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。

バッテリーリフレッシュが完了し、バッテリー内の電力がなくなると自動的にパソコンの電源が切れます。

## バッテリーリフレッシュを中断する

### LaVie Jの場合

- 1 【Esc】を押す  
次のようなメッセージが表示されます。



- 2 【**↑**】または【**↓**】で「Cancel Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す  
Windowsが再起動します。

#### ◆メモ

- ・バッテリーリフレッシュ中にパソコンの電源を切ろうとしたり、ACアダプタを接続したときも、バッテリーリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。バッテリーリフレッシュを続ける場合はACアダプタを取り外し「Continue Battery Refresh」を選んでください。中断する場合は「Cancel Battery Refresh」を選ぶと、バッテリーリフレッシュが中断し、Windowsが再起動します。
- ・電源スイッチを4秒以上押し続けてもバッテリーリフレッシュを中断することができません。この場合は、パソコンの電源が切れます。

### LaVie Mの場合

バッテリーリフレッシュを中断するときは、【Ctrl】+【Alt】+【Del】を押してWindowsを再起動してください。

#### ◆メモ

電源スイッチを4秒以上押し続けてもバッテリーリフレッシュを中断することができません。この場合は、パソコンの電源が切れます。

## バッテリーパックを交換する

### 交換の目安

フル充電(バッテリーを充電してバッテリー充電ランプ(  )が消灯した状態)にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリーリフレッシュ( p.54 )を行ってください。それでも使用できる時間が回復しない場合は、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

### 交換用のバッテリーパック

このパソコンのバッテリースロットに取り付けられる交換用バッテリーパックは次のとおりです。

モデル名	品名	型番
LaVie J	バッテリーパック(M)	PC-VP-BP22
LaVie M	バッテリーパック(L)	PC-VP-BP18
	バッテリーパック(LL)	PC-VP-BP19

また、バッテリースロットに取り付けたバッテリーパックと併用できるセカンドバッテリーパックがあります。LaVie Jをお使いの場合、セカンドバッテリーパックは本体底面に取り付けます( p.63 )。LaVie Mをお使いの場合は、セカンドバッテリーパックはベイに取り付けます( p.145 )。

モデル名	品名	型番
LaVie J	セカンドバッテリーパック	PC-VP-BP23
LaVie M	セカンドバッテリーパック	PC-VP-BP15



### チェック

バッテリーは消耗品です。放充電をくりかえすと、充電能力が低下します。

## バッテリーパックの交換のしかた

### ⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。



破裂注意

使用を終えたバッテリーパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂することがあります。

### ⚠注意



感電注意

濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



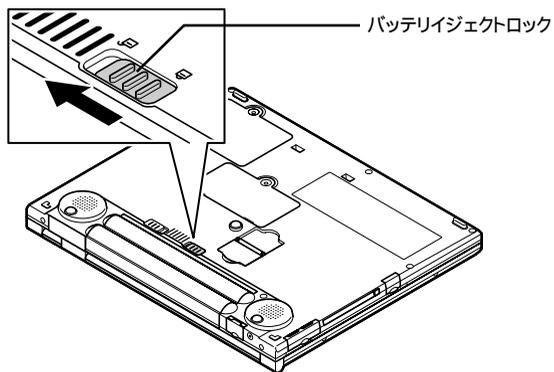
### チェック

- ・ バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
- ・ スタンバイ状態のときにバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ(④)が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してから「スタート」ボタン「終了」オプションをクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切ってください。
- ・ 特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。

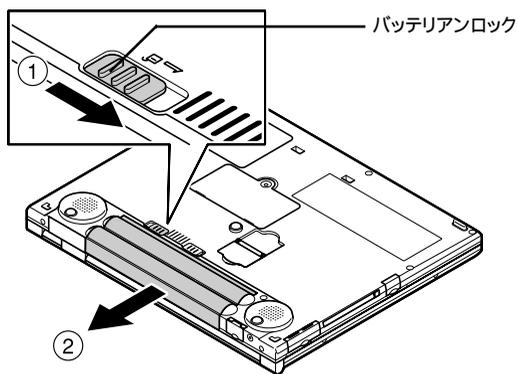
### LaVie Jの場合

- 1 「スタート」ボタン「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

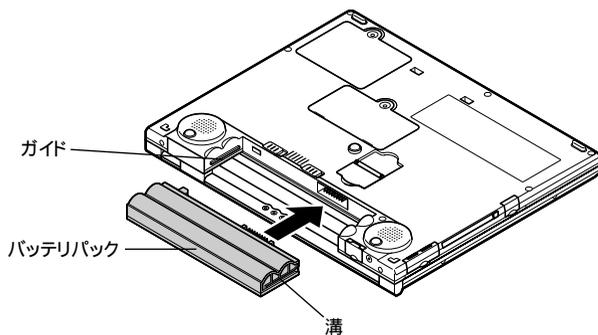
- 4 バッテリージェクトロックを矢印の方向にスライドさせ、ロックを解除する



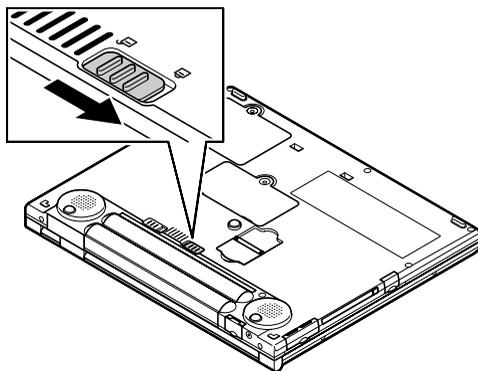
- 5 バッテリーアンロック (  ) を矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリーパックを外側にゆっくりとスライドして取り外す



- 6** 新しいバッテリーパックの両側の溝と本体のガイドを合わせて、矢印の方向にゆっくりとスライドさせ、カチッと音がするまでしっかり取り付ける。取り付けるときは、バッテリーパックの向きに注意してください。

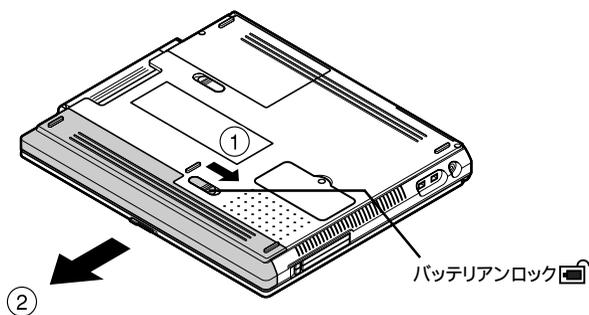


- 7** バッテリージェクトロックを矢印の方向にスライドさせ、バッテリーパックをロックする

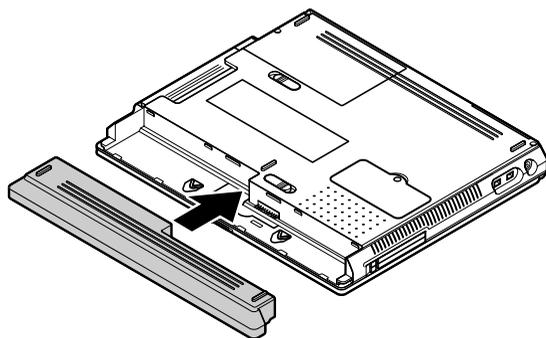


LaVie Mの場合

- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す
- 4 バッテリーアンロック(🔒)を矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリーパックを外側にスライドして取り外す



- 5 新しいバッテリーパックを矢印の方向にカチッと音がするまでスライドさせる



## バッテリー容量を増やす

このパソコンには、添付のバッテリーパックよりも大容量のバッテリーパックをバッテリースロットに接続することができます( LaVie Mのみ )。また、バッテリースロットに取り付けたバッテリーパックと併用できるセカンドバッテリーパックを接続することもできます。

### バッテリーパック( LL )( PC-VP-BP19 )( LaVie Mのみ )

バッテリーパック( LL )は、バッテリースロットに取り付けることができる大容量のバッテリーパックです。取り付けかたは、「バッテリーパックの交換のしかた」( p.58 )をご覧ください。



#### チェック

バッテリーパック( LL )は本体のバッテリースロットを使用するため、購入時に添付されているバッテリーパックと併用することはできません( LaVie Gシリーズでバッテリーパック( LL )添付のモデルを購入された場合を除く )。

### セカンドバッテリーパック( PC-VP-BP15 )( LaVie Mのみ )

セカンドバッテリーパックは本体のベイに取り付けるバッテリーパックです。ベイにあらかじめ取り付けられている機器を取り外してセカンドバッテリーパックを取り付けます。セカンドバッテリーパックは、バッテリースロットに取り付けたバッテリーパックやバッテリーパック( LL )と併用することができます。

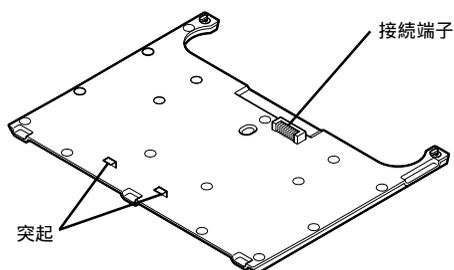


#### 参照

ベイへの機器の取り付けかた PART3の「ベイ( LaVie Mのみ )」( p.145 )

## セカンドバッテリーパック( PC-VP-BP23 (LaVie Jのみ) )

セカンドバッテリーパックは本体の底面に取り付けるバッテリーパックです。セカンドバッテリーパックは、バッテリースロットに取り付けたバッテリーパックと併用することができます。



### 🔍 チェック

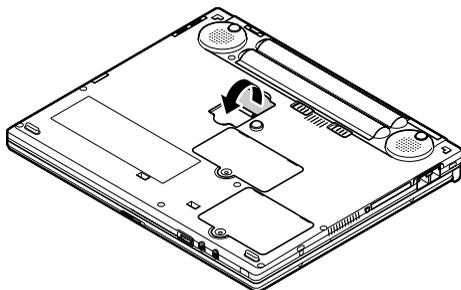
セカンドバッテリーパックのみで使用することはできません。標準のバッテリーパックを取り付けた状態でセカンドバッテリーパックを取り付けてください。

## セカンドバッテリーパックを取り付ける

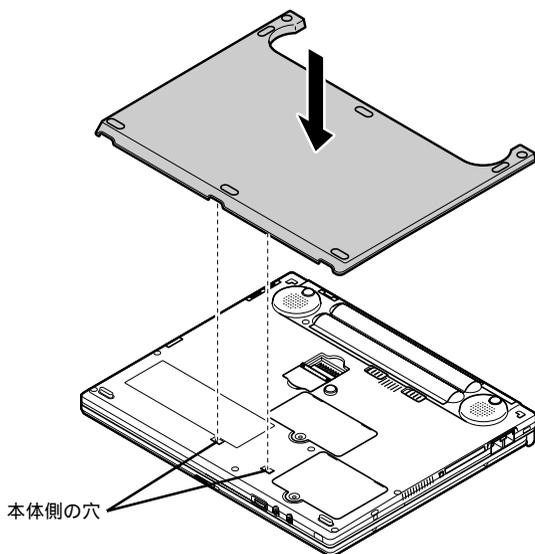
ここでは、電源を切った状態での取り付け方を説明しています。

- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

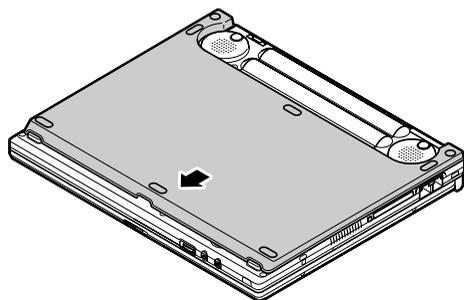
**4** 本体底面のセカンドバッテリーパック用接続端子のカバーを開く



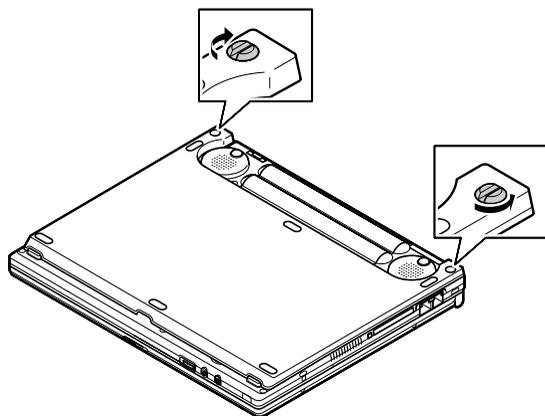
**5** パソコンの上にセカンドバッテリーパックを置く  
セカンドバッテリーパックの2カ所の突起 ( p.63 ) を、本体底面の2カ所の穴に合わせ  
てはめ込んでください。



- 6** セカンドバッテリーパックのみを図のように手前側にずらし、本体底面のセカンドバッテリーパック用接続端子とセカンドバッテリーパック側の接続端子( p.63 )を確実に接続する

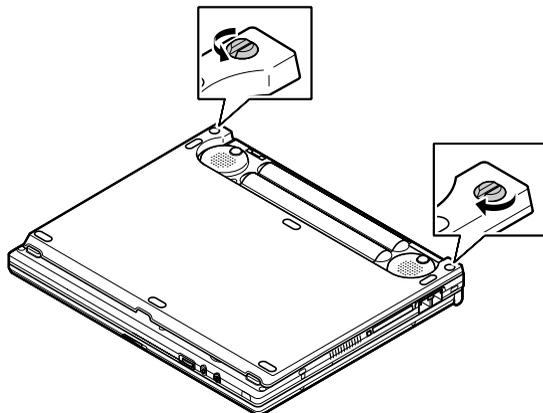


- 7** セカンドバッテリーパックのネジをドライバで締めて固定する



## セカンドバッテリーパックを取り外す

- 1 「セカンドバッテリーパックを取り付ける」( p.63 )の手順1～3を行う
- 2 セカンドバッテリーパックのネジをドライバーで緩める



- 3 セカンドバッテリーパックのみを奥側にずらし、本体底面のセカンドバッテリーパック用接続端子とセカンドバッテリーパック側の接続端子( p.63 )が外れたら、セカンドバッテリーパックを持ち上げて取り外す
- 4 本体底面のセカンドバッテリーパック用接続端子のカバーを閉める

# 省電力機能

## 省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

このパソコンの省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」、「休止状態(ハイバネーション)」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。このパソコンでの省電力機能の設定は、「スタート」ボタン「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」で行います。

## 省電力機能を使用するときの注意

### スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のような場合には、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。パソコンが正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- ・プリンタへ出力中
- ・通信用アプリケーションを実行中
- ・電話回線を使って通信中
- ・音声または動画を再生中
- ・ハードディスク、CD-ROMなどのディスク、フロッピーディスクなどにアクセス中
- ・「システムのプロパティ」ウィンドウを表示中
- ・Windowsの起動/終了処理中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカード、USB対応機器、IEEE1394対応機器を使用中

### スタンバイ状態または休止状態を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態にするときは、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態では、ネットワーク機能がいったん停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になった時にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。

- ・バッテリーのみで使用している場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいでください。また、バッテリー駆動時にバッテリー残量が少なくなってきたとき、パソコンをどのような動作にさせるかなどの設定もできます( p.54 )。
- ・スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。
- ・SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
- ・フロッピーディスクやCD-ROMをセットしたままスタンバイ状態または休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにフロッピーディスクやCD-ROMから起動してしまうことがあります。スタンバイ状態または休止状態にする場合は、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してからスタンバイ状態または休止状態にしてください。また、フロッピーディスクを使用しているときは、必要なファイルを保存してから、フロッピーディスクを取り出してください。
- ・「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」 をクリックして各設定を変更する場合は、コンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンしてください。

---

## スタンバイ状態または休止状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、パソコンに負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- ・スタンバイ状態または休止状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け / 取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力してください。
- ・タイム、FAXモデムの自動受信操作、および液晶ディスプレイを開いてのスタンバイ状態からの復帰を行った場合、パソコンはスタンバイ状態から復帰していますが、液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイを表示することができます。
- ・スタンバイ状態または休止状態から復帰後、デバイスの警告メッセージが表示される場合があります。その場合は「OK」ボタンをクリックしてください。警告が発生したデバイスは、そのまま使用できます。

## スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。

### スタンバイ状態にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。スタンバイ状態になると、電源ランプ(④)が緑色に点滅します。

「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「スタンバイ」ボタンをクリックする

バッテリー駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする

ほかに、「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」 をクリックし、「詳細設定」タブで設定を行うと、次のような方法でスタンバイ状態にするように設定できます。

電源スイッチを押す

「詳細設定」タブで、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。

液晶ディスプレイを閉じる

「詳細設定」タブで、「ポータブル コンピュータを閉じたとき」を「スタンバイ」に設定します。

### スタンバイ状態の設定をする

「電源設定」で設定をする

「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」の「電源設定」タブでは、スタンバイ状態にするまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にもスタンバイ状態になるように設定することができます。また、あらかじめ設定されている電源設定モードを選んでスタンバイ状態にするまでの時間を設定することもできます。



チェック

購入時のモードで利用してください。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」 をクリックする  
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

## 2 「電源設定」タブをクリックする

### 3 「電源設定」欄でモードを選ぶか、または画面の下段でそれぞれの時間を設定する

項目	説明
モニタの電源を切る	入力は何も行われないうまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
ハード ディスクの電源を切る	指定した時間ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。
システム スタンバイ	指定した時間何も入力がないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
システム休止状態	指定した時間何も入力がないと、パソコンが休止状態になり、電源が切れます。



メモ

- ・画面の下段の「××の電源設定」の「××」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。
- ・「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

## 4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

新しいモードを作成する

パソコンの利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。



チェック

購入時のモードで利用してください。

### 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」をクリックする

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

## 2 「電源設定」タブをクリックする

### 3 「モニタの電源を切る」「ハード ディスクの電源を切る」「システム スタンバイ」「システム休止状態」のそれぞれの時間を設定する

## 4 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする

- 5 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする  
これで、新しいモードが登録されました。
- 6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

## 休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。

データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。

### 休止状態にする

次のいずれかの方法で休止状態にすることができます。  
休止状態になると、電源ランプ(④)が消灯し、パソコンの電源が切れます。

「スタート」ボタン 「終了オプション」を使って休止状態にする

- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックする
- 2 【Shift】を押しながら「休止状態」ボタンをクリックする  
【Shift】を押すと「スタンバイ」ボタンが「休止状態」ボタンに切り替わります。

バッテリー駆動時、キーボードやNXパッドからの入力が無くなってから一定時間経過後、自動的に休止状態にする

ほかにも、次のいずれかの方法で休止状態にするように設定できます。

電源スイッチを押して休止状態にする

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックする  
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「休止状態」タブをクリックする
- 3 「休止状態を有効にする」がになっていることを確認する
- 4 「詳細設定」タブをクリックする

5 「電源ボタン」欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「休止状態」を選ぶ

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態にする

1 「電源スイッチを押して休止状態にする」の手順1～4を行う

2 「電源ボタン」欄の「ポータブル コンピュータを閉じたとき」で「休止状態」を選ぶ

3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

## スタンバイ状態や休止状態から復帰させる

スタンバイ状態や休止状態から復帰させることを「復帰」または「レジューム」といいます。

### スタンバイ状態からの復帰

電源スイッチを押すとスタンバイ状態から復帰し、ログオン画面が表示されます。「ユーザー名」をクリックしてログオンしてください。複数のユーザーでこのパソコンをお使いの場合は、ログオンしたい「ユーザー名」をクリックしてください。スタンバイ状態から復帰します。



メモ

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることによって復帰させることができます。また、タスクスケジューラを使って時刻を指定して復帰させることもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

### 休止状態からの復帰

電源スイッチを押すとパソコンの電源が入り、「Windows を再開しています...」と表示された後、ログオン画面が表示されます。「ユーザー名」をクリックしてログオンしてください。複数のユーザーでこのパソコンをお使いの場合は、ログオンしたい「ユーザー名」をクリックしてください。休止状態から復帰します。

# セキュリティ機能

## このパソコンのセキュリティ機能

このパソコンには、次のようなセキュリティ機能があります。

### パスワード

パスワードを設定することにより、パソコンの不正使用やデータの盗難を防止することができます。

### ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止

起動セクタへの書き込みを禁止することにより、パソコンの起動に必要なファイルへのウイルス感染を防止することができます( p.161 )

### 盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロック( p. 3, 5 )に別売のセキュリティケーブル( PK-SC/CA01 )を取り付け、盗難を防止することができます。



### チェック

セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

## パスワードを設定してパソコンの使用者を制限する

パスワードを設定することで、このパソコンの使用者を制限するとともに、不正使用を防止することができます。パスワードはBIOSセットアップユーティリティで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- ・ BIOSセットアップユーティリティの起動と設定変更
- ・ パソコンの起動



### チェック

- ・ 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。
- ・ ご購入元、NECフィールドディングの各支店、営業所などにこのパソコンの修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。



### 参照

パスワードを忘れてしまった 『困ったときのQ&A』PART2の「パスワード」

---

## パスワードの種類

設定可能なパスワードには、「スーパーバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

### スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは、おもに管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、このパソコンの使用者を制限するために設定します。また、使用者の使用できる機能を制限することもできます。

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップユーティリティ起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップユーティリティを起動できなくなります。

### ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに使用者のためのパスワードで、パスワードを入力しないと、パソコンを使用できなくなります。

---

## パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知します。このように設定しておく、管理者以外はBIOSセットアップユーティリティの設定を変更できなくなります。また、どちらのパスワードも通知されていない人は、パソコンを起動することもできません。

---

## パスワードを設定する

スーパーバイザパスワードとユーザパスワードは、BIOSセットアップユーティリティで設定します。パスワードを設定後にBIOSセットアップユーティリティを起動するときは、設定したパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップユーティリティを起動することができなくなります。

- 1 BIOSセットアップユーティリティを起動する( p.154 )
- 2 「セキュリティ」メニューを選ぶ
- 3 **[ ]**を使って「スーパーバイザパスワード設定」または「ユーザパスワード設定」を選ぶ



### チェック

スーパーバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

**4** 【Enter】を押す  
パスワード設定の画面が表示されます。

**5** パスワードを入力する



ニューメジックロックキーランプ (  ) が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を8文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z / 大文字 / 小文字の区別はありません と半角数字の0～9だけです。

**6** 【Enter】を押す

**7** 手順5で入力したパスワードを、もう一度入力する

**8** 【Enter】を押す

**9** 「セットアップ通知」のメッセージが表示されるので、いずれかのキーを押す

**10** 設定を保存して、BIOSセットアップユーティリティを終了する



設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

## パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップユーティリティ起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップユーティリティ起動時以外にも、次のようなタイミングに設定できます。

### パソコンの起動時

パソコンの起動時に常にパスワードを入力するように設定するには、次の手順で行います。

- 1** BIOSセットアップユーティリティを起動する( p.154 )
- 2** 「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を選ぶ
- 3** 「使用する」を選ぶ
- 4** BIOSセットアップユーティリティを終了する

## パスワードを入力する

パスワードを設定している場合の電源の入れかた

BIOSセットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

### 1 パソコンの電源を入れる

次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

パスワードを入力してください。 [ \_ ]

### 2 設定されているパスワードを入力する

### 3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。



#### チェック

- ・ 誤ったパスワードが入力されると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチ(⏻)を押して電源を切ったあと、もう一度手順1からやりなおしてください。
- ・ スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、どちらのパスワードでも復帰することができます。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると復帰できません。

# サウンド機能

## 音量を調節する

### 音量調節つまみを使う

#### LaVie Jの場合

音量を上げたいときは音量調節つまみ(  ) p.2 を本体の右側に回し、下げたいときは本体の左側に回します。

#### LaVie Mの場合

音量を上げたいときは音量調節つまみ(  ) p.4 を本体の背面側に回し、下げたいときは本体の前面側に回します。

### ボリュームコントロールを使う

「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」 「エンターテイメント」 「ボリューム コントロール」を開くと、内蔵音源の再生音量や録音するときの入力レベルを調節することができます。詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

### ビープ音のオン / オフを切り替える

キーボードの【Fn】+【F6】を押すと、ビープ音のオン / オフを切り替えることができます。

ビープ音には、システムブザー、PCカードブザー、モデム音などがあります。

## 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について

このパソコンのヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子に光デジタル入力端子を持ったオーディオ機器を接続し、音楽を再生したりMDなどにデジタルで録音することができます。



メモ

光デジタル入力端子を持つオーディオ機器として、MDデッキやAVアンプなどがあります。



### チェック

お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについての著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を受けていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製に関する注意事項にしたがってください。

ヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ( S/PDIF )出力端子からは、WAVE出力、MIDI出力、音楽CDなどのデジタル再生音を出力することができます。LaVie Mをお使いの場合は、別売のサラウンド5.1chスピーカシステムを接続することにより、DVD VIDEOディスク再生時に5.1chのDolby Digitalを出力することができます。

Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルの記号はドルビーラボラトリーズの商標です。  
ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。  
非公開機密著作物。著作権1992 - 1999年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。



### 参照

ヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ( S/PDIF )出力端子 PART3の「ヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ( S/PDIF )出力端子」( p.150 )

## 光デジタルオーディオ( S/PDIF )出力機能を利用するには

### 光デジタル入力端子を持つオーディオ機器を接続する

このパソコンのヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ( S/PDIF )出力端子と、市販の光デジタル入力端子を持つオーディオ機器を接続するには、別売の光デジタル接続ケーブルが必要です。



### メモ

市販の光デジタル接続ケーブルを購入する際は、このパソコンのヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ( S/PDIF )出力端子の形状と、接続するオーディオ機器の光デジタル入力端子の形状を確認してください。



### 参照

光デジタル接続ケーブルを接続する 接続するオーディオ機器のマニュアル

### 光デジタルで出力できる設定になっていることを確認する

光デジタルオーディオ( S/PDIF )出力端子から光デジタル出力ができる設定になっていることを確認してください。出力できない設定になっている場合は設定を変更してください。



参照

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力するための設定について  「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「サウンドの設定」-「MDデッキやAVアンプで使う」

## 音楽CDからのデジタル出力設定

音楽CDからのデジタル出力を行う場合は、デジタル出力できる設定になっていることを確認してください。出力できない設定になっている場合は設定を変更してください。



チェック

USBコネクタに接続するCD-R/RWドライブまたはCD-ROMドライブは、音楽CDからのデジタル出力のみ使用可能です。USBコネクタに接続するCD-R/RWドライブまたはCD-ROMドライブを使用して音楽CDを再生/録音する場合は、アナログではなくデジタルで音楽CDを再生するように設定しておく必要があります。



参照

音楽CDからのデジタル出力をするための設定について  「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「サウンドの設定」



P A R T

# 2

## 通信機能

---

このパソコンを、一般の電話回線、携帯電話やPHS、ネットワークなどに接続して使う方法を説明します。

---

# モデム

## 内蔵モデムを利用する

内蔵FAXモデムと電話回線を接続すると、インターネットやメールの利用、FAXの送受信などができるようになります。

### 電話回線に接続するときは

使用する電話回線の種類によってはすぐに接続できない場合があります。3ピンプラグ式コンセントの場合は、市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、モジュラージャック方式への変更が必要です。また、直結配線方式の場合は、モジュラージャック方式への変更が必要です。モジュラージャック方式への変更についてはNTTに相談してください。

### 電話回線に接続する

このパソコンに電話回線を接続する場合は、添付のモジュラーケーブルを使用して、本体の電話回線用モジュラーコネクタ  p.3、5 と電話回線を接続してください。

接続について詳しくは、『はじめにお読みください』をご覧ください。



参照

電話回線に接続する 『はじめにお読みください』の「インターネットに接続しよう」



メモ

このパソコンに付属のモジュラーケーブルの長さが足りない場合は、十分な長さの市販のモジュラーケーブルを購入してください。



チェック

内蔵FAXモデムは、一般加入電話回線に適合するように設計されています。一般加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

1つの電話回線のモジュラージャックをパソコン以外の機器（たとえば電話機など）と共用する場合は、機器を使用するごとにケーブルの接続や取り外しが必要になります。パソコンと電話機などを両方も電話回線に接続したままにしたい場合は、次の1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続するをご覧ください。

## 1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続する

電話回線のモジュージャックが1つの場合、パソコンで通信している間は、電話機のモジュラーケーブルの接続を取り外す必要があります。電話機のモジュラーケーブルを取り外したくない場合は、市販の分岐アダプタを利用し、パソコンと電話機の両方を接続することができます。

### ！チェック

- ・分岐アダプタを使用しても、パソコンと電話機が同時に電話回線を使用することはできません。
- ・パソコンで通信中は、電話機の受話器を外さないでください。通信が妨害され、切断されることがあります。

## 内蔵モデムを使用するときの注意

- ・このパソコンでは、データ通信、ファクシミリ通信、インターネット通信の各機能が使えますが、これらの機能は添付のアプリケーション以外では動作しない場合があります。これらの機能の詳しい使用方法については  ヘルプガイド をご覧ください。
- ・内蔵FAXモデムは一般加入電話回線のみに対応しています。一般加入電話回線以外に接続すると、パソコン本体の故障、発熱の原因になることがありますので注意してください。
- ・構内交換機 (PBX) の種類によっては、内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。構内交換機 (PBX) が、NTTの一般加入電話回線と同等であることを確かめてください。
- ・加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
- ・回線の状態によっては、接続しにくかったり通信時に雑音が入ることがあります。
- ・キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・ダイヤルアップネットワーク接続の場合、Internet Explorerを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。回線を切断する必要がある場合は、画面右下の通知領域にある  をクリックし、表示された画面から「切断」ボタンをクリックしてください。
- ・コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線を使っている場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- ・データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。

- ・このパソコンの内蔵FAXモデムは、海外では使用できません。
- ・回線を使って通信中は、スタンバイ状態や休止状態にしないでください。
- ・内蔵FAXモデムで通信を行う場合は、使用していないアプリケーションを終了してください。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。



参照

ATコマンドについて  「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「ATコマンド」

## 接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、モデムを使用した接続設定にする場合は、次の手順で設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「ネットワークとインターネット接続」 「ネットワーク接続」をクリックする
- 2 ダイヤルアップの接続設定をしているアイコンをダブルクリックする
- 3 「プロパティ」ボタンをクリックする
- 4 「全般」タブをクリックし、「接続方法」欄で次のものを選ぶ  
Lucent Technologies Soft Modem AMR
- 5 「OK」ボタンをクリックする
- 6 ウィンドウの右上の  をクリックしてウィンドウを閉じる

## インターネットへの通信環境を切り替える

「ネット簡単切替ツール」を使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。

パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用するときなどに便利な機能です。



参照

「ネット簡単切替ツール」について  「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「ネット簡単切替ツール」または「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「ネット簡単切替ツール」 「ネット簡単切替ツール ヘルプ」

# テレビ電話

## テレビ電話とは

ヘッドホンマイクとUSBカメラを使うとテレビ電話が利用できます。テレビ電話では音声だけでなく、USBカメラを使って映像も同時に送受信できるので、相手の表情を見ながら会話をしたり、音声だけでは伝えきれない内容を映像で伝えることができます。

テレビ電話を利用するには、ヘッドホンマイクとUSBカメラが必要です。このパソコンにはUSBカメラは添付されていないので、ヘッドホンマイクが添付されているモデルをお使いの場合は、別売のUSBカメラを用意してください。ヘッドホンマイクが添付されていないモデルをお使いの場合は、ヘッドホンマイクとUSBカメラがセットになった別売のインターネットTV電話セット( PC-VP-WS06 )を用意してください。

## ヘッドホンマイクとUSBカメラを接続する

### ヘッドホンマイクを接続する

#### △注意



注意

ヘッドホンマイクをお使いになるときは、音量を上げすぎないように注意してください。大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与えることがあります。



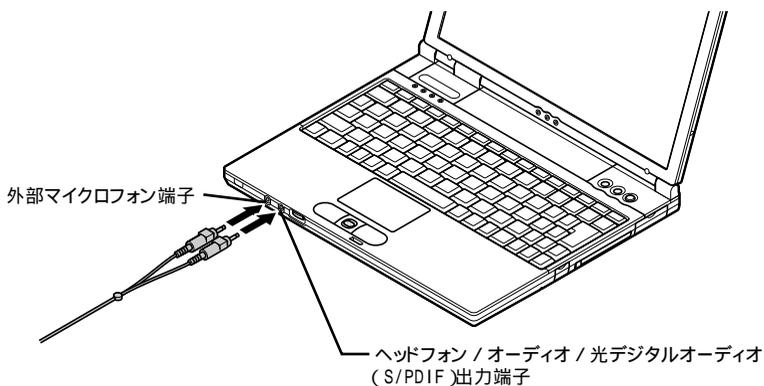
#### チェック

ヘッドホンマイクを装着した状態で、プラグの抜き挿し、パソコン本体の電源のオン/オフ、省電力状態/復帰の操作をしないでください。聴力に悪い影響を与えることがあります。

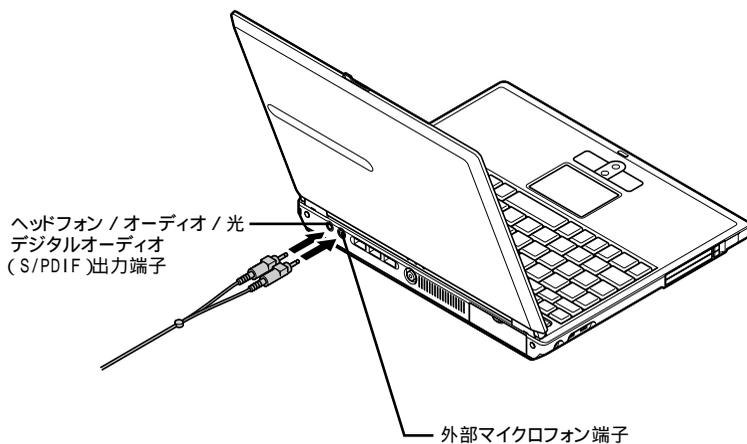
## 接続のしかた

- 1 ヘッドホンマイクの黒いプラグをヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子 (  /  /  ) に、桃色のプラグを外部マイクロフォン端子 (  ) に接続する

・LaVie Jの場合

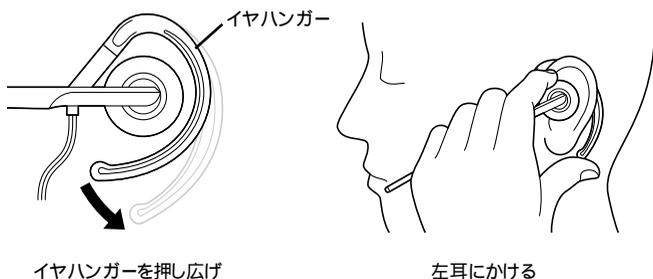


・LaVie Mの場合



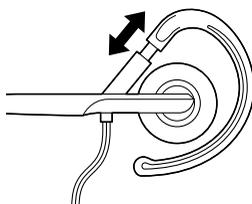
## 装着のしかた

ヘッドフォンマイクは左耳用です。図のように耳にかけて使用してください。



メモ

- ・ご使用の際は、マイク部を口元に向けてください。
- ・ヘッドフォンマイクが耳に合わない場合は、イヤハンガー部分をスライドさせて位置を調整してください。

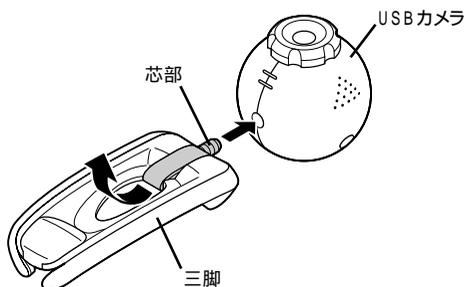


## USBカメラを接続する

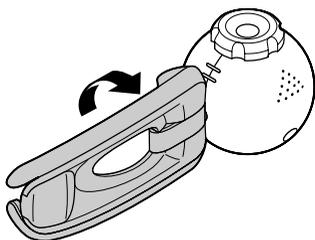
USBカメラは、三脚を取り付けた後、脚を広げて固定して使用してください。

### USBカメラの組み立てと設置

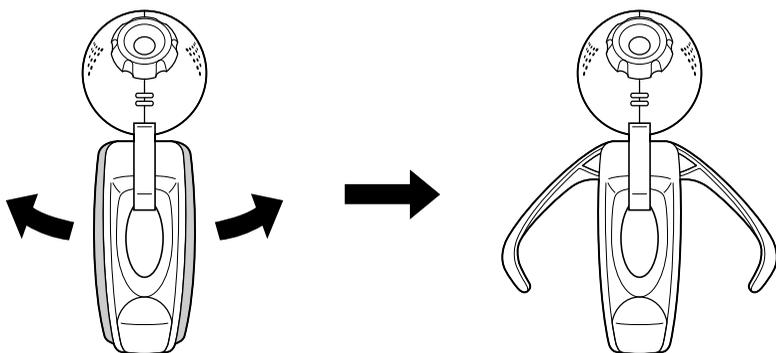
- 1 三脚の芯部をUSBカメラのネジ穴に向くように回転させ、ネジ穴に差し込む



## 2 三脚を矢印の向きに回してUSBカメラに固定する



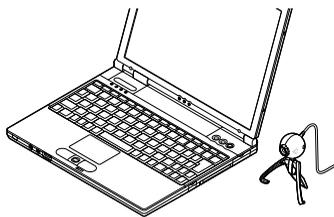
## 3 三脚を広げてUSBカメラを設置する



### ◆メモ

USBカメラは、液晶ディスプレイや机の上などに設置することができます。

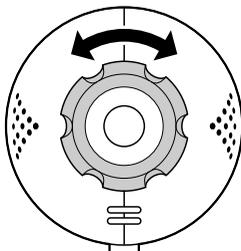
- ・液晶ディスプレイの上に設置する場合
- ・机の上に設置する場合



イラストは、LaVie Jのものです。

## USBカメラの接続と調整

- 1 USBカメラのケーブルをパソコン本体のUSBコネクタ(  p.2、3、5 ) に接続する
- 2 「スタート」ボタン 「マイ コンピュータ」をクリックし、「スキャナとカメラ」にある「Logitech QuickCam Express」をダブルクリックする  
USBカメラの映像が表示されます。
- 3 映像がぼやけている場合は、図の部分回してピントを調整する



メモ

回しきった場合は反対方向へ回してください。同じ向きに無理に回すと、故障の原因となることがあります。

## テレビ電話をはじめ

テレビ電話は、「Windows Messenger」を使って行います。  
Windows Messengerの使いかたや設定のしかたについて詳しくは、「ばそガイド」・「パソコンでできること」・「Windows Messenger」をご覧ください。

## インターネット電話を使う

BIGLOBEのサービス「dialpadインターネット電話」を利用すると、インターネット経由で電話をかけることもできます。パソコン同士でインターネット電話するだけでなく、日本、アメリカ、韓国の一一般の電話にも電話をかけることができます。



メモ

dialpadインターネット電話については、BIGLOBEのホームページをご覧ください。

<http://phone.biglobe.ne.jp/dialpad/>

# 携帯電話 / PHS 接続機能

## 携帯電話またはPHSと接続する

このパソコンに携帯電話やPHSを接続して、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。

このパソコンに携帯電話やPHSを接続する場合には、次のような別売の携帯電話接続ケーブルやPHS接続ケーブルが必要です( LaVie Gシリーズで、それぞれのケーブル添付のモデルを購入された場合を除く )

- ・ 携帯電話( DoPa/PDC )接続ケーブル( PC-VP-WK05 )
- ・ cdmaOne接続ケーブル( PC-VP-WK06 )
- ・ PHS( NTTドコモ / アステル )接続ケーブル( PC-VP-WK07 )
- ・ PHS( DDIポケット )接続ケーブル( PC-VP-WK08 )



メモ

接続できる携帯電話またはPHSについては、NECのホームページ「121ware.com( ワントゥワンウェア ドット コム )」をご覧ください。

<http://121ware.com/>

## 接続の方法

このパソコンに携帯電話またはPHSを接続する方法は、次のとおりです。

### ⚠ 警告



感電注意

雷が鳴り出したら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

- 1 携帯電話接続ケーブルまたはPHS接続ケーブルのプラグを、携帯電話またはPHS本体に接続する  
プラグの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。
- 2 パソコンのUSBコネクタ(  p. 2、3、5 )に、接続ケーブルのプラグを接続する  
プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。



接続ケーブルのプラグは、どのUSBコネクタに接続してもかまいません。USBコネクタへの接続については、PART3の「USB対応機器」(p.147)をご覧ください。

## 携帯電話 / PHS接続機能を使用するときの注意

- ・このパソコンの携帯電話 / PHS接続機能では、購入時にインストールまたは添付されているアプリケーションのみ使用できます。携帯電話用に市販されているアプリケーションを使用することはできません。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。



参照

ATコマンドについて 「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「ATコマンド」

## 接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、携帯電話またはPHSを使用した接続設定にする場合は、次の手順で設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「ネットワークとインターネット接続」 「ネットワーク接続」をクリックする
- 2 ダイアルアップの接続設定をしているアイコンをダブルクリックする
- 3 「プロパティ」ボタンをクリックする
- 4 「全般」タブをクリックし、「接続方法」欄で次のものを選ぶ
  - ・SunComm MultiMobile3 USB
- 5 「OK」ボタンをクリックする
- 6 ウィンドウの右上の  をクリックしてウィンドウを閉じる



チェック

お使いの携帯電話やPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、携帯電話またはPHSのマニュアルをご覧ください。また、専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

## ダイヤル設定のしかた

携帯電話またはPHSを接続して、屋外などでインターネットや電子メールを利用する場合、近くのアクセスポイントを使えば電話料金を節約することができます。



ここでの説明は、すでにプロバイダとの契約が終わっていることが前提となっています。

ネット簡単切替ツールを使うと、使用する場所にあわせてダイヤル設定を切り替えることができます。

ネット簡単切替ツールでアクセスポイントなどの設定を切り替えるには、まず自分が使用する予定の場所の市外局番やダイヤル方法、アクセスポイントを設定しておく必要があります。

一度設定すると、接続先を選ぶだけでインターネットエクスプローラやメールソフトの設定など、インターネットへの接続環境をすべて同時に変更することができます。外出先でも快適に利用するために、以降の説明を読んで必要な設定を行ってください。

外出先に最も近いアクセスポイントをあらかじめ調べておく

ネット簡単切替ツールでアクセスポイントを登録する  
外出先に最も近いアクセスポイントを設定します。  
BIGLOBE会員の方は、「BIGLOBEかんたん接続ナビ」で最も近いアクセスポイントを設定することができます。

ネット簡単切替ツールで接続先を切り替える  
これで外出先でインターネットやメールを楽しむことができます。

外出先から帰ったら、インターネット接続の設定を元に戻す  
ネット簡単切替ツールでインターネット接続の設定を自宅の設定に戻します。



## メモ

- ・アクセスポイントを変更しなくてもインターネットやメールを楽しむことはできますが、アクセスポイントまでの電話料金がたくさんかかることとなります。最も近いアクセスポイントに変更することによって電話料金をおさえることができます。
- ・「BIGLOBEかんたん接続ナビ」でアクセスポイントを変更する  「ばそガイド」-「BIGLOBE入会案内」



## 参照

「ネット簡単切替ツール」について  「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「ネット簡単切替ツール」または「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「ネット簡単切替ツール」 「ネット簡単切替ツール ヘルプ」

## いろいろなデータ通信を行う

このパソコンの携帯電話 / PHS接続機能では、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

- ・cdmaOneによるデータ通信
- ・NTTドコモのDoPaサービスによるデータ通信
- ・NTTドコモのドッチーモによるPIAFS32Kデータ通信
- ・NTTドコモのドッチーモによるPIAFS64Kデータ通信
- ・NTTドコモの64K対応PHSによるデータ通信
- ・DDIポケットの32K対応電話機によるPIAFS32Kデータ通信
- ・DDIポケットのH“(エッジ)”によるPIAFS64Kデータ通信

これらのデータ通信を利用する場合には、それぞれのデータ通信に対応した接続ケーブルと、ダイヤルアップの接続の設定が必要になることがあります。



## チェック

これらのデータ通信を利用する場合は、アクセスポイントが利用するデータ通信に対応していることを確認してください。対応していないデータ通信方式で接続すると、接続できなかったり、正常に通信できないことがあります。

データ通信の種類		必要な接続ケーブル	ダイヤルアップの接続の設定
cdmaOne <sup>1</sup>		cdmaOne接続ケーブル (PC-VP-WK06)	必要ありません。
NTTドコモ	DoPaサービス (パケット通信サービス)	携帯電話(DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	電話番号の最後に「##02」を追加する <sup>2</sup>
	PHS (64K対応機種)	携帯電話 (NTTドコモ/アステル) 接続ケーブル (PC-VP-WK-07)	電話番号の最後に「##4」を追加する
	ドッチーモ (PIAFS64K 機種) <sup>3</sup>	携帯電話(DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	電話番号の最後に「##4」を追加する
	ドッチーモ (PIAFS32K 機種) <sup>3</sup>	携帯電話(DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	電話番号の最後に「##3」を追加する <sup>4</sup>
DDIポケット	PIAFS32K 対応電話機	PHS(DDIポケット) 接続ケーブル (PC-VP-WK08)	電話番号の最後に「##3」を追加する <sup>4</sup>
	H <sup>+</sup> (エッジ)	PHS(DDIポケット) 接続ケーブル (PC-VP-WK08)	電話番号の最後に「##4」を追加する <sup>5</sup>

1: データ通信を行うには、データ通信モードを「Async」に設定する必要があります。Packet通信モードを利用する場合は、データ通信モードを「Packet」に変更してください。データ通信モードの切り替えについては、cdmaOneの取り扱い説明書をご覧ください。

2: DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合、この設定は必要ありません。

3: ドッチーモでPIAFS通信を行う場合は、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切りかえる必要があります。

4: NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSをお使いの場合は、この設定は必要ありません。

5: 一部の地域では64Kbpsでのデータ通信ができないことがあります。32Kbpsで接続されます。また、次のような場合にも、64Kbpsでなく、32Kbpsで接続されることがあります。

- ・電話番号の最後に「##4」を追加しなかった場合
- ・回線が混雑している場合

# 携帯電話連携機能

## 携帯電話に登録してある情報を編集する

このパソコンと携帯電話を接続して、携帯電話に登録してある電話番号や連絡先などの情報をパソコン上で編集することができます。また、着信メロディやメールの編集もできます。編集作業には「携快電話6in」を使います。



参照

携快電話6inについて 携快電話6inのヘルプ、または、「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「携快電話6in」

## iモード機能を備えている携帯電話と連携して使う

予定表や連絡先をホームページ上で入力したり、作成した画像データなどをあらかじめホームページに登録しておき、そのデータをiモード機能を備えている携帯電話を使って閲覧することができます。

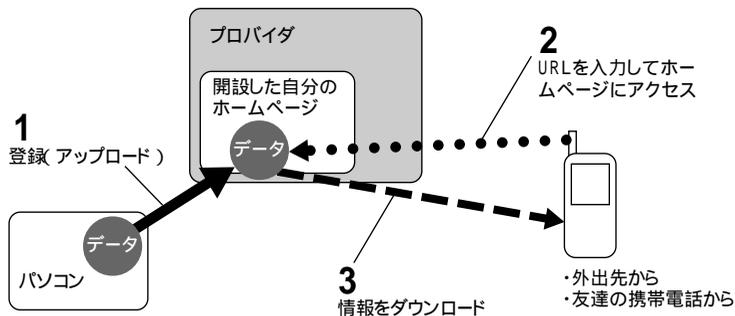
携帯電話でデータを閲覧できるようにするためには、次の装置が必要です。

iモード機能を備えた市販の携帯電話

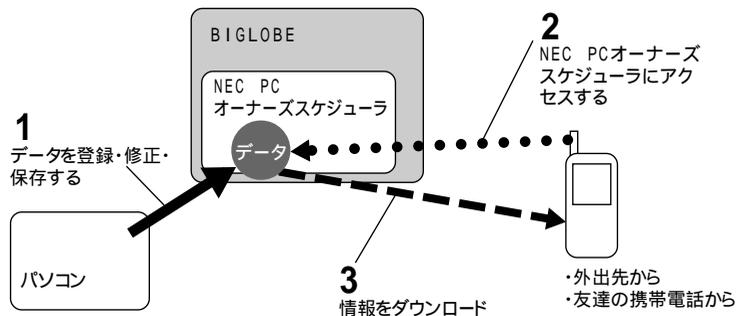
携帯電話でデータを閲覧するには

次の図のような流れでデータを登録し、携帯電話で閲覧します。

自分のホームページを使用する場合



NEC PCオーナーズスケジューラを使用する場合



## 携帯電話でデータを閲覧するための準備

インターネットに接続できる環境にする  
プロバイダに入会してインターネットに接続できるように設定しておきます。



参照

インターネットに接続する 『はじめにお読みください』の「インターネットに接続しよう」または「ばそガイド」の「インターネットと電子メールをはじめよう」

閲覧したいデータを置いておく場所を確保する

携帯電話から閲覧したいデータを置いておく場所を確保するには、自分のホームページスペースを確保しておく方法と、NEC PCオーナーズスケジューラを利用する方法があります。

- ・自分のホームページスペースを開設する

FTPプロトコル(インターネット上でファイル転送するための規格)に対応した、インターネットに公開可能なホームページスペースを開設しておきます。  
ホームページの開設方法は、各プロバイダに確認してください。



メモ

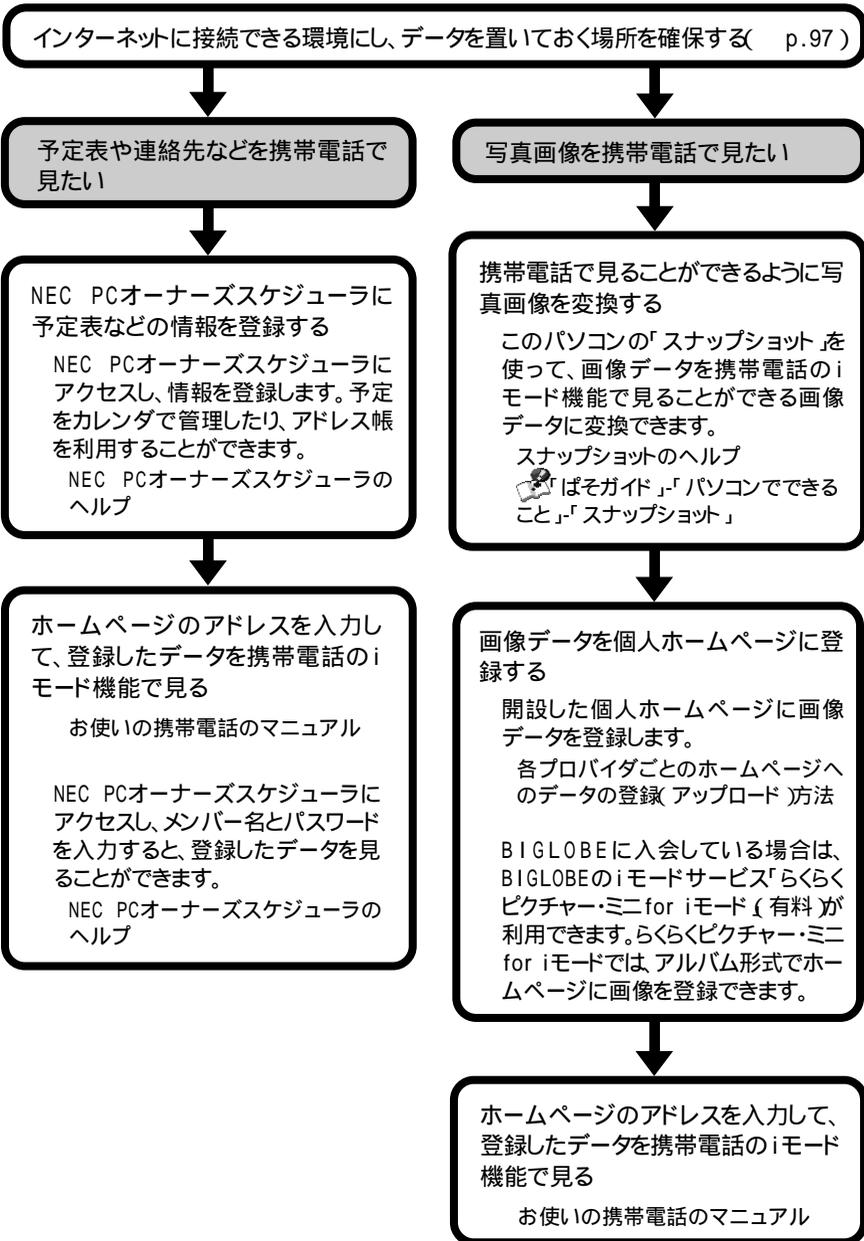
ここでいうホームページスペースとは、プロバイダに入会して開設した個人ホームページのことです。開設した個人ホームページに自分の予定表や好きな画像などのデータを登録し、携帯電話からその場所を閲覧します。

- ・NEC PCオーナーズスケジューラに登録する  
NEC PCオーナーズスケジューラは、予定表、アドレス帳などの情報をインターネット上でまとめて管理するためのホームページです。  
NEC PCオーナーズスケジューラの基本サービスへの登録は無料です。

NEC PCオーナーズスケジューラのURL

[http://www.biglobe.ne.jp/nec\\_pc/imodel/schedule/](http://www.biglobe.ne.jp/nec_pc/imodel/schedule/)

## 携帯電話で登録したデータを見る



## LAN (ローカルエリアネットワーク)

LAN内蔵モデル / LANカード添付モデル / 2.4GHzワイヤレスLANモデルでは、LANインターフェイスによるネットワーク接続が可能です。

2.4GHzワイヤレスLANを使ってネットワークに接続する場合は、「2.4GHzワイヤレスLAN」( p.103 )も合わせてご覧ください。

### LANに接続するときの注意

LANに接続してこのパソコンを使用するときは、次の点に注意してください。

- ・システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れたときは、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は「スタート」ボタン「終了オプション」をクリックし、「再起動」ボタンをクリックしてWindowsを再起動してください。
- ・100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ・ネットワーク通信をする場合には、パソコンにACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリーパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- ・ネットワークとの通信中にはスタンバイ状態や休止状態にしないでください。このパソコンが正常に動かなくなることがあります。

### LANに接続する

このパソコンのLANインターフェイスで、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。



メモ

100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のハブやリンクケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。このパソコンは、どちらの環境にも接続することができます。

### LANの設置

はじめて100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、このパソコンに接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

## 接続方法

既存のネットワークに、端末としてこのパソコンを接続する場合について説明します。

ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。

このパソコンのLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX(100Mbps)で使用する場合は、必ずカテゴリ5のリンクケーブルを使用してください。10BASE-T(10Mbps)で使用する場合は、カテゴリ3または5のリンクケーブルを使用してください。



### チェック

- ・このパソコンを稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示にしたがって、ネットワークの設定やリンクケーブルの接続を行ってください。
- ・ネットワークの設定について詳しくは、「ばそガイド」の「パソコンでできること」の「LANの設定」をご覧ください。

### LAN内蔵モデルの場合

- 1 「スタート」ボタン、「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る
- 2 リンクケーブルの一端を、このパソコンのLAN用モジュラーコネクタ(品)( p.3、5)に奥までしっかり差し込む
- 3 リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク(100BASE-TXハブなど)に接続する  
ネットワーク側の接続や設定については、接続した機器のマニュアルをご覧ください。

### LANカード添付モデルの場合

添付の『LANカード添付モデルをご購入のお客様へ』をご覧ください。

### 2.4GHzワイヤレスLANモデルの場合

「2.4GHzワイヤレスLAN」( p.103)をご覧ください。

## 電源回復(スタンバイ状態からの復帰)の設定(LAN内蔵モデルのみ)

次の設定を行うと、このパソコンをネットワークに接続して使用している場合、電源回復イベントが発生したときに、パソコンをスタンバイ状態から自動的に復帰させることができます。



### チェック

- ・電源回復イベントの設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合にくらべて、パソコンのバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先して使いたい場合は、電源設定は行わずに購入時の設定で使用してください。
- ・電源回復(スタンバイ状態からの復帰)を使用する場合は、パソコンにACアダプタを接続して使用してください。

- 1 「デバイス マネージャ」を開く ( p.vi )
- 2 「ネットワーク アダプタ」の左の  をクリックして表示されたLANアダプタをダブルクリックする
- 3 「電源の管理」タブをクリックする
- 4 以下の設定を行う
  - ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」が  になっていることを確認する
  - ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」の  をクリックして  にする



### メモ

電源回復イベントには、MagicPacket検出に加えて、電源回復フレーム検出(たとえば、ARPLクエスト、NetBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどの検出)があります。MagicPacket以外の電源回復イベントでスタンバイ状態から復帰させたい場合は以下の設定を行ってください。

- ・「管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」の  をクリックして  にする

## ユニバーサル管理アドレス( MACアドレス )

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE( 米国電気電子技術者協会 )で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。ユニバーサル管理アドレスは、コマンドプロンプトで、次のどちらかのコマンドを入力し、【Enter】を押すことで確認できます。

```
net config workstation
```

「アクティブなネットワーク(ワークステーション)」という項目の( )内に表示されます。

```
ipconfig/all
```

「Physical address」として表示されます。

## CATVでインターネットを利用する

このパソコンに内蔵されているLANインターフェイスから、CATVインターネットを利用することができます。

### CATVインターネットとは

CATVインターネットは、CATVのケーブルを利用したインターネット接続サービスです。約500Kbps～約10Mbps( モデムの約10～100倍 )の高速な接続が可能です。また、電話回線を利用しないため、電話料金がかかりません(ただしCATVインターネットのサービス会社への接続料金はかかります)。



メモ

データの転送速度は、CATVインターネットのサービス会社によって異なります。また、データの転送速度は、回線の混雑の状況、データを転送する状況(アップロード時か、ダウンロード時か)によって変化することがあります。

### CATVインターネットを利用するには

CATVインターネットを利用するには、CATVインターネットのサービス会社(最寄りのCATV局)と契約が必要です。最寄りのCATV局に、インターネットの接続サービスを行っているかを確認してください。

CATVインターネットへの接続方法や設定方法については、CATVインターネットのサービス会社に確認してください。

CATVインターネットのサービス会社によっては、ユニバーサル管理アドレス( MACアドレス )が必要になります。ユニバーサル管理アドレス( MACアドレス )については、前述の「ユニバーサル管理アドレス( MACアドレス )」をご覧ください。

## 2.4GHzワイヤレスLAN

ここでは、2.4GHzワイヤレスLANモデルについての説明をしています。LANに接続する場合は「LAN(ローカルエリアネットワーク)」( p.99 )も合わせてご覧ください。

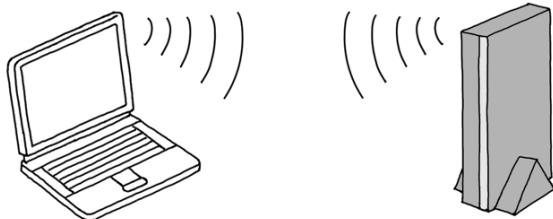
### 2.4GHzワイヤレスLAN機能でできること

このパソコンの2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用することで、次のようなことができます。

#### 2.4GHzワイヤレスLAN対応周辺機器(親機)とのワイヤレス接続

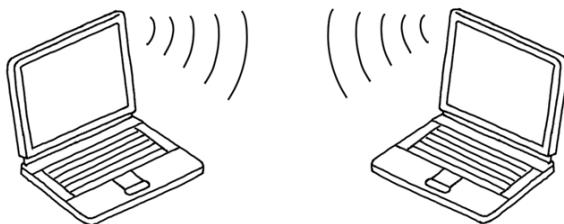
このパソコンと2.4GHzワイヤレスLANに対応した別売の周辺機器(親機)を使用すると、ケーブルで接続せずにLANを利用することができます。

たとえば、2.4GHzワイヤレスLANに対応したターミナルアダプタなどを利用してインターネットに接続することができます。



#### 他の2.4GHzワイヤレスLAN対応パソコンとのワイヤレス通信

このパソコンと2.4GHzワイヤレスLANに対応した他のパソコンを使用すると、ケーブル接続やフロッピーディスクなどの媒体を使用せずに、ファイルのコピーなどを行うことができます。



## 2. 4GHzワイヤレスLAN機能を使用するときの注意

### ⚠ 警告



感電注意

埋め込み型心臓ペースメーカーを装着されている方は、本製品をペースメーカー装着部から22cm以上離して使用してください。

満員電車の中など、人と人とが近接する状態となる可能性のある場所では、本製品の電源を切るか2.4GHzワイヤレスLAN機能をオフにしてください。



けが注意

これは心臓ペースメーカーや補聴器などの医療機器を使用している方と近接する可能性があり、万が一にでもそれらの機器に影響を与えることを防ぐためです。

本製品の電波出力は、たとえば携帯電話などに比べて低く抑えられており、医療機器に与える影響はきわめて少ないものですが、使用に際しては各医療機関の指示にしたがってください。特に医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品の電源を切るか2.4GHzワイヤレスLAN機能をオフにしてください。

また、医療機関側が本製品の使用を認めた区域でも、近くで医療機器が使用されている場合には、本製品の電源を切るか2.4GHzワイヤレスLAN機能をオフにしてください。詳しい内容については、各医療機関にお問い合わせください。

現在各航空会社では、航空機の飛行状態などに応じて、機内での無線機器・電子機器などの使用を禁止しており、本製品もその該当機器となります。電子機器に影響を与え、事故の原因となるおそれがありますので、機内では本製品の電源を切るか2.4GHzワイヤレスLAN機能をオフにしてください。詳しい内容については、各航空会社にお問い合わせください。

### ⚠ 注意



感電注意



けが注意

補聴器を装着されている方は、本製品の使用により、補聴器にノイズなどを引き起こす可能性がありますので、使用前に確認してください。

- ・通信速度や通信距離は、2.4GHzワイヤレスLAN対応機器や電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件によって異なります。
- ・電波の性質上、通信距離が離れるにしたがって通信速度が低下する傾向があります。より快適に使用するために、2.4GHzワイヤレスLAN対応機器同士は近い距離で使用することをおすすめします。

- ・電子レンジ使用中に、2.4GHzワイヤレスLAN対応機器の通信速度、通信距離が低下する場合があります。2.4GHzワイヤレスLAN対応機器と電子レンジは離して使用することをおすすめします。
- ・2.4GHzワイヤレスLAN対応機器とBluetooth™対応機器を同時に使用された場合、それぞれの機器の通信速度や通信距離が低下する場合があります。2.4GHzワイヤレスLAN対応機器とBluetooth™対応機器はいずれかをオフにするか、離して使用することをおすすめします。
- ・2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用したネットワークへの接続には、別売の無線LANアクセスポイントやレジデンシャルゲートウェイなどが必要です。
- ・2.4GHzワイヤレスLANとBluetooth™の両方が内蔵されているモデルの場合、2.4GHzワイヤレスLANとBluetooth™を同時に使用すると、それぞれの機器の通信速度、通信距離が低下する場合があります。その場合は、どちらかの機能をオフにしてください。2.4GHzワイヤレスLAN機能をオフにする場合は、「ワイヤレスネットワーク接続の状態」ウィンドウで「無効にする」ボタンをクリックしてください。Bluetooth™機能をオフにする場合の手順については、添付のマニュアル『Bluetooth™について』をご覧ください。

## 接続できる2.4GHzワイヤレスLAN製品

本製品と接続できる製品は、以下のとおりです(2001年11月現在)。

### レジデンシャルゲートウェイ

- ・PK-WL002H 無線LANアクセスポイント(11Mbps)

### 無線LANアクセスポイント

- ・PK-WL003 無線LANアクセスポイントN
- ・PK-WL005 無線LANアクセスポイントE
- ・PK-WL007 無線LANアクセスポイントS
- ・PC-WL20R1 Aterm WL20R
- ・PC-WB20R1 Aterm WB20R
- ・PC-WL30A1 Aterm WL30A
- ・PC-WL50T1 Aterm WL50T
- ・PC-WB50T1 Aterm WB50T
- ・PA-WB55TL1 Aterm WB55TL
- ・PA-WB45RL1 Aterm WB45RL
- ・PA-WB65DSL1 Aterm WB65DSL
- ・PA-WBR75H/B Aterm WBR75HワイヤレスLANベース

### ワイヤレスLAN周辺機器

- ・PK-WL001H 無線LANカード(11Mbps)
- ・PK-WL001 無線LANカード(11Mbps)
- ・PK-WL004 無線LAN USBボックス(11Mbps)
- ・PK-WL006 無線LAN(11Mbps)カードE
- ・PR-WL-11 無線LANプリンタボード
- ・PR-WL-01 無線LANプリンタアダプタ

## ワイヤレスLANモデル

・2001年7月以降出荷のLaVie、VersaProのワイヤレスLANモデル



メモ

その他の製品については、NECのホームページ「121ware.com( ワントゥワンウェアドットコム )」をご覧ください。

<http://121ware.com/>

## 2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン / オフ

2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン / オフには、次の方法があります。



メモ

ワイヤレススイッチで設定したオン / オフ状態は、電源を切ったあとも保存されています。



チェック

他の機器に影響をあたえる場合や2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用しない場合は、ワイヤレス通信機能をオフにすることをおすすめします。

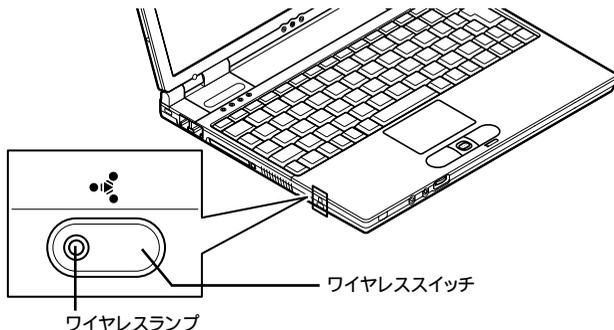
### ワイヤレススイッチで切り替える

ワイヤレススイッチを使って、2.4GHzワイヤレスLAN機能、Bluetooth™機能を含むワイヤレス通信機能全体のオン / オフを切り替えることができます。

2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン / オフの状態はワイヤレスランプ( ●●● )で確認することができます。

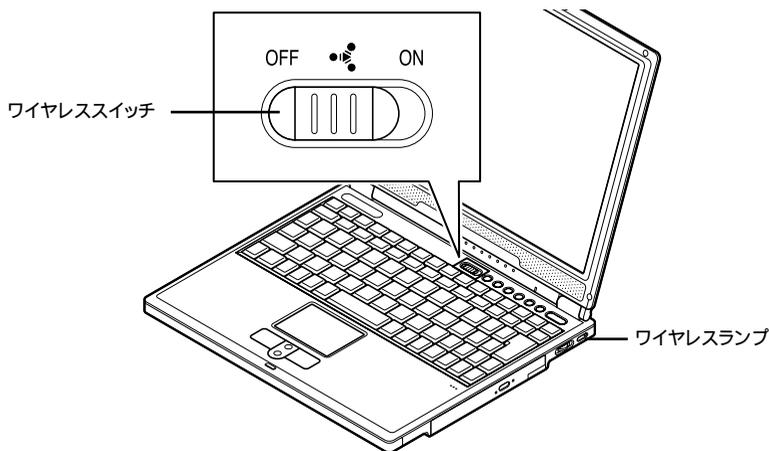
#### LaVie Jの場合

ワイヤレススイッチを押すごとにオン / オフが切り替わります。



## LaVie Mの場合

ワイヤレススイッチを右にスライドするとオンになり、左にスライドするとオフになります。



## 「ワイヤレスネットワーク接続の状態」ウィンドウで切り替える

この方法では、2.4GHzワイヤレスLAN機能のみのオン / オフができます。



### チェック

2.4GHzワイヤレスLAN機能のみのオン / オフはワイヤスランプで確認することができません。

### オフにする場合

「ワイヤレスネットワーク接続の状態」ウィンドウで「無効にする」ボタンをクリックする

### オンにする場合

- 1 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」 「通信」 「ネットワーク接続」をクリックする  
「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ワイヤレスネットワーク接続」アイコンをダブルクリックする

## 2.4GHzワイヤレスLANの設定を行う

2.4GHzワイヤレスLANへの接続のしかたや設定について詳しくは、「 ばそガイド」 「パソコンでできること」 「ワイヤレスLANの設定」をご覧ください。

# ADSLについて

## ADSLの特長

ADSL(Asymmetric Digital Subscriber Line(非対称デジタル加入者回線))とは、家庭にある一般の電話回線(アナログ回線)を使って、インターネットに高速で接続できるようにする技術です。ADSLには次のような利点があります。

- ・家庭にある一般の電話回線(アナログ電話回線)で利用できる(専用の回線が不要)
- ・アナログモデムやISDN回線(INSネット64)より高速で接続できる
- ・インターネットに常時接続でき、定額料金のため、いつでも好きなだけ利用できる(回線接続業者などとの契約内容による)
- ・一つの回線で電話とインターネットを同時に利用できる(「電話共用タイプ」の場合)

: ADSL回線使用中、FAXモデムボードにモジュラーケーブルを接続して、ダイヤルアップ接続をすることはできません。

ADSLを利用するためには、利用する地域がADSLサービスの提供区域内であることを確認してください。

また、ADSLの利用には、別売のADSLモデムが必要です。



メモ

- ・BIGLOBEでADSLをはじめの方は、Windowsのデスクトップの「カンタンADSL・ISDN」アイコンをダブルクリックして、BIGLOBEの入会ツール「カンタンADSL・ISDN」をご利用になると便利です。
- ・BIGLOBEのホームページにもADSLの情報が記載されています。

<http://www.biglobe.ne.jp/service/adsl/>

# Bluetooth™機能

ここでは、Bluetooth™モデルについての説明をしています。  
Bluetooth™機能を使うと、次のようなことができます。

- ・他のBluetooth™対応パソコンとのワイヤレス通信
- ・Bluetooth™対応周辺機器とのワイヤレス通信

Bluetooth™について詳しくは『Bluetooth™について』をご覧ください。



P A R T

# 3

## 周辺機器を使う

---

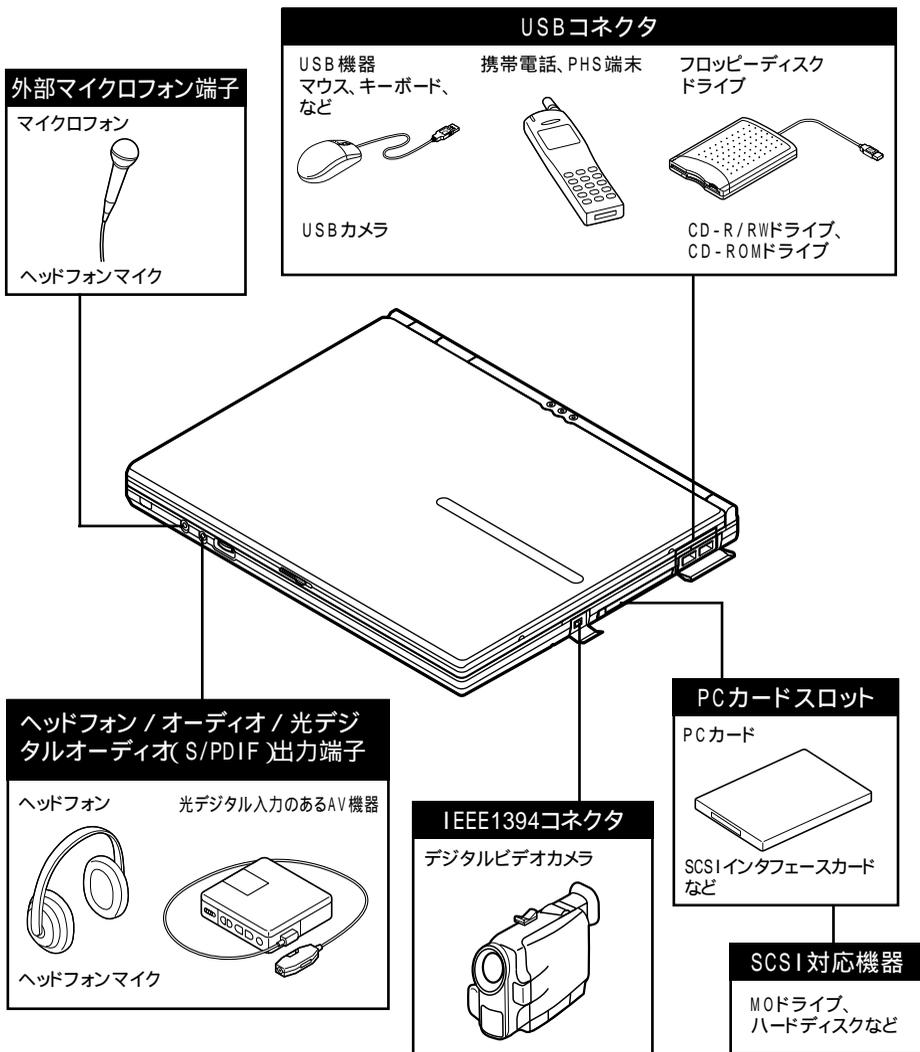
別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

---

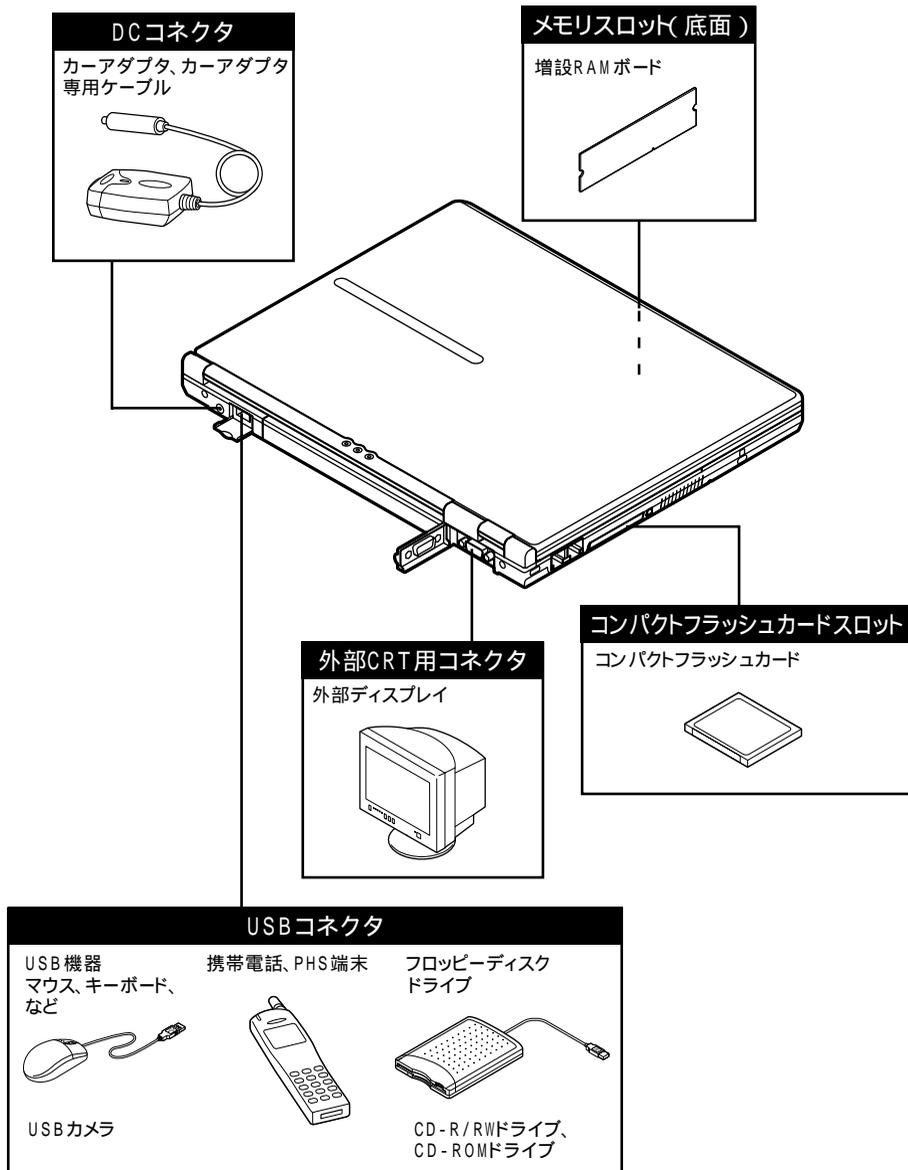
# このパソコンに接続できる周辺機器

LaVie J

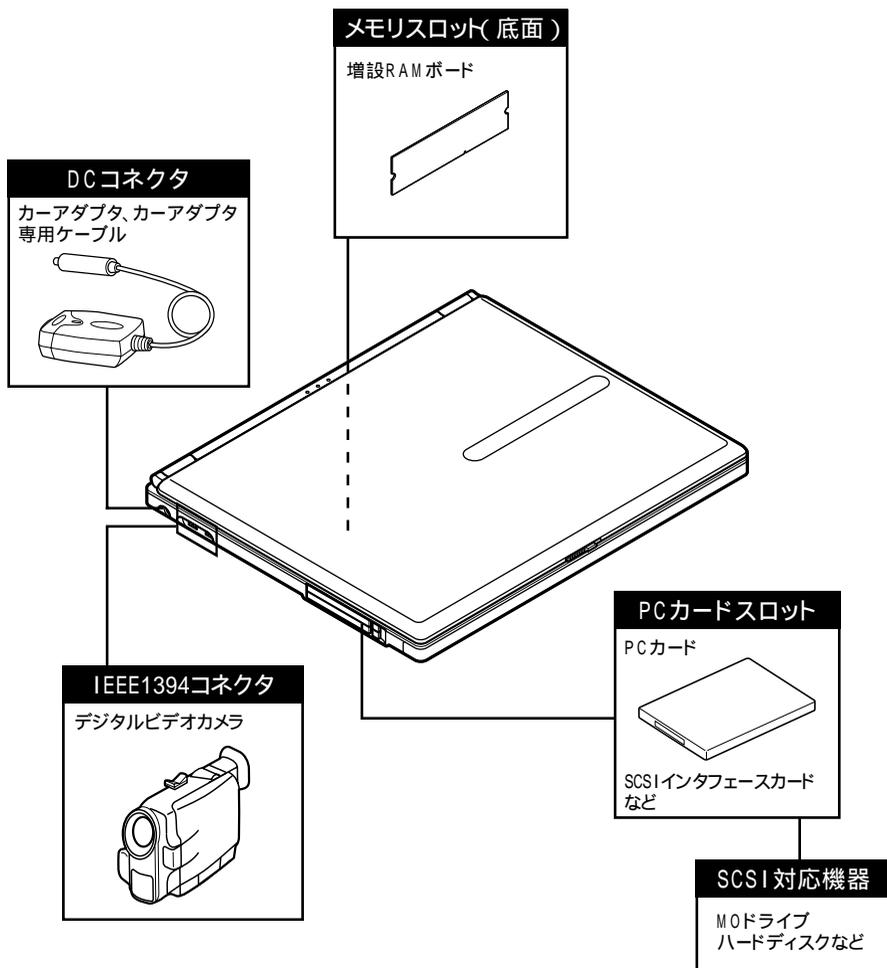
本体前面 / 右側面



本体背面 / 左側面



本体左側面 / 底面



本体背面 / 右側面

**USBコネクタ**

USB機器  
マウス、キーボード、  
など

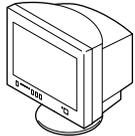
携帯電話、PHS端末



USBカメラ

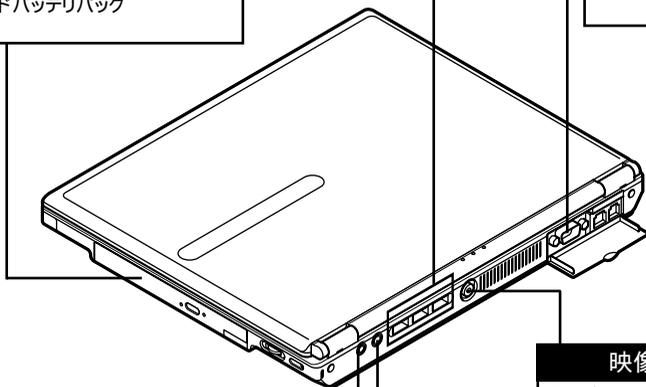
**外部CRT用コネクタ**

外部ディスプレイ



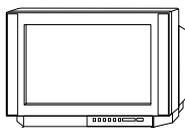
**ベイ**

CD-R/RWドライブ  
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ  
セカンドバッテリーパック



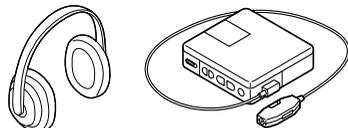
**映像出力端子**

テレビ



**ヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子**

ヘッドフォン 光デジタル入力のあるAV機器



ヘッドフォンマイク

**外部マイクロフォン端子**

マイクロフォン



ヘッドフォンマイク

# 周辺機器を接続する前に

## 周辺機器を利用する

プリンタや外部ディスプレイなど、パソコンに接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。このパソコンには、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています。

## 周辺機器を利用するときの注意

### ⚠ 警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

### ⚠ 注意



感電注意

周辺機器の取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

## 周辺機器の取り付け / 取り外し時の注意

- ・スタンバイ状態または休止状態の場合は、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。  
スタンバイ状態または休止状態の場合は、復帰させてデータを保存してから電源を切り、周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。
- ・別売の周辺機器を取り付ける場合は、その周辺機器がこのパソコンに対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がありますので、周辺機器の説明書などをよく読んで使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、周辺機器の製造元 / 発売元などに上記の事項を確認してください。
- ・周辺機器の取り付けや取り外しは、周辺機器の取扱説明書にしたがって正しく行ってください。
- ・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認して用意しておいてください。

## リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の周辺機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、次の手順でリソースが競合しないように変更してください。



参照

リソースについて PART5の「割り込みレベルとDMAチャネル」(p.177)



チェック

次の設定を行う場合は、コンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントでこのパソコンにログオンしてください。

- 1 起動しているアプリケーションをすべて終了する
- 2 「デバイス マネージャ」を開く ( p.vi )
- 3 **!** や **X** が表示されていて動作しない周辺機器のドライバをダブルクリックする
- 4 「プロパティ」ウィンドウで「リソース」タブをクリックし、「自動設定」の  をクリックして  にする

- 5 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選び、ダブルクリックする

「競合の情報」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。

- 6 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする

「競合するデバイス」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。



チェック

他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、変更不可のメッセージが表示された場合は、その値への変更はできません。



メモ

選んだ周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

- 7 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」ウィンドウで「OK」ボタンをクリックする

「変更不可の構成を作成しています」ウィンドウが表示されます。

- 8 「はい」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

- 9 「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。

---

## 周辺機器の電源を入れる / 切る順序

このパソコンに周辺機器を接続している場合は、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

電源を入れるとき

周辺機器    パソコン

電源を切るとき

パソコン    周辺機器

## 周辺機器の取り外しと再接続

周辺機器の中でも、USB対応機器、IEEE1394対応機器、PCカードなどは、パソコンの電源を入れたまま取り付け、取り外しができます。

ただし、画面右下の通知領域にが表示されている周辺機器は、正しい手順で取り外しを行わないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行う場合は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

- 1 画面右下の通知領域にあるをダブルクリックする  
「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウが表示されます。  
が表示されていない場合は、以降の手順は必要ありません。
- 2 取り外したい周辺機器名またはPCカード名をクリックして、「停止」ボタンをクリックする  
周辺機器名やPCカード名が表示されていない場合は、手順4へ進んでください。
- 3 「ハードウェア デバイスの停止」ウィンドウで取り外したい周辺機器名やPCカード名をクリックして「OK」ボタンをクリックする  
画面右下の通知領域に安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウを閉じる  
これで周辺機器またはPCカードを取り外すことができます。

同じ周辺機器を再接続する場合は、ドライバなどを再インストールする必要はありません。ただし、メッセージが表示されたり、画面が少しの間止まったように見えることがあります。メッセージが表示された場合はメッセージにしたがってください。画面が止まったように見える場合も機器の故障ではありません。しばらく待たば使用できます。

## 周辺機器をえるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバをパソコンにセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、パソコンと周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、ドライバと呼ぶこともあります。デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。



#### チェック

デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、パソコンの動作が不安定になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルにしたがって、再度デバイスドライバを正しくセットアップしてください。

#### 「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合

周辺機器を接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、周辺機器が使用可能な状態になります。



#### メモ

このパソコンにインストールされているWindowsには、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

#### 「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合

周辺機器を接続したあと、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、このパソコンやドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。



#### メモ

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

# プリンタ

3

周辺機器を使う

## プリンタを使う準備

プリンタを接続するには、別売のケーブルが必要です。お使いのプリンタに合わせてケーブルを用意してください。

プリンタによっては、接続するだけですぐ使えるものもあります。

プリンタを接続しても何も表示されない場合は、「スタート」ボタン「コントロールパネル」「プリンタとその他のハードウェア」「プリンタとFAX」で接続したプリンタのアイコンが表示されているか確認してください。接続したプリンタのアイコンが表示されている場合は、すぐにプリンタを使うことができます。

## USB対応のプリンタ

### 1 USB対応のプリンタを接続する



接続のしかた このPARTの「USB対応機器」(p.147)

### 2 プリンタ用のドライバや必要なアプリケーションをインストールする



インストールのしかた プリンタに添付のマニュアル

### 3 正しく接続できたかテスト印刷をして確認する

## プリンタを設定する

プリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに「スタート」ボタン「コントロールパネル」「プリンタとその他のハードウェア」「プリンタとFAX」で行います。たとえば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。詳しくは、お使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。



NEC製プリンタのMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズでPrintAgentをお使いの場合は、スタンバイ機能に対応していない場合があります。その場合は、「スタート」ボタン「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」の「電源設定」タブで「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

---

## ネットワーク上の共有プリンタを使うための設定をする

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

# マウス

## マウスを使用する

このパソコンでは、添付のUSBマウス(USBマウス添付のモデルを購入した場合)または別売のUSBマウスを使用することができます。

別売のマウスを使用する場合はマウスドライバの設定が必要です。また、マウスを使用する設定を行ったあとにNXパッドを使用する場合は、NXパッドを使用する設定に戻す手順が必要です。



参照

別売のマウスを使用する、NXパッドを使用する設定に戻す  「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「マウスの設定」

### 別売のマウスを設定するときの注意

マウスドライバの変更を行うとき、一時的にマウスやNXパッドなどのポインティングデバイスが使用できなくなる場合があります。その場合でもキーボードによる操作は可能ですので次の手順でWindowsを再起動してください。

キーボードを使って再起動する

- 1 **【 田 】**を押す
- 2 カーソル移動キーで「終了オプション」を選択し、**【 Enter 】**を押す
- 3 カーソル移動キーで「再起動」ボタンを選択し、**【 Enter 】**を押す

# 外部ディスプレイ

## CRTディスプレイを使う

このパソコンには別売のCRTディスプレイを接続することができます。CRTディスプレイの大画面を使った作業が可能になります。

### CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色



使用するCRTディスプレイによっては、表に記載されている走査周波数や解像度と異なる場合があります。CRTディスプレイを使用する場合は、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

#### LaVie Jの場合

表示解像度 (ドット)	水平走査 周波数(KHz)	垂直走査 周波数(Hz)	表示色	
			65,536色	1,677万色
800×600	37.9	60		
	46.9	75		
	53.7	85		
1,024×768	48.4	60		
	56.5	70		
	60.0	75		
1,280×1,024	64.0	60		
	80.0	75		
1,600×1,200	75.0	60		

:表示可能

:表示不可

## LaVie Mの場合

表示解像度 (ドット)	水平走査 周波数(KHz)	垂直走査 周波数(Hz)	表示色	
			65,536色	1,677万色
800×600	37.9	60		
	46.9	75		
	53.7	85		
1,024×768	48.4	60		
	56.5	70		
	60.0	75		
1,280×1,024	64.0	60		
	80.0	75		
	91.1	85		
1,600×1,200	75.0	60		
	93.8	75		

:表示可能

:表示不可

:高(24ビット)のみ表示可能

## CRTディスプレイを接続する

- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る
- 2 ディスプレイ用ケーブルをパソコンの外部CRT用コネクタ(回覧 p.3、5)に差し込み、ネジを回して固定する
- 3 CRTディスプレイの電源ケーブルを、電源コネクタに差し込む  
詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。  
CRTディスプレイを接続した場合、パソコンはACアダプタで使用してください。

## プロジェクタを使う

このパソコンの外部CRT用コネクタ(  )には、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。別売の液晶プロジェクタを使用する場合は、プロジェクタのマニュアルを参考に、して表示解像度などを確認してください。



参照

プロジェクタとの接続のしかた プロジェクタのマニュアル

## テレビを使う(LaVie Mのみ)

パソコンにテレビを接続すると、パソコンの画面やDVD VIDEOディスクの再生画面をテレビに出力することができます。

「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切ってから、パソコンの映像出力端子(  p.5 )に市販のビデオケーブルを接続して、ビデオ入力端子付きのテレビと接続してください。

## 表示するディスプレイを切り替える

別売のCRTディスプレイやテレビなどが接続されている場合は、キーボードを使って画面の出力先を切り替えることができます。

### 1 【Fn】を押したまま【F3】を押す

キーを押すごとに、「このパソコンの液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示」「テレビ」「このパソコンの液晶ディスプレイ」「CRTディスプレイ」の順に画面の出力先が切り替わります。



メモ

「テレビ」への出力は、テレビが接続されている場合のみ切り替わります(LaVie Mのみ)。



チェック

- ・ビデオCDやDVD VIDEOディスクの動画再生中は、画面の切り替えを行わないでください。
- ・外部ディスプレイ接続時は、液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイ状態や休止状態にできません。
- ・ビデオ再生時ば「プライマリ」に設定されているデバイスでのみ表示可能となります。

## 複数のディスプレイに同時表示する

パソコンの液晶ディスプレイと接続した外部ディスプレイの両方に、同時に画面を表示することができます。この場合、同じ画面が2つのディスプレイに表示されます。



参照

同じ画面を2つのディスプレイに同時表示する  『ばそガイド』の「パソコンでできること」の「画面の設定」



チェック

LaVie Mをお使いの場合、液晶ディスプレイとテレビは同時に表示することはできません。

## 外部ディスプレイを接続するときの注意

外部ディスプレイを接続したときに、画面に何も表示されなくなってしまう場合があります。その場合は、『困ったときのQ&A』PART2の「ディスプレイ」をご覧ください。設定を行ってください。

# PCカード

## 使用できるPCカードの種類

- ・このパソコンではPC Card Standard準拠のPCカードが使用できます。
- ・LaVie Mをお使いの場合は、TYPE AかTYPE BのPCカードを上下のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE BのPCカードを使用できます。LaVie Jをお使いの場合は、TYPE AかTYPE BのPCカードを1枚使用できます。
- ・このパソコンでは、CardBus対応のPCカードを使用できます。LaVie Mをお使いの場合は、スロット0またはスロット1の両方で同時に使うことができます。

## PCカードを使用するときの注意

- ・PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。
  - 高温多湿あるいは低温の場所に放置しない
  - 濡らさない
  - 重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしない
  - ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えない
  - PCカードの端子部分に金属などを差し込まない
- ・PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

## PCカードのセットのしかたと取り出しかた

### △注意



高温注意

本機の使用時や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れに注意してください。

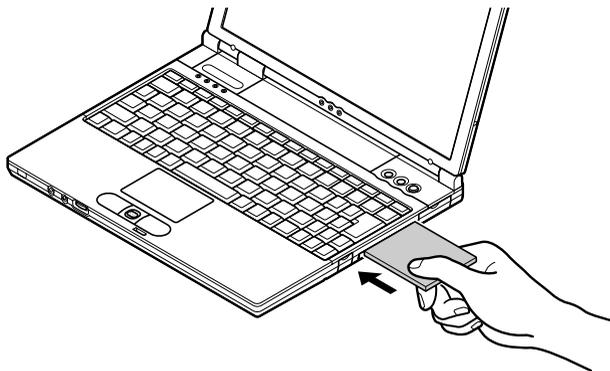
## PCカードをセットする / 取り出すときの注意

- ・ PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・ スタンバイ状態または休止状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。パソコンの機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
- ・ アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

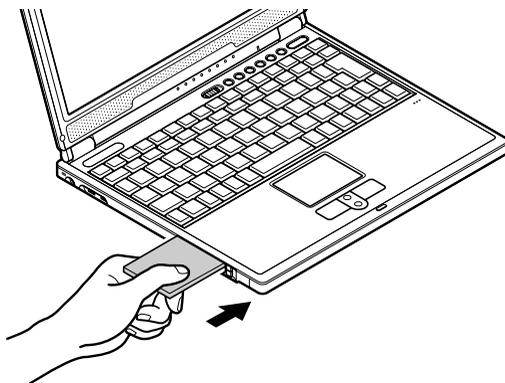
## PCカードをセットする

PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、PCカードスロットに水平に静かに差し込んでください。

- ・ LaVie Jの場合



- ・ LaVie Mの場合





メモ

PCカードスロットにPCカードをセットすると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用するメディアによって異なります)。

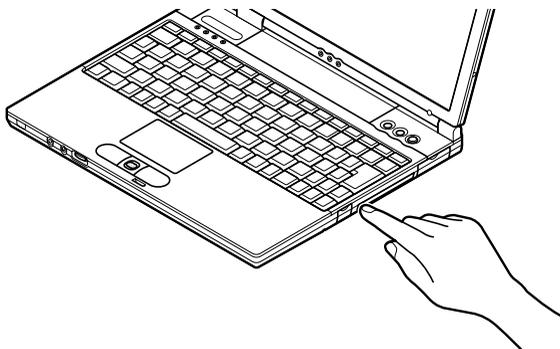
このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上の☒をクリックしてください。

## PCカードを取り出す

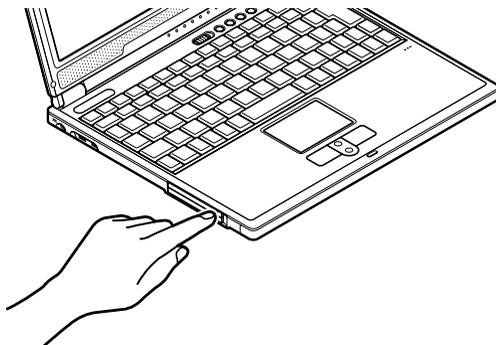
PCカードを取り出す場合は、必ず次の手順で取り出してください。

- 1 「周辺機器の取り外しと再接続」( p.119 )の手順1～4を行う
- 2 本体のPCカードイジェクトボタンを押す

・LaVie Jの場合



・LaVie Mの場合



イジェクトボタンが手前に飛び出します。

**3** もう一度、イジェクトボタンをカチッと音がするまで押す  
PCカードが少し飛び出します。

**4** PCカードを水平に静かに引き抜く

---

### PCカードの割り込みレベルを設定する

PCカードによっては、割り込みレベルの設定がパソコンの他の設定と重なってしまう場合があります。PART5の「割り込みレベルとDMAチャネル」( p.177 )やPCカードのマニュアルをご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。



参照

割り込みレベルの設定を変更する 「リソースの競合について」( p.117 )

# コンパクトフラッシュカード (LaVie Jのみ)

## コンパクトフラッシュカードについて

コンパクトフラッシュカードは、小型のメモ리카ードの規格の一部で、デジタルカメラなどの記憶メディアとして利用されています。

このパソコンではTYPE 1のコンパクトフラッシュカードを1枚使用できます。

## コンパクトフラッシュカードのセットのしかたと取り出しかた

### △注意



高温注意

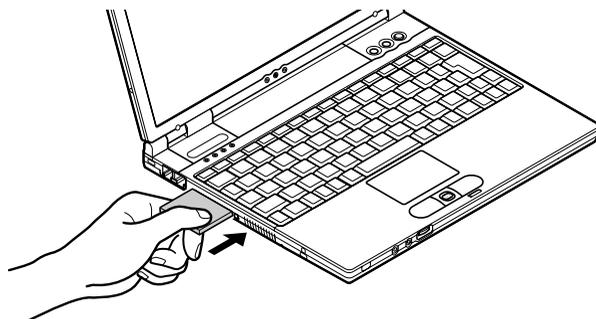
本機の使用時や使用直後はコンパクトフラッシュカードが熱くなっていますので、出し入れに注意してください。

## コンパクトフラッシュカードをセットする / 取り出すときの注意

コンパクトフラッシュカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。

## コンパクトフラッシュカードをセットする

コンパクトフラッシュカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、コンパクトフラッシュカードスロットに水平に静かに差し込んでください。





メモ

コンパクトフラッシュカードスロットにコンパクトフラッシュカードをセットすると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用するメディアによって異なります)。

このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上のをクリックしてください。

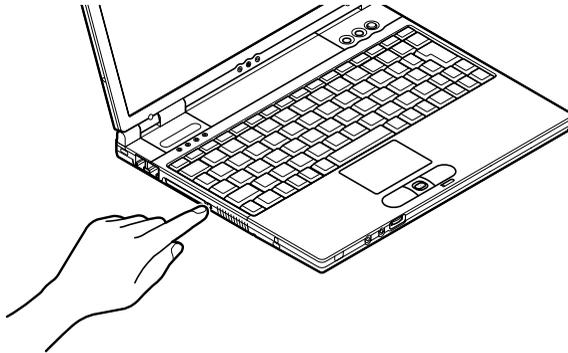
3

周辺機器を使う

## コンパクトフラッシュカードを取り出す

コンパクトフラッシュカードを取り出す場合は、必ず次の手順で取り出してください。

- 1 「周辺機器の取り外しと再接続」( p.119 )の手順1～4を行う
- 2 本体のコンパクトフラッシュカードイジェクトボタンを押す



イジェクトボタンが手前に飛び出します。

- 3 もう一度、イジェクトボタンをカチッと音がするまで押す  
コンパクトフラッシュカードが少し飛び出します。
- 4 コンパクトフラッシュカードを水平に静かに引き抜く

# メモリ

## メモリを増設する

別売の増設RAMボードを取り付けてメモリを増やすことで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

このパソコンでは、次の増設RAMボードが使用できます。

### LaVie Jの場合

型名	メモリ容量
PK-MM133SD128	128Mバイト
PK-MM133SD256	256Mバイト
PK-MM133SD512	512Mバイト

### LaVie Mの場合

型名	メモリ容量
PK-UG-M024	64Mバイト
PK-UG-M025	128Mバイト
PK-UG-M026	256Mバイト

## 増設RAMボードを取り扱うときの注意

### ⚠注意



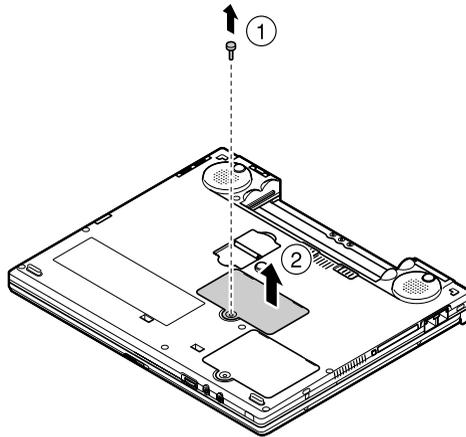
増設RAMボードの取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリーパックを取り外してください。電源コードやバッテリーパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

- ・増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- ・増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- ・増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、パソコンのコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

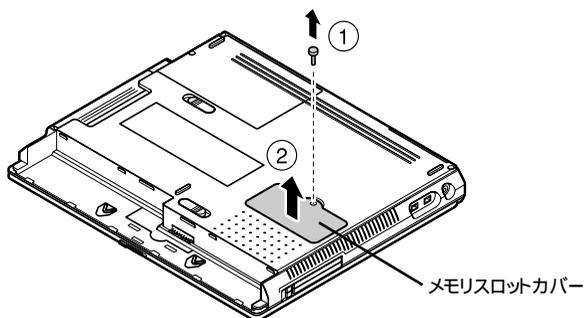
## 増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた

### 増設RAMボードを取り付ける

- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す
- 4 バッテリーパックを取り外す( p.59、61 )
- 5 図のネジをプラスドライバーで取り外し、メモリスロットカバーを取り外す  
・LaVie Jの場合



・LaVie Mの場合



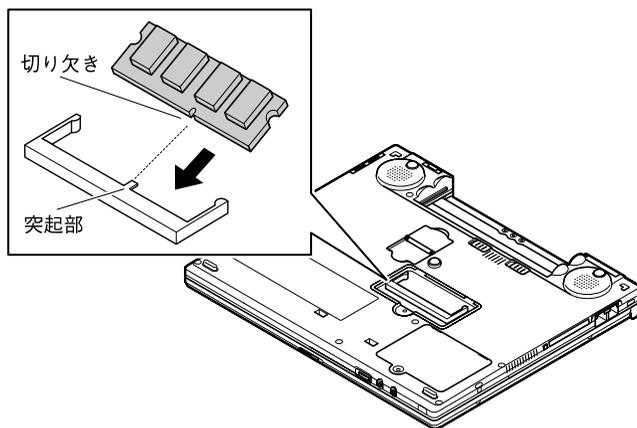
- 6** 増設RAMボードの切り欠き部分を本体コネクタの突起部に合わせ、コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する  
増設RAMボードが奥まで挿入できている場合は、端子部分(金色)のほとんどが、本体のコネクタに差し込まれた状態になります。



チェック

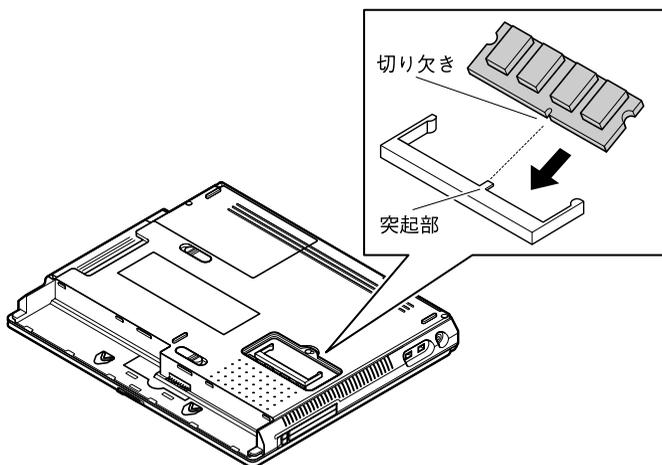
増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。

・LaVie Jの場合



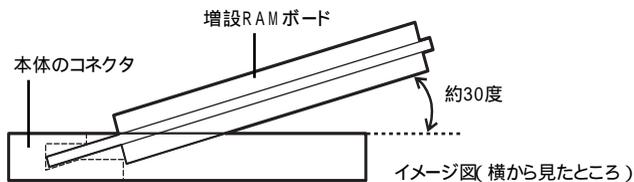
実物はイラストと多少異なる場合があります

・LaVie Mの場合



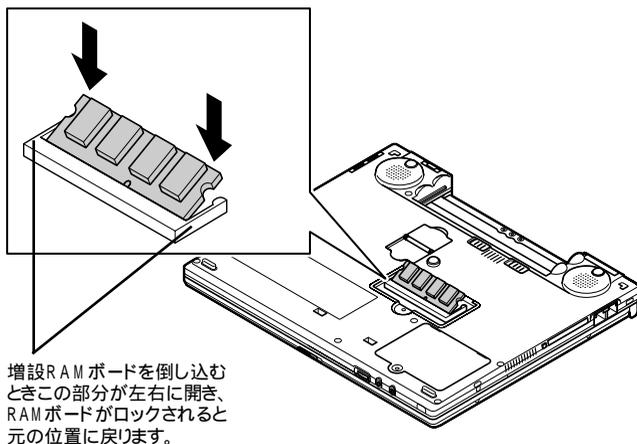
 チェック

挿入するときに、コネクタが固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

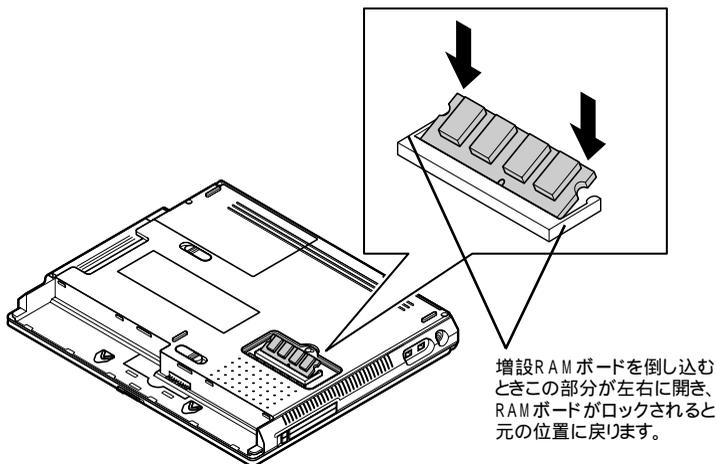


## 7 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをコネクタに強く倒し込む

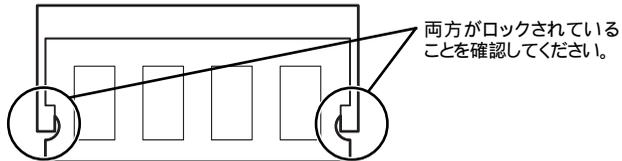
・LaVie Jの場合



・LaVie Mの場合



- 8 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認する  
正しくロックされている場合は、増設RAMボードが水平で、端子の金属部分(金色)が少し(1mm程度)見える状態です。



### チェック

確実にロックされていないと、本体のコネクタ部や増設RAMボードの故障の原因となります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。

- 9 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける
- 10 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」にしたがって、正しく増設できたかどうか確認してください。

## 増設したメモリ(RAM)の確認

増設したメモリがパソコンに正しく認識されているかどうかを確認します。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「システム」をクリックする  
「システムのプロパティ」ウインドウが表示されます。
- 2 「全般」タブで右下に表示されている、「××× MB RAM」の数値を確認する  
×××MBがこのパソコンの総メモリ容量です。

### メモ

システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

- ・増設RAMボードが正しく取り付けられているか
- ・このパソコンで使用できる増設RAMボードを取り付けているか

---

## ハードディスクの空き容量を確認する

このパソコンで休止状態の機能（ p.71 ）を使用する場合は、次の手順1～4の操作を行って設定を確認してください。増設したメモリ容量分、ハードディスクの空き容量が必要になります。

### 1 パソコンの電源を入れる



チェック

パソコンの起動直後にメッセージが表示されますが、動作上問題ありません。

- 2 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」をクリックする  
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

### 3 「休止状態」タブをクリックする

- 4 「休止のためのディスク領域」欄で、「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値よりも大きいことを確認する



チェック

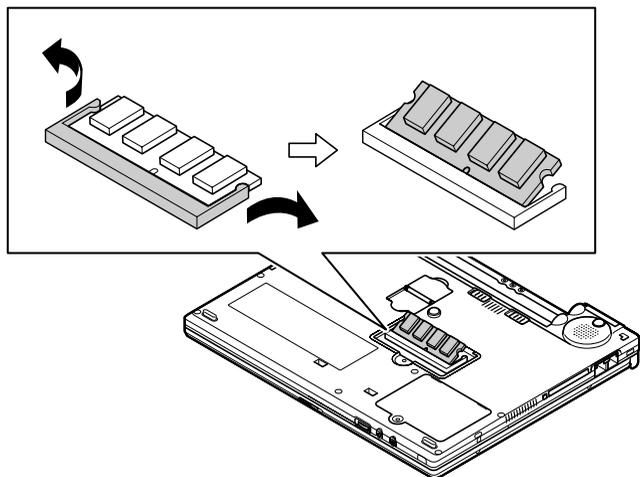
「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値より小さいと休止状態にできなくなります。このような場合は、不要なファイルを削除するなどしてディスクの空き領域を増やしてください。

---

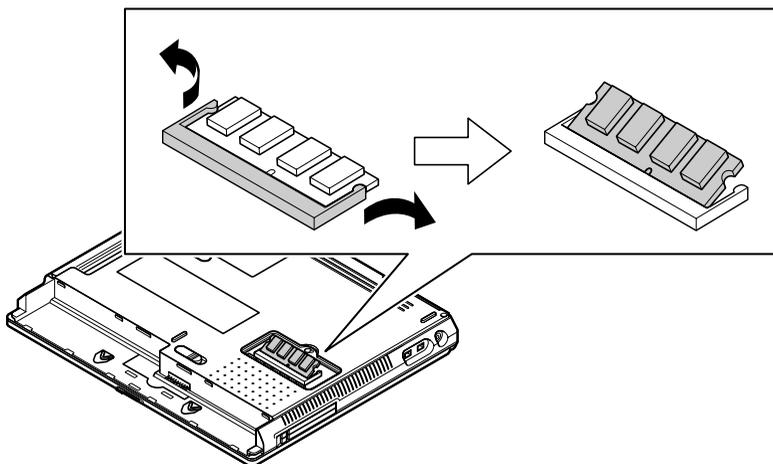
## 増設RAMボードを取り外す

- 1 「増設RAMボードを取り付ける（ p.135 ）の手順1～5にしたがって、メモリスロットのカバーを取り外す
- 2 メモリスロットのコネクタの両端部分を左右に押し広げる  
増設RAMボードが図のようにおきあがります。

・LaVie Jの場合



・LaVie Mの場合



- 3 起き上がった増設RAMボードをそのまま斜めに引き抜く
- 4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける
- 5 バッテリーパックを取り付ける

# IEEE1394対応機器

## IEEE1394コネクタについて

### IEEE1394とは

IEEE1394は、IEEE(米国電気電子技術者協会)で標準化された規格の一つで、パソコンと周辺機器のデータのやりとりを高速に行うことができるインターフェイスです。転送速度が速いので、動画などの容量の大きいデータもスムーズに転送することができます。

IEEE1394に対応している周辺機器には、デジタルビデオカメラやデジタルビデオデッキなどがあります。

### 接続する前に

- ・接続できる周辺機器は、IEEE1394コネクタでの入出力に対応している機器です。接続する機器にIEEE1394コネクタが搭載されているかを確認してください。IEEE1394コネクタは、DV端子などの別名で呼ばれていることもあります。詳しくは、販売店などで確認してください。
- ・このパソコンと、IEEE1394コネクタを搭載している周辺機器を接続する場合は、別売のケーブルが必要です。このパソコンのIEEE1394コネクタは4ピンです。ケーブルを購入する際は、接続する機器側のコネクタの形状も確認しておいてください。

## IEEE1394対応機器の接続のしかたと取り外しかた

### IEEE1394コネクタに機器を接続する

- 1 パソコンのIEEE1394コネクタ( p.2, 5 )にIEEE1394ケーブルのプラグを接続する

LaVie Mをお使いの場合はIEEE1394コネクタが2つあります。どちらのコネクタに接続してもかまいません。

#### チェック

接続するときには、プラグの向きに注意してください。間違った向きで無理に差し込もうとすると、コネクタやケーブルのプラグの故障または破損の原因となります。

## 2 ケーブルのもう一方のプラグを周辺機器に接続する

周辺機器との接続については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。



メモ

IEEE1394コネクタにIEEE1394対応機器を接続すると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用する周辺機器によって異なります)。

このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上のをクリックしてください。

### IEEE1394コネクタから機器を取り外す

IEEE1394対応機器によっては、機器を接続すると画面右下の通知領域にが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで行ってください。正しく取り外しを行わないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。「周辺機器の取り外しと再接続」(p.119)をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

### IEEE1394コネクタで取り込んだ映像を再生 / 編集する

IEEE1394コネクタを使って外部デジタルビデオ機器からパソコンに取り込んだ映像を、再生したり編集することができます。また、パソコンから外部デジタルビデオ機器に出力することもできます。



チェック

お客様が録画、録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、著作権者に無断で使用できません。



参照

- ・映像を取り込む、編集する VideoStudioのオンラインヘルプ、または「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「VideoStudio」
- ・映像を再生する 「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「Jet-Audio Player」 または「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「Jet-Audio Player」 「使い方マニュアル」
- ・映像をダビングする 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「SmartGallery」 「BusBrain 1.2 ヘルプ」

## IEEE1394コネクタでファイルを転送する

このパソコンのIEEE1394コネクタと別のパソコンのIEEE1394コネクタとを別売のIEEE1394接続ケーブルで接続すると、パソコン間でのファイルの転送ができるようになります。



### チェック

IEEE1394接続ケーブルは、接続先のコネクタ形状に合わせたケーブルを使用してください。

接続にはネットワークの設定が必要です。

ネットワークの設定をするには、「ネットワーク セットアップ ウィザード」を使います。「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」 「通信」 「ネットワーク セットアップ ウィザード」をクリックして設定を行ってください。

# ベイ(LaVie Mのみ)

## ベイで使用できる機器

このパソコンのベイでは、購入時に取り付けられている機器を取り外して、次の別売の機器を取り付けることができます。

- ・セカンドバッテリーパック(PC-VP-BP15)



### メモ

あらかじめ取り付けられている機器を取り外し、添付の拡張ベイカバーを取り付けることで、本体の質量を軽くすることができます。

## ベイの機器を交換する

ベイに取り付けられている機器を交換する場合は、パソコンの電源が切れている状態のときだけでなく、電源が入っている状態や、スタンバイ状態または休止状態のときに交換することもできます。



### チェック

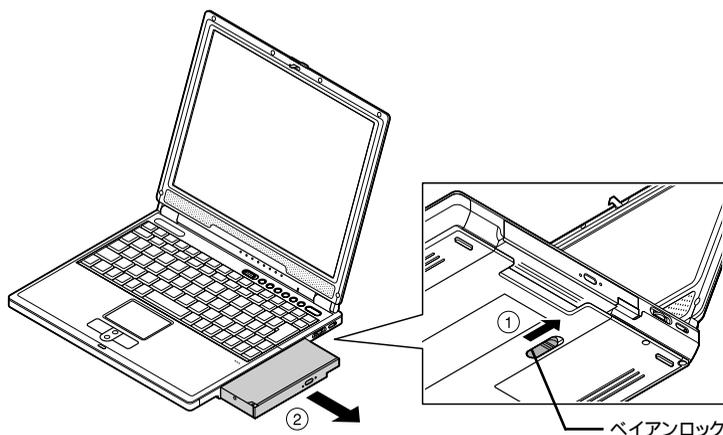
ベイの機器の取り付け / 取り外しにかかわらず、「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウには、「セカンダリIDEチャンネル」と表示されます。

## 電源が入っている状態で機器を交換する

電源が入っている状態で機器の交換をする場合は、必ず次の手順で行ってください。

- 1 「周辺機器の取り外しと再接続」( p.119 )の手順1～4を行う
- 2 本体の右側面を少し持ち上げる

- 3 本体底面にあるペイアンロックを、図のように矢印の方向にスライドさせたままの状態では機器を引き抜く



**チェック**

ペイから機器を取り外す際、液晶ディスプレイを開けて行うと、省電力機能の設定によってはスタンバイ状態や休止状態になることがあります。この場合でも機器を交換することができます。スタンバイ状態や休止状態での機器の交換については、「スタンバイ状態 / 休止状態 / 電源が切れている状態で機器を交換する」をご覧ください。

- 4 取り付ける機器をカチッと音がするまで差し込む  
機器を交換したあとは、持ち上げていた本体を静かに下ろしてください。

**チェック**

ペイに機器を取り付ける場合は、本体の右側面を高く持ち上げたりせずに、水平に近い状態にして機器を押し込んでください。本体の右側面を上にして、立てた状態で機器を落として取り付けたりすると、本体や機器の故障の原因となります。

### スタンバイ状態 / 休止状態 / 電源が切れている状態で機器を交換する

スタンバイ状態や休止状態、または電源が切れている状態で機器の交換をする場合は、Windowsでの設定は必要ありません。

「電源が入っている状態で機器を交換する ( p. 145 )」の手順2～4にしたがって機器を交換してください。

# USB対応機器

## USBコネクタについて

### USBとは

このパソコンにはUSB対応機器を取り付けるためのコネクタが3つあります。USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。USBコネクタはUSBポートと呼ぶこともあります。

現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

- ・マウス
  - ・プリンタ
  - ・イメージスキャナ
  - ・デジタルカメラ
  - ・キーボード
  - ・テンキーボード
  - ・携帯電話接続ケーブル
  - ・PHS接続ケーブル
  - ・ISDNターミナルアダプタ
- など



#### メモ

USB対応機器の、このパソコンでの動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧ください。各機器の発売元にお問い合わせください。

なお、NEC製のUSB対応機器の情報は、NECのホームページ「121ware.com (ワントゥワンウェア ドット コム)」をご覧ください。

<http://121ware.com/>

### 接続する前に

- ・機器によっては、接続する前や接続したあとに、ドライバのインストールや各種スイッチなどの設定が必要な場合があります。接続するUSB対応機器のマニュアルを読んで、接続する前に設定が必要な場合は設定を行ってください。また、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意しておいてください。
- ・USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できるので、接続前に電源を切る必要はありません。
- ・接続してすぐ使うことができるUSB対応機器もありますが、いくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

## USB対応機器を接続するときの注意

- ・ USB対応機器の抜き差しを行う場合は、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- ・ USBコネクタにプラグをすばやく差したり斜めに差したりすると、信号が読みとれずに不明なデバイスとして認識されることがあります。その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続しなおしてください。
- ・ はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、もう一度差し込んでみてください。  
なお、USB対応機器は一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけで、すぐに機器が使用可能になります。このとき画面には何も表示されませんが、故障ではありません。
- ・ スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中のときは、USBコネクタにプラグを抜き差ししないでください。
- ・ USB対応機器を接続した状態ではスタンバイ状態に移行できない場合があります。スタンバイ状態に移行する前に、USB対応機器を取り外してください。
- ・ USBハブ経由でUSB対応機器を使用するときは、USBハブをパソコンに接続してからUSB対応機器を接続するようにしてください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブをパソコンに接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。
- ・ USBマウス使用時にNXパッドを無効にしたい場合は、BIOSセットアップユーティリティの「詳細」メニューで、「NXパッド」の設定を「使用しない」に設定してください（ p.159、160 ）。
- ・ LaVie Jでは、USB2.0の転送速度を出すにはUSB2.0対応の機器を接続する必要があります。また、USB2.0の機器をUSB1.1のハブで利用した場合はUSB1.1の速度に制限されます。
- ・ LaVie JでUSB2.0の転送速度を利用する場合は、別途提供予定のドライバをインストールする必要があります。提供時期については、<http://121ware.com/> などをご覧ください。

## USB対応機器の接続のしかたと取り外しかた

### USB対応機器を接続する

- 1 パソコンのUSBコネクタ(  p. 2、3、5 )にプラグを差し込む  
このパソコンには複数のUSBコネクタがあります。どのUSBコネクタに接続してもかまいません。
- 2 接続したUSB対応機器がパソコンに正しく認識されたかどうかを確認する  
確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

### USBコネクタから機器を取り外す

USB対応機器によっては、機器を接続すると画面右下の通知領域に  が表示されます。このような機器の取り外しは、 をダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで行ってください。正しく取り外しを行わないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。「周辺機器の取り外しと再接続」( p. 119 )をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

# ヘッドフォン / オーディオ / 光デジタル オーディオ(S/PDIF)出力端子

## オーディオ機器やヘッドフォンの接続のしかた

このパソコンのヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子( p.2,5 )には、ヘッドフォンやデジタル入力を持ったオーディオ機器やヘッドフォンを接続することができます。

デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続する場合、市販の光デジタルケーブルを使用します。パソコン本体側の端子は光ミニ端子です。



### チェック

- ・ 機器によっては、デジタル入力端子が光デジタルではない場合があります。このような場合、別途、変換ユニットが必要になる場合があります。
- ・ このパソコンの光デジタル出力のサンプリングレートは48KHzです。デジタル入力のあるオーディオ機器を接続する場合、そのオーディオ機器が48KHzのサンプリングレートに対応している必要があります。オーディオ機器のマニュアルやカタログで確認するか、販売店、メーカーにお問い合わせください。



### メモ

ヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子には、通常のヘッドフォンやオーディオ機器も接続することができます。

## DolbyHeadphone機能を使う(LaVie Mのみ)

このパソコンには、DolbyHeadphone機能が搭載されています。このパソコンのヘッドフォン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子( Q/:卅 ) ( p.5 )に市販のヘッドフォンを接続すると、DVD VIDEOディスクの臨場感のあるデジタルサウンドを楽しむことができます。

Dolby,ドルビー, Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。非公開機密著作物。著作権1992 - 1999年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。



### 参照

Jet-Audio Playerの使いかた  「ばそガイド」 「パソコンでできること」 「Jet-Audio Player」 または「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「Jet-Audio Player」 「使い方マニュアル」

# その他の機器

## その他の周辺機器について

このパソコンでは、次のような別売の機器を使用することができます。

種類	機器
オーディオ機器	ヘッドフォン、マイクロフォン、オーディオ機器など
入力装置	マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど
通信機器	携帯電話、PHS、ターミナルアダプタなど

それぞれの周辺機器をパソコンのどのコネクタに接続するかは、周辺機器が使用しているインターフェイスによって異なります。また、周辺機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各周辺機器のマニュアルをご覧ください。

### チェック

スタンバイ状態または休止状態の場合は、周辺機器を接続したり、接続していた機器を取り外したりしないでください。パソコンの機器構成が変更されると、データが消えてしまうことがあります。

## DCコネクタ

添付のACアダプタを取り付けるコネクタです。

ACアダプタ以外にも、別売のカーアダプタを接続することができます。カーアダプタを使うと、車のシガーライターからバッテリーを充電することができます。カーアダプタを使用する場合には、カーアダプタ本体( PC-VP-WP05 )とカーアダプタケーブル( LaVie Mの場合はPC-VP-WP05-01、LaVie Jの場合はPC-VP-WP05-07 )の両方を用意する必要があります。

### チェック

- ・カーアダプタを接続する場合は、必ずパソコンの電源を切ってから接続してください。
- ・車が走行しているときにはパソコンの電源を入れないでください。振動 / 衝撃などによってパソコンが故障するおそれがあります。



## 4

# BIOS セットアップ ユーティリティ

---

セキュリティや省電力など、パソコンの使用環境の設定について説明します。設定方法を間違えると正しく動作なくなってしまうので、十分注意してください。また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

---

# BIOSセットアップユーティリティ

## BIOSセットアップユーティリティを使ってできること

BIOSセットアップユーティリティは、パソコンの使用環境を設定するためのものです。BIOSセットアップユーティリティを使うと次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・BIOSセットアップユーティリティで使用する言語の選択
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・セキュリティの設定
- ・起動デバイスの起動順位の設定

## BIOSセットアップユーティリティを使う

### BIOSセットアップユーティリティの起動とメイン画面

LaVie Jの場合

- 1 パソコンの電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を押す



チェック

BIOSセットアップユーティリティが表示されない場合は、いったん電源を切り、【F2】を押しながら電源を入れなおしてください。

次のようなメイン画面が表示されます。画面上では「PhoenixBIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ				
メイン	詳細	セキュリティ	起動	終了
	システム時刻: システム日付: 言語: ▶ 内蔵HDD	[hh:mm:ss] [yyyy/mm/dd] [日本語(JP)] [XXXXXMB]		項目ヘルプ 〈Tab〉キー、〈Shift+Tab〉キー、〈Enter〉キーは、項目を選択します。
	システムメモリ: 拡張メモリ: CPUタイプ CPU速度 BIOSバージョン	XXXXKB XXXXXXXXKB XXXXXXXXXX XXX MHz XXXXXXXXXX		
F1 ヘルプ Esc 終了	↑ ↓ 項目の選択 ← → メニューの選択	-/+ 値の変更 Enter ▶ サブメニューの選択		F9 デフォルトの設定 F10 保存して終了

## 1 パソコンの電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を押す



チェック  
BIOSセットアップユーティリティが表示されない場合は、いったん電源を切り、【F2】を押しながら電源を入れなおしてください。

次のようなメイン画面が表示されます。画面上では「PhoenixBIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ			
メイン	詳細	セキュリティ	起動 終了
システム時刻:	[hh:mm:ss]		項目ヘルプ <Tab>キー、<Shift+Tab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します。
システム日付:	[yyyy/mm/dd]		
言語:	[日本語(JP)]		
▶ 内蔵HDD	[XXXXMB]		
VersaBay	[CD/DVD]		
システムメモリ	XXXXKB		
拡張メモリ	XXXXXXKB		
CPUタイプ	XXX		
CPU速度	XXXXXX MHz		
BIOSバージョン	XXXXXXX		
F1 ヘルプ	↑↓ 項目の選択	F5/F6 値の変更	F9 デフォルトの設定
Esc 終了	←→ メニューの選択	Enter ▶サブメニューの選択	F10 保存して終了

## BIOSセットアップユーティリティの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【**↑**】でメニューを選び、【**↓**】で設定項目を選びます。
- ・設定内容の値は、【**F5**】**】**F6】で変更します。

## BIOSセットアップユーティリティを終了する

### 変更を保存して終了する

#### 1 【F10】を押す

セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。  
終了を中止したいときは【Esc】を押してください。

#### 2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。



メモ

- ・メニューバーの「終了」で「変更を保存して終了する」を選んでBIOSセットアップメニューを終了することもできます。
- ・変更を保存せずに終了したいときなどは、次の「メニューバーから終了する」で終了してください。

### メニューバーから終了する

【 F10 】でメニューバーの「終了」を選ぶと、以下のメニューが表示されます。

変更を保存して終了する

変更内容を保存してBIOSセットアップユーティリティを終了します。

変更を保存せずに終了する

設定値を保存せずにBIOSセットアップユーティリティを終了します。設定の変更を行った場合も、すべて無効にして終了します。

デフォルト値をロードする

すべての設定項目にデフォルト値を書き込みます。これによりBIOSセットアップユーティリティの設定値は購入時の状態に戻ります。

変更を取り消す

すべての設定項目に対して変更前の値を読み込みます。BIOSセットアップユーティリティは終了しません。

変更を保存する

変更値を保存します。BIOSセットアップユーティリティは終了しません。

## バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュはバッテリーの機能を回復させるための機能です。バッテリーリフレッシュの詳しい手順については、PART1の「バッテリー」の「バッテリーリフレッシュ」( p.54 )をご覧ください。

## 購入時の値に戻す

- 1 キーボードの【F9】を押す  
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す  
デフォルト値を読み込みます。
- 3 キーボードの【F10】を押す  
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す  
設定の変更を保存して終了します。



メモ

メニューバーの「終了」で「デフォルト値をロードする」を選んで購入時の値に戻すこともできます。

## 設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップユーティリティでどのような設定ができるかを説明しています。

表中の反転部分は、購入時の設定です。

## 「メイン」メニューの設定



チェック

内蔵HDDの設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合がありますので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定値	説明
システム時刻 (時:分:秒)	-	現在の時刻を「時:分:秒 (24時間形式)」で設定します。
システム日付	-	日付を西暦で設定します。
言語	English(US) 日本語(JP)	BIOSセットアップユーティリティで使用する言語を設定します。標準では「日本語(JP)」に設定されています。
内蔵HDD / VersaBay	-	現在接続されているIDEデバイスが表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すと設定画面が表示されます。表示できるのは「内蔵HDD」の項目のみです。【Esc】を押すとメイン画面に戻ります。
タイプ	自動 ユーザ CD/DVD なし	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。設定は変更しないでください。
32ビットI/O	使用しない 使用する	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。
システムメモリ	-	搭載されているシステムメモリ容量を表示します。
拡張メモリ	-	搭載されている拡張メモリを表示します。
CPUタイプ	-	CPUタイプを表示します。
CPU速度	-	CPU速度を表示します。
BIOSバージョン	-	BIOSのバージョンを表示します。

:LaVie Mのみ

## 「詳細」メニューの設定

## LaVie Jの場合

設定項目	設定値	説明
起動時のNum-Lock <sup>1</sup>	オン オフ	起動時にNum Lockをオンにするかを設定します。
NXパッド	使用する 使用しない	USBマウスを使用するときなど、NXパッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。
LCDパネルの拡張表示	オフ オン	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。「オン」に設定すると、LCDパネルの最大表示サイズ以下の表示画面では拡大されて表示されます。
ビデオメモリサイズ	8Mb 16Mb 32Mb	AGPビデオデバイスが使用するビデオメモリサイズを設定します。設定により使用可能な拡張メモリサイズも増減します。
セットアップ移行画面表示	非表示 <sup>2</sup> 表示	「表示」に設定すると、セットアップの移行画面に関するメッセージが表示されます。
セットアップ情報画面	使用しない 使用する	起動時にシステム設定状況を表示します。
サイレントブート	自己診断画面 □□画面 非表示 <sup>2</sup>	ブート時の画面を設定します。
USBレガシー機能 <sup>1</sup>	使用しない 使用する	「使用する」に設定するとUSBレガシー機能が有効になります。「使用しない」に設定すると、フロッピーディスクドライブからの起動ができなくなります。
USB動作モード	1.1モード 2.0モード	オプションを使用して、USB動作モードを設定します。
Intel(R)SpeedStep(TM)テクノロジー <sup>3</sup>	使用しない 使用する	「使用する」を選択するとIntel®SpeedStep™テクノロジーがOSやAppletにより制御され、システムは最適化された性能で動作します。「使用しない」を選択すると、常にバッテリー最適化性能で動作します。

1: Windowsでの設定が優先されるため、BIOSセットアップユーティリティでの設定は無効になります

2: BIOSセットアップメニューを起動する場合は、電源を入れたあと、1秒おきに【F2】を押すことを何度かくりかえしてください

3: モバイル インテル® Pentium® プロセッサを搭載しているモデルのみ

## LaVie Mの場合

設定項目	設定値	説明
NXパッド	<b>使用する</b> 使用しない	USBマウスを使用するときなど、NXパッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。
LCDパネルの拡張表示	オフ <b>オン</b>	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。「オン」に設定すると、LCDパネルの最大表示サイズ以下の表示画面では拡大されて表示されます。
セットアップ移行画面表示	非表示 <b>表示</b>	「表示」に設定すると、セットアップの移行画面に関するメッセージが表示されます。
セットアップ情報画面	<b>使用しない</b> 使用する	起動時にシステム設定状況を表示します。
サイレントブート	自己診断画面 <b>ロゴ画面</b> 非表示	ブート時の画面を設定します。
USBレガシー機能	使用しない <b>使用する</b>	「使用する」に設定すると、USBレガシー機能が有効になります。「使用しない」に設定すると、フロッピーディスクドライブからの起動ができなくなります。
Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジー	使用しない <b>使用する</b>	「使用する」を選択すると、Intel® SpeedStep™ テクノロジーがOSやAppletにより制御され、システムは最適化された性能で動作します。「使用しない」を選択すると、常にバッテリー最適化性能で動作します。

： BIOSセットアップユーティリティを起動する場合は、電源を入れた後、1秒おきに【F2】を押すことを何度かくりかえしてください

## 「セキュリティ」メニューの設定

### スーパーバイザパスワード設定

スーパーバイザパスワードの設定または変更を行います。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。



参照

パスワードの設定 PART1の「セキュリティ機能」(p.73)

### ユーザパスワード設定

ユーザパスワードの設定または変更を行います。

スーパーバイザパスワードを設定していないとユーザパスワードは設定できません。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。



参照

パスワードの設定 PART1の「セキュリティ機能」(p.73)

設定項目	設定値	説明
起動時のパスワード	<b>使用しない</b> 使用する	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。
ハードディスク起動セクタ	<b>通常動作</b> 書き込み禁止	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。

## 「起動」メニューの設定

Networkブート( LAN内蔵モデルのみ )

ネットワークからの起動が必要な場合、「使用する」に設定します。

通常は「使用しない」に設定しておいてください。

### 起動順位

起動するデバイスが優先順にしたがってリスト表示されます。

パソコンを起動するときには、表示順にOSを検索し、もしOSが存在しないなど起動に失敗した場合は、次に表示されているデバイスからパソコンを起動します。

### 起動デバイスの表示と順位の変更

デバイス名の左に + の表示があるデバイスにカーソルを合わせて【 Enter 】を押すと展開表示されます。

起動するデバイスを変更するには【 **X** 】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。

LaVie Mの場合、のキーと【 Shift 】を同時に押すとリストの上側に移動し、を押すとリストの下側に移動します。

LaVie Jの場合、【 Fn 】とのキーを同時に押すとリストの上側に移動し、【 Fn 】とを押すとリストの下側に移動します。

なお、ニューメリックロックキーランプ()が点灯しているときには前面に【 + 】【 - 】の刻印のあるキーでもリストの上下にカーソルを移動させることができます。

P A R T

# 5

## 付録

---

ここでは、このパソコンの機能に関連した補足情報を説明しています。

---

# 本体機能一覧

LJ700 / LJ500 / LJ300

型名	LJ700/2D	LJ500/2D	LJ300/2A
型番	PC-LJ7002D	PC-LJ5002D	PC-LJ3002A
CPU	低電圧版モバイル インテル® Pentium® プロセッサ-MLV 800MHz( 拡張版インテル® SpeedStep™テクノロジー搭載 )	低電圧版モバイル インテル® Celeron™ プロセッサ-LV 650MHz	
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ	512Kバイト( CPU内蔵 )	256Kバイト( CPU内蔵 )	
メモリ	ROM	512Kバイト( BIOSほか )	
	メインRAM	標準256Mバイト( システムバス133MHz対応 )	
		最大	768Mバイト( 別売の増設RAMボード( 512Mバイト ) を取り付けた場合 )
ビデオRAM	8/16/32Mバイト( メインRAMとシェア ) ( BIOSセットアップユーティリティで選択可能 )		
表示機能	表示素子 <sup>1</sup>	バックライト付12.1型 TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)	
	グラフィック アクセラレータ	VIA VT8606内蔵( ビデオアクセラレーション機能対応 ) 800×600ドット( 65536色 / 1677万色 )、1024×768ドット( 65536色 / 1677万色 )、 1280×1024ドット( 65536色 / 1677万色 ) <sup>2</sup> 、1600×1200ドット( 65536色 ) <sup>2</sup>	
	別売のCRT ディスプレイ接続時	800×600ドット( 65536色 / 1677万色 )、1024×768ドット( 65536色 / 1677万色 )、 1280×1024ドット( 65536色 / 1677万色 )、1600×1200ドット( 65536色 )	
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1886A搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵( ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/ 16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz ) 全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵( 拡張WAVE Table音源、WAVE Table音源最大64音 )	
	スピーカー・マイク	ステレオスピーカー	
	サラウンド	エンハンスト・ステレオ機能、3Dボジショナルサウンド	
通信機能	モデム	モデム内蔵( データ転送速度 最大56Kbps( V.90 )エラー訂正V.42/MNP4データ 圧縮V.42bis/MNP5 )	
	FAX	内蔵( データ転送速度 最大14.4Kbps( V.17 ) FAX制御クラス1 )	
	LAN	2.4GHzワイヤレスLAN内蔵、 LAN内蔵 ( 100BASE-TX/10BASE-T )	LAN内蔵( 100BASE-TX/10BASE-T )
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列( 英数・かな ) Fnキー( ホットキー対応 ) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・右Ctrlキー付	
	NXパッド	標準装備( スクロールスライドスイッチ付 )	

型名	LJ700/2D	LJ500/2D	LJ300/2A
型番	PC-LJ7002D	PC-LJ5002D	PC-LJ3002A
補助記憶装置	ハードディスク <sup>3</sup>	約40Gバイト	約30Gバイト
	CD-R/RWドライブ <sup>4 5</sup>	・LJ700、LJ500の場合：外付けCD-R/RWドライブ(USBインターフェイス読み込み最大6倍速(CD-ROM))、書き込み最大8倍速、書き換え最大8倍速 ・LJ300の場合 なし	
インターフェイス	ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15)、IEEE1394(4ピン)×1、USB×3		
サウンド関連	ヘッドフォン出力/ライン/光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力共用(ステレオ、ミニジャック/光ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック)マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V)		
ヘッドフォンマイク	ヘッドフォンマイク添付	なし	
PCカードスロット	TYPE ×1スロット PC Card Standard準拠、CardBus対応		
コンパクトフラッシュカードスロット	TYPE ×1スロット PC Card Standard準拠、CardBus対応		
パワーマネージメント	自動または任意設定可能		
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)		
バッテリー駆動時間 <sup>6 7</sup>	約2.3時間(最大約6.0時間)	約2.4時間(最大約6.3時間)	
バッテリー充電時間 <sup>7</sup> (オン/オフ時)	約3.0/3.0時間 (最大約6.5/6.5時間)		
電源	リチウムイオンバッテリー(DC14.8V、2,000mAh) <sup>8</sup> またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由 <sup>9</sup> )		
消費電力	約17W	約16W	
	内蔵オプション最大接続時約50W		
温湿度条件	5~35、20~80% <sup>10</sup> (ただし、結露しないこと)		
外形寸法	270(W)×222(D)×18.5~23.7(H)mm(突起部含まず)		
質量 <sup>7</sup>	約1.37kg	約1.35kg	

1: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。

2: パーチャルスクリーン表示

3: ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。0Sから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約40Gバイト」の場合は約37.17Gバイト、「約30Gバイト」の場合は約27.83Gバイト、「約20Gバイト」の場合は約18.57Gバイトと認識されます。

4: Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。

5: パッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。1~4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。

6: JEITAバッテリー動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。詳しい測定条件については、<http://121ware.com>をご覧ください。

7: 時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

8: バッテリーパックは消耗品です。

9: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全規格を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。

また、ウォールマウントプラグは125Vまでの、日本および米国の安全認定を取得しております。

10: 18~25、45~75%での使用を推奨。

## LG80JJ / LG65HJ

この項目は、お使いのモデルによって異なります。

型名	LG80JJ	LG65HJ	
CPU	低電圧版モバイル インテル® Pentium® プロセッサ-MLV800MHz (拡張版インテル®SpeedStep™テクノロジー搭載)	低電圧版モバイル インテル® Celeron™ プロセッサ-LV 650MHz	
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ	512Kバイト( CPU内蔵 )	256Kバイト( CPU内蔵 )	
メモリ	ROM	512Kバイト( BIOSほか )	
	メインRAM	256Mバイト / 384Mバイト / 512Mバイト	
		最大	512Mバイト( 別売の増設RAMボード(256Mバイト) を取り付けけた場合 )
ビデオRAM	8 / 16 / 32Mバイト( メインRAMとシェア ) ( BIOSセットアップユーティリティで選択可能 )		
表示機能	表示素子 <sup>1</sup>	バックライト付12.1型 TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)	
	グラフィックアクセラレータ	VIA VT8606内蔵( ビデオアクセラレーション機能対応 ) 800×600ドット( 65536色 / 1677万色 ) 1024×768ドット( 65536色 / 1677万色 ) 1280×1024ドット( 65536色 / 1677万色 ) <sup>2</sup> 、1600×1200ドット( 65536色 ) <sup>2</sup>	
	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット( 65536色 / 1677万色 )、1024×768ドット( 65536色 / 1677万色 )、 1280×1024ドット( 65536色 / 1677万色 )、1600×1200ドット( 65536色 )	
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1886A搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵( ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/ 16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz ) 全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵( 拡張WAVE Table音源( WAVE Table音源最大64音 ) )	
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ	
	サラウンド	エンハンスト・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド	
通信機能	モデム	モデム内蔵( データ転送速度 最大56Kbps( V.90 )エラー訂正V.42/MNP4データ 圧縮V.42bis/MNP5 )	
	FAX	内蔵( データ転送速度 最大14.4Kbps( V.17 ) FAX制御クラス1 )	
	携帯電話、PHS 接続ケーブル	なし / ケーブル添付 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信 / 9.6Kbps・28.8Kbps/パケット通信( DoPa ) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信 / 64Kbps/パケット通信( PacketOne ) PHS( NTTドコモ / アステル ):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信( PIAFS2.0 ) PHS( DDIポケット ):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信( PIAFS2.1 )	
	LAN	LAN内蔵( 100BASE-TX / 10BASE-T )	
	2.4GHzワイヤレス LAN機能	2.4GHzワイヤレスLAN内蔵 / なし	
	Bluetooth™機能	内蔵 / なし	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列( 英数・かな ) Fnキー( ホットキー対応 ) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・右Ctrlキー付	
	NXパッド	標準装備( スクロールスライドスイッチ付 )	
	マウス	USBマウス×1 / なし	

型名	LG80JJ	LG65HJ	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	なし / 外付3.5型USBフロッピーディスクドライブ×1	
	ハードディスク <sup>3</sup>	約40Gバイト / 約30Gバイト / 約20Gバイト	
	CD-ROMドライブ・ CD-R/RWドライブ <sup>4 5</sup>	外付けCD-ROMドライブ / 外付けCD-R/RWドライブ / なし ・外付けCD-ROMドライブ(USBインターフェイス)の場合: CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2(FORM1/2)、エンハンスドCD、PhotoCD(シングル/マルチセッション)、 CD-I Video、CD-TEXT、最大約6倍速 ・外付けCD-R/RWドライブ(USBインターフェイス)の場合: 読み込み最大6倍速(CD-ROM)、書き込み最大8倍速、書き換え最大8倍速	
インターフェイス	ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15)、IEEE1394(4ピン)×1、USB×3		
サウンド関連	ヘッドフォン出力 / ライン / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力共用(ステレオ、ミニジャック / 光ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック) マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V)		
ヘッドフォンマイク	ヘッドフォンマイク添付		
PCカードスロット	TYPE ×1スロット PC Card Standard準拠、CardBus対応		
コンパクトフラッシュ カードスロット	TYPE ×1スロット PC Card Standard準拠、CardBus対応		
パワーマネージメント	自動または任意設定可能		
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック (市販の盗難防止用ケーブルを使用)		
バッテリー駆動時間 <sup>6 7</sup>	約2.3時間(最大約6.0時間)	約2.4時間(最大約6.3時間)	
バッテリー充電時間 <sup>7</sup> (オン/オフ時)	約3.0 / 3.0時間 (最大約6.5 / 6.5時間)		
電源	リチウムイオンバッテリー(DC14.8V、2,000mAh) <sup>8</sup> またはAC100V±10%、50/ 60Hz(ACアダプタ経由 <sup>9</sup> )		
消費電力	約17W	約16W	
	内蔵オプション最大接続時約50W		
温湿度条件	5~35、20~80% <sup>10</sup> (ただし、結露しないこと)		
外形寸法	270(W)×222(D)×18.5~23.7(H)mm(突起部含まず)		
質量 <sup>7</sup>	約1.37kg	約1.35kg	

1: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。

2: バーチャルスクリーン表示

3: ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約40Gバイト」の場合は約37.17Gバイト、「約30Gバイト」の場合は約27.83Gバイト、「約20Gバイト」の場合は約18.57Gバイトと認識されます。

4: Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。

5: パッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。1~4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。

6: JEITAバッテリー動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。詳しい測定条件については、<http://121ware.com>をご覧ください。

7: 時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

8: バッテリーパックは消耗品です。

9: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全規格を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。また、ウォールマウントプラグは125Vまでの、日本および米国の安全認定を取得しております。

10: 18~25、45~75%での使用を推奨。

## LM500

型名	LM500/2D	
型番	PC-LM5002D	
CPU	モバイル インテル® Pentium® プロセッサ 850MHz( インテル®SpeedStep™テクノロジー搭載 )	
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト	
セカンドキャッシュメモリ	256Kバイト( CPU内蔵 )	
メモリ	ROM	512Kバイト( BIOSほか )
	メインRAM	標準256Mバイト( システムバス100MHz対応 )
		最大
ビデオRAM	4Mバイト	
表示機能	表示素子 <sup>1</sup>	バックライト付12.1型 TFTカラー液晶ディスプレイ( XGA )
	グラフィック アクセラレータ	ATI RAGE™ Mobility-CL標準搭載( ビデオアクセラレーション機能対応 ) 800×600ドット( 65536色 / 1677万色 )、1024×768ドット( 65536色 / 1677万色 )、 1280×1024ドット( 65536色 / 1677万色 ) <sup>2</sup> 、1600×1200ドット( 65536色 ) <sup>2</sup>
	別売のCRT ディスプレイ接続時	800×600ドット( 65536色 / 1677万色 )、1024×768ドット( 65536色 / 1677万色 )、 1280×1024ドット( 65536色 / 1677万色 )、1600×1200ドット( 65536色 )
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1886搭載
	PCM録音・再生機能	内蔵( ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/ 16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz ) 全二重化対応
	MIDI音源機能	内蔵( 拡張WAVE Table音源 WAVE Table音源最大64音 )
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド
	DolbyHeadphone機能	サポート
通信機能	モデム	モデム内蔵( データ転送速度 最大56Kbps( V.90 )エラー訂正V.42/MNP4データ 圧縮V.42bis/MNP5 )
	FAX	内蔵( データ転送速度 最大14.4Kbps( V.17 ) FAX制御クラス1 )
	LAN	LAN内蔵( 100BASE-TX/10BASE-T )
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列( 英数・かな ) Fnキー( ホットキー対応 ) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・右Ctrlキー付
	NXパッド	標準装備( スクロールボタン付 )

型名	LM500/2D
型番	PC-LM5002D
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ 外付3.5型USBフロッピーディスクドライブ×1 ハードディスク <sup>3</sup> 約30Gバイト CD-R/RW with DVD -ROMドライブ <sup>4</sup> 5 読み込み最大24倍速( CD-ROM )/8倍速( DVD-ROM ) 書き込み最大8倍速、書き換え最大8倍速
インターフェイス	ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15 ) IEEE1394(4ピン) ×2、USB×3、ビデオ出力
サウンド関連	ヘッドフォン出力 / ライン / 光デジタルオーディオ( S/PDIF )出力共用(ステレオ、ミニジャック / 光ミニジャック ) マイク入力( モノラル、ミニジャック ) マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms( バイアス2.5V )
ヘッドフォンマイク	ヘッドフォンマイク添付
PCカードスロット	TYPE ×2スロット( TYPE ×1スロットとしても使用可 ) PC Card Standard準拠、CardBus対応
パワーマネージメント	自動または任意設定可能
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック ( 市販の盗難防止用ケーブルを使用 )、スマートカード( 別売 )
バッテリー駆動時間 <sup>6</sup> <sup>7</sup>	約2.7時間( 最大約6.2時間 )
バッテリー充電時間 <sup>7</sup> ( オン / オフ時 )	約2.9 / 2.9時間 ( 最大約6.5 / 6.5時間 )
電源	リチウムイオンバッテリー( DC11.1V、4,000mAh ) <sup>8</sup> またはAC100V±10%、50/ 60Hz( ACアダプタ経由 <sup>9</sup> )
消費電力	約18W 内蔵オプション最大接続時約60W
温湿度条件	5～35、20～80% <sup>10</sup> (ただし、結露しないこと)
外形寸法	283(W)×238(D)×34.3(H)mm(突起部含まず)
質量 <sup>7</sup>	約2.13kg ( 拡張ベイカバー搭載時約1.89kg )

- 1: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
- 2: バーチャルスクリーン表示
- 3: ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。0Sから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約30Gバイト」の場合は約27.83Gバイトと認識されます。
- 4: Orange Book PartⅡ CD-R およびPartⅢ CD-RW に準拠。
- 5: パッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。1～4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。
- 6: JEITAバッテリー動作時間測定法( Ver.1.0 )に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。詳しい測定条件については、<http://121ware.com>をご覧ください。
- 7: 時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- 8: バッテリーパックは消耗品です。
- 9: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全規格を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。
- 10: 18～25、45～75%での使用を推奨。

# LG85JV

この項目は、お使いのモデルによって異なります。

型名		LG85JV
CPU		モバイル インテル® Pentium® プロセッサ 850MHz(インテル®SpeedStep™テクノロジー搭載)
	内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト
セカンドキャッシュメモリ		256Kバイト( CPU内蔵 )
メモリ	ROM	512Kバイト( BIOSほか )
	メインRAM	256Mバイト / 384Mバイト / 512Mバイト
		最大
ビデオRAM		4Mバイト
表示機能	表示素子 <sup>1</sup>	バックライト付12.1型 TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)
	グラフィック アクセラレータ	ATI RAGE™ Mobility-CL標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)
		800×600ドット(65536色 / 1677万色) / 1024×768ドット(65536色 / 1677万色) / 1280×1024ドット(65536色 / 1677万色) <sup>2</sup> / 1600×1200ドット(65536色) <sup>2</sup>
	別売のCRT ディスプレイ接続時	800×600ドット(65536色 / 1677万色) / 1024×768ドット(65536色 / 1677万色) / 1280×1024ドット(65536色 / 1677万色) / 1600×1200ドット(65536色)
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1886搭載
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz) 全二重化対応
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源 / WAVE Table音源最大64音)
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド
	DolbyHeadphone機能	サポート
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56Kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17) FAX制御クラス1)
	携帯電話、PHS 接続ケーブル	なし / ケーブル添付 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信 / 9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(DoPa) / cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信 / 64Kbpsパケット通信(PacketOne) / PHS NTTドコモ / アステル):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.0) / PHS(DDIポケット):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.1)
	LAN	2.4GHzワイヤレスLAN内蔵 / LAN内蔵(100BASE-TX / 10BASE-T) / LANカード添付 / なし
Bluetooth™機能		内蔵 / なし
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) / 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・右Ctrlキー付
	NXパッド	標準装備(スクロールボタン付)
	マウス	USBマウス×1 / なし

型名	LG85JV	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	なし / 外付3.5型USBフロッピーディスクドライブ×1
	ハードディスク <sup>3</sup>	約40Gバイト / 約30Gバイト
	CD-RWドライブ <sup>4 5</sup> / CD-R/RW with DVD-ROMドライブ <sup>4 5</sup>	・CD-R/RWドライブの場合: 読み込み最大24倍速、書き込み最大8倍速、書き換え最大8倍速 ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM) / 8倍速(DVD-ROM) 書き込み最大8倍速、書き換え最大8倍速
インターフェイス	ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15) IEEE1394(4ピン) ×2、USB×3、ビデオ出力	
サウンド関連	ヘッドフォン出力 / ライン / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力共用(ステレオ、ミニジャック / 光ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック) マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V)	
ヘッドフォンマイク	ヘッドフォンマイク添付	
PCカードスロット	TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応	
パワーマネジメント	自動または任意設定可能	
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)、スマートカード(別売)	
バッテリー駆動時間 <sup>6 7</sup>	約2.7~6.2時間(最大約6.2時間)	
バッテリー充電時間 <sup>7</sup> (オン/オフ時)	約2.9 / 2.9時間 (最大約6.5 / 6.5時間)	
電源	リチウムイオンバッテリー(DC11.1V、4,000mAh) <sup>8</sup> またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由 <sup>9</sup> )	
消費電力	約18W 内蔵オプション最大接続時約60W	
温湿度条件	5~35、20~80% <sup>10</sup> (ただし、結露しないこと)	
外形寸法	283(W)×238(D)×34.3(H)mm(突起部含まず)	
質量 <sup>7</sup>	約2.15kg (拡張ベイカバー搭載時約1.91kg)	

- 1: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
- 2: バーチャルスクリーン表示
- 3: ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約40Gバイト」の場合は約37.17Gバイト、「約30Gバイト」の場合は約27.83Gバイトと認識されます。
- 4: Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
- 5: バッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。1~4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。
- 6: JEITA/バッテリー動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。詳しい測定条件については、<http://121ware.com>をご覧ください。
- 7: 時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- 8: バッテリーパックは消耗品です。
- 9: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全規格を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。
- 10: 18~25、45~75%での使用を推奨。

# 内蔵FAXモデム

## 機能概要

項目	規格
CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイヤルパルス送出機能</li> <li>・リンガ検出機能</li> </ul>
モデムチップセット部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CPU直結パラレルアクセスによる高スループット               <ul style="list-style-type: none"> <li>V.90</li> <li>V.34</li> <li>V.32bis</li> <li>V.32、V.22bis、V.22、V.21</li> <li>V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正</li> <li>V.42bisおよびMNP5データ圧縮</li> </ul> </li> <li>・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度               <ul style="list-style-type: none"> <li>V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2</li> </ul> </li> <li>・HayesATコマンドセット準拠               <ul style="list-style-type: none"> <li>ATコマンド</li> <li>Sレジスタ</li> </ul> </li> <li>・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン</li> <li>・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択</li> <li>・フロー制御およびスピード・バッファリング</li> <li>・パラレル非同期データ</li> <li>・自動アンサー</li> <li>・トーンおよびパルスダイヤリング               <ul style="list-style-type: none"> <li>(DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)</li> </ul> </li> </ul>

## FAX機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM: 14400/12000bps QAM: 9600/7200bps DPSK: 4800/2400bps FSK: 300bps
送信レベル	-9 ~ -15dBm( 出荷時 -15dBm )
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド( CLASS 1 )

: 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

## データモデム機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps <sup>1</sup>
	受信 56000/54666/53333/52000/50666/50000/49333/48000/46666/ 46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/38666/38000/37333/ 36000/34666/34000/33333/32000/30667/29333/28000bps <sup>1</sup>
通信規格	ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	PCM: 56000/54666/54000/53333/52000/50666/50000/49333/48000/ 46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/38666/38000/ 37333/36000/34666/34000/33333/32000/30667/29333/28000bps
	TCM: 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/ 12000/9600bps
	QAM: 9600/7200bps
	DPSK: 4800/2400/1200bps
	FSK: 1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42 (LAPM)
	MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis
	MNP class5
送信レベル	-9 ~ -15dBm( 出荷時 -15dBm )
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 <sup>2</sup>

1: 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

2: ATコマンドについては、「ばそガイド」・「パソコンでできること」・「ATコマンド」をご覧ください。

## NCU機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル( 10/20PPS )
	トーンダイヤル( DTMF )
NCU形式	AA( 自動発信/自動着信型 )
制御コマンド	HayesATコマンド準拠
	EIA-578拡張ATコマンドAT( class 1 )

# 携帯電話 / PHS接続機能

携帯電話 / PHS接続機能は、携帯電話 / PHS接続ケーブルが添付の場合、または別売の携帯電話 / PHS接続ケーブルを別途購入された場合のみ使用できます。

## 個別仕様

種類	項目	規格
PHS (NTTドコモ / アステル) 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線( PHS後位16芯 )
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps( 実効値 )
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps( 実効値 )
PHS (DDIポケット) 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線( PHS後位12芯 )
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps( 実効値 )
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps( 実効値 )
携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線( PDC5式携帯電話端末後位16芯 )
	通信速度	9.6Kbps( データ通信 )9.6Kbps( パケット通信 )28.8Kbps ( パケット通信 )
cdmaOne 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線( CDMA方式携帯電話端末後位18芯 )
	通信速度	14.4Kbps( データ通信 ) 最大64Kbps( パケット通信 )

## 共通仕様

種類	規格
制御コマンド	ATコマンド
網制御機能	A A

: ATコマンドについては、「ばそガイド」-「パソコンでできること」-「ATコマンド」をご覧ください。

# 内蔵LAN

## 規格概要

項目	規格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時:100Mbps 10BASE-T使用時:10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時:UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時:UTPカテゴリ3または5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台 / ネットワーク
ステーション間距離 / ネットワーク経路長	100BASE-TX:最大約200m / ステーション間 10BASE-T:最大約500m / ステーション間 最大100m / セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA / CD方式

:リピータの台数など、条件によって異なります。

## 2.4GHzワイヤレスLAN

2.4GHzワイヤレスLANは2.4GHzワイヤレスLANモデルのみの機能です。

項目	規格
データ転送速度	11M/5.5M/2M/1M( bps ) 自動切替 ) <sup>1</sup>
準拠規格	ARIB STD-T66( 小電力データ通信システム規格 ) IEEE802.11b( 2.4GHzワイヤレスLAN標準プロトコル )
伝送方式	DS-SS方式
伝送距離	見通し約70m( アクセスポイントとの通信時 ) <sup>2</sup>
使用無線チャンネル	1 ~ 11ch
RF周波数帯域	2.4GHz帯全域( 2.4 ~ 2.4835GHz )
温湿度条件	温度: 5 ~ 35 湿度: 20 ~ 80%( 結露無きこと )

1: IEEE802.11b規格による速度( 理論値 )であり、実効速度とは異なります。

2: 通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、OSなどの使用条件によって異なります。

# 割り込みレベルとDMAチャンネル

## 割り込みレベルとDMAチャンネルについて

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャンネル」などがあります。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

### 割り込みレベル

「割り込みレベル(IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

#### LaVie Jの場合

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	10	ACPI用システム制御割り込み IEEE1394 USBホストコントローラ 内蔵LANインターフェイス <sup>1</sup> CardBusコントローラ
1	キーボード		
2	(空)		
3	(空)		
4	(空)		
5	内蔵FAXモデム サウンド	11	2.4GHzワイヤレスLAN <sup>2</sup>
		12	NXパッド
6	(空)	13	数値データプロセッサ
7	(空)	14	IDEコントローラ
8	システムクロック	15	(空)
9	USBホストコントローラ		
	CardBusコントローラ		

1: LAN内蔵モデルのみ

2: 2.4GHzワイヤレスLANモデルのみ

## LaVie Mの場合

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	8	システムクロック
1	キーボード	9	ACPI用システム制御割り込み
2	割り込みコントローラ	10	CardBusコントローラ
3	(空)		IEEE1394
4	(空)		内蔵LANインターフェイス <sup>1</sup>
5	アクセラレータ		2.4GHzワイヤレスLAN <sup>2</sup>
	内蔵FAXモデム サウンド USBホストコントローラ		11 (空)
		12	NXパッド
		13	数値データプロセッサ
6	(空)	14	IDEコントローラ(内蔵ハードディスク)
7	(空)	15	IDEコントローラ(ベイ用デバイス)

1:LAN内蔵モデルのみ

2:2.4GHzワイヤレスLANモデルのみ

## DMA チャンネル

「DMAチャンネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

DMA	インターフェイス
#0	(空)
#1	(空)
#2	(空)
#3	(空)
#4	DMAコントローラ

# 索 引

# 索引

## 英字

- 2.4GHzワイヤレスLAN ..... 103, 176
- ADSL ..... 108
- BIOSセットアップユーティリティ ..... 154
- Bluetooth™ ..... 109
- CATVインターネット ..... 102
- CD-R/RW with DVD-ROMドライブ .. iii,4
- CD-R/RWドライブ ..... iii,4,28
- CD-ROMドライブ ..... iii,30
- CD/DVDアクセスランプ ..... 9
- CD/DVDドライブ ..... iii,25
- CD/DVDプレーヤボタン ..... iii,4,43
- CDプレーヤボタン ..... iii,4
- CRTディスプレイ ..... 124
- DCコネクタ ..... 3, 5, 151
- DMAチャンネル ..... 178
- DolbyHeadphone ..... 150
- DVD VIDEOディスク ..... 41
- 【Fn】(エフエヌキー) ..... 14
- IEEE1394コネクタ ..... 2, 5, 142
- iモード機能付き携帯電話との連携 ..... 95
- Jet-Audio Player ..... 42
- LAN ..... 99, 175
- LAN用モジュラーコネクタ ..... 5, 100
- MACアドレス ..... 102
- MDへのダビング ..... 42
- NXパッド ..... 2, 4, 16
- PCカード ..... 128
- PCカードイジェクトボタン ..... 130
- PCカードスロット ..... 2, 5, 129
- PHS接続ケーブル ..... 90
- USB ..... 147
- USBカメラ ..... 85
- USBコネクタ ..... 2, 3, 5, 147

## あ行

- アクセスランプ ..... 9

- 【インターネット】ボタン ..... 7
- 映像出力端子 ..... 5, 126
- 液晶ディスプレイ ..... 2, 4, 45
- 音楽CDからのデジタル出力設定 ..... 79
- 音楽CDの再生 ..... 41
- 音量調節つまみ ..... 2, 4, 77

## か行

- 解像度 ..... 45
- 外部CRT用コネクタ ..... 3, 5, 125
- 外部ディスプレイ ..... 124
- 外部マイクロフォン端子 ..... 2, 5
- 画面回転機能 ..... 49
- 画面の調整 ..... 47
- キーボード ..... 2, 4, 11
- 輝度 ..... 47
- 起動順位の設定 ..... 162
- キャップスロックキーランプ ..... 10
- 休止状態 ..... 71
- 休止状態から復帰 ..... 72
- 強制オープンレバー ..... 40
- 共有プリンタ ..... 122
- クリックボタン ..... 16
- 携帯電話 / PHS接続機能 ..... 90, 174
- 携帯電話接続ケーブル ..... 90
- 携帯電話連携機能 ..... 95
- コンパクトフラッシュカードイジェクトボタン ..... 133
- コンパクトフラッシュカードスロット ..... 3, 132

## さ行

- サウンド機能 ..... 77
- サスペンド ..... 69
- 周辺機器 ..... 112, 116
- 周辺機器の取り外し ..... 119
- 省電力機能 ..... 67
- スーパーバイザパスワード ..... 74, 161
- スクロールロックキーランプ ..... 10
- スクロールスライドスイッチ ..... 17

スクロールボタン	17
スタンバイ状態	69
スタンバイ状態から復帰	72
スピーカ	4
スリープ状態	67
セカンドバッテリーパック	62, 63
セカンドバッテリーパック用接続端子	3, 64
セキュリティ機能	73
増設RAMボード	134

## た行

ダイヤル設定	92
ディスプレイストレッチ機能	48
ディスプレイの切り替え	126
データ通信	93
デバイスドライバ	119
デバイス マネージャ	vi
テレビ	126
テレビ電話	85
電源回復の設定	101
電源スイッチ	2, 4
電源ランプ	9
電話回線用モジュラーコネクタ	3, 5, 82
盗難防止用ロック	3, 5, 73
ドライバ	119

## な行

内蔵マイクロフォン	4
ニューメリックロックキーランプ	10
ネット簡単切替ツール	84

## は行

バーチャルスクリーン	48
ハードディスク	20
ハードディスク起動セクタへの ウイルス感染防止	73
ハイバネーション	71
パスワード	73

ばそガイド	v
バックアップ	20
バッテリー	51
バッテリーアンロック	3, 5, 59, 61
バッテリーリジェクトロック	3, 59
バッテリー残量の確認	52
バッテリー充電ランプ	9
バッテリーの充電	51
バッテリーパック	3, 5
バッテリーパック(LL)	62
バッテリーパックの交換	57
バッテリーリフレッシュ	54
パッド	16
ピープ音	77
光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能	77
非常時ディスク取り出し穴	32, 41
表示色	45
表示ランプ	2, 3, 4, 5, 8
復帰	72
プラグ&プレイ	120
プリンタ	121
プロジェクタ	126
フロッピーディスクアクセスランプ	24
フロッピーディスクイジェクトボタン	24
フロッピーディスクドライブ	21
ベイ	145
ベイアンロック	5, 146
ヘッドフォン / オーディオ / 光デジタル オーディオ(S/PDIF)出力端子	2, 5, 150
ヘッドフォンマイク	85
ホットキー機能	14
ボリュームコントロール	77

## ま行

マウス	123
マルチユーザー	vi
メール着信ランプ	9
【メール】ボタン	7

メモリ .....	134
メモリスロット .....	3, 5
メモリ容量の確認 .....	139
モードスイッチ .....	34
モデム .....	82, 172

#### や行

ユーザパスワード .....	74, 161
ユニバーサル管理アドレス .....	102

#### ら行

リソースの競合 .....	117
レジューム .....	72

#### わ行

ワイヤレススイッチ .....	3, 4, 106, 107
ワイヤレスランプ .....	3, 4, 10
割り込みレベル .....	177
ワンタッチスタートボタン .....	2, 4, 6

# 「パソコンガイド」を活用しよう

「パソコンガイド」は、添付アプリケーションの操作方法を知りたいときや、パソコンを使っていて困ったときなどに、どうしたらよいかを画面上で見ることができる電子マニュアルです。

1 デスクトップの「パソコンガイド」アイコン(  )をダブルクリックする  
パソコンガイドのメインメニュー画面が表示されます。

2 見たい項目をクリックする



## 用語集

パソコン関連の用語を説明しています。

## 検索

調べたい言葉や機能を入力して、パソコンガイドやWindowsのヘルプを検索できます。

パソコンガイドのメインメニュー画面

## 「BIGLOBE入会案内」

NECのおすすめプロバイダ、BIGLOBEへの入会についてご案内をしています。

## はじめてのパソコン

- ・ **パソコンのいろはを使ってみよう**  
Windowsの基本操作を、実際にパソコンを動かしながら学習できます。
- ・ **インターネットと電子メールをはじめよう**
- ・ **ワープロを使ってみよう**
- ・ **ファイルを整理してみよう**  
インターネットやメールをはじめるとき、文字入力やファイル整理について知りたいときなど、そんなときのためのガイドです。

- ・ **こんなときの操作集**  
Windowsの基本操作、インターネットやメールをするときに役に立つ情報をまとめています。
- ・ **トラブルの予防**  
パソコンのトラブルを未然に防ぐ方法を紹介しています。
- ・ **自動操作説明集**  
やってみたい操作について、自動的に操作して設定したり説明してくれます。

## パソコンを使いこなそう

- ・ **パソコンのできること**  
添付されているアプリケーションの概要や詳しい使いかたを説明しています。
- ・ **ここから広がるパソコン!**  
いろいろな機能を組み合わせて使う、より楽しいパソコンの使いかたを提案します。
- ・ **アプリケーションの追加と削除**  
添付アプリケーションの追加と削除の方法を説明しています。

## 困ったときのQ&A

- ・ **トラブル解決Q&A**
- ・ **インターネットのトラブル解決**  
トラブルが起きたときの対処法を説明しています。

## サービス&サポート

- ・ **NECのサービス&サポート**
- ・ **アプリケーションのサポート窓口**  
困ったときのサポートの窓口を紹介しています。

LaVie

# もっと知りたいパソコン



初版 2002年1月  
NEC  
P  
853-810028-290-A

PC98-**NX** SERIES

*LaVie*

LJ700・LJ500・LJ300・LM500